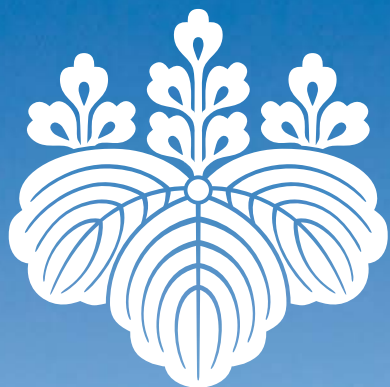


# 病院のご案内 2019



# University of Tsukuba Hospital Guide 2019



## “真”の機能強化を目指して —マグネットホスピタルの構築—

筑波大学附属病院長  
原 晃



筑波大学附属病院では、昨年度より特定機能病院としての機能強化を目指して、「マグネットホスピタル」をコンセプトに病院運営に取り組んで参りました。「よい医療を提供したい」という現場の声にこたえるべく、設備ならびに人員の積極的な投資を実施しています。今年度も引き続き「マグネットホスピタル」をコンセプトに、必要な投資を行いながら、患者さんや職員に選ばれる病院運営に取り組んで参ります。

さて、昨年度に県内の救急医療体制強化の一環として設置した「高次救急センター」は、地域の救急医療機関のご協力のもと順調に稼働しております。茨城県では、ドクターヘリを補完する目的で出動要請が重複した場合には防災ヘリを運航させる方針を固めており、こうした状況を背景に、一日も早く茨城県内の皆様が安心して救急医療を享受できるような体制整備を進めるべく、本院では2020年度を目標に「高度救命救急センター」に認定されるべく尽力致しております。

また、今年4月より、茨城県厚生農業協同組合連合会より寄附研究部門の設置要請を受け、「古河・坂東地域医療教育センター」を茨城県西南医療センター病院内に開設しました。地域医療センター／ステーションはこれまで茨城県内の9つの医療圏に11箇所開設しておりましたが、唯一空白であった古河・坂東医療圏にセンターを開設したことで、県内すべての二次医療圏にセンター／ステーションを整備することができました。本院の医師派遣を通じた地域医療貢献と研修環境の整備により、茨城県内の医療レベルが一層向上していくものと期待しています。

さらに、世界水準の臨床研究を推進するため、つくば臨床医学研究開発機構を軸とした「臨床中核拠点病院」の承認を目指し、本学が国際的研究開発拠点として日本の医療の発展に貢献することを目指して参ります。

今年度は、B棟改修が本格的に動き出し、患者さんや職員にやさしい病棟へと生まれ変わる予定です。加えて、患者さんの利便性を考慮したアメニティモールの建設もスタートし、来年4月の竣工を予定しています。一時的にご不便をおかけしますが、皆様のご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



### 執行部のご紹介

(下:左から)西山博之副病院長(研究)、山縣邦弘副病院長(総務、医療安全、災害、危機管理)、原晃附属病院長、小泉仁子副病院長(看護、患者サービス)、大原信病院長補佐(医療情報、経営戦略)、荒川義弘病院長補佐(T-CReDO)

(上:左から)三沼仁副病院長 特定(財務)、平松祐司副病院長(診療、国際)、玉岡晃副病院長 特定(評価)、川上康副病院長 特定(企画、PFI、再開発、施設)、前野哲博副病院長(教育)

良質な医療を提供するとともに、  
優れた人材を育成し、  
医療の発展に貢献します。

基本方針

安全で  
質の高い医療を  
提供します。

すべての職種が  
参画するチーム医療を  
推進し、地域社会との  
連携を図ります。

健康、医療に  
かかわる知識の  
普及に努めます。

医療の使命と  
責任を自覚し、  
豊かな人間性を有する  
優れた医療人を  
育成します。

疾病の研究と  
先進的な医療技術の  
開発を通して、  
国際社会に  
貢献します。

特長

高度に専門化された医師、看護師、技師の適切かつ統合的チーム診療を能率よく受けられるような体制の確立・維持及び優秀な臨床医の養成を目指しています。  
また、特定機能病院として高度医療の提供、高度医療に関する開発・評価及び研修を行うとともに、他の医療機関との間での患者の紹介等を通じて緊密に連携を図っています。



# CONTENTS

理念・基本方針・特長 2

目次 3

沿革 4

トピックス 6

組織図 10

医療連携患者相談センター 12

セカンドオピニオン外来のご案内 16

予約方法等一覧 19

診療科紹介 23

診療科・職員数 100

役職員 101

医療機関の指定承認状況 104

診療実績 106

建物配置図 110

アクセスマップ 111

## 本院はISO9001認証を取得・継続しています

ISO9001は顧客および組織の構成員・関係者の期待により良く応えるための組織運営手順の国際標準で、平成16年以後、本院はISO9001認証を継続しています。右記の認証マークは、本院の組織運営手順がISO 9001:2015規準に適合していることをBSIグループジャパン（認定審査登録機関）が認証したことを示します。ISO9001認証継続を通じ、本院は患者さま、院内職員および院外関係者の皆さんの期待により良く応えらえるよう病院運営を改善し続けます。



## 本院は病院機能評価の認定・更新をしています

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者が中立・公平な立場にたって、所定の評価項目に沿って病院の活動状況进行评估します。本院は、審査の結果、一定の水準を満たしている「認定病院」です。以下の認定を公益財団法人日本医療機能評価機構より受けています。

病院機能評価3rdG：Ver.1.1（平成29年11月10日更新）

- 主たる機能 一般病院 2（500床以上）
- 副機能 精神科病院



- 1975年(昭和50年) 4月 1日 ■ 附属病院創設準備室設置
- 1976年(昭和51年) 1月31日 ■ 病棟(B棟)竣工
- 3月27日 ■ 外来診療棟(A棟)、中央診療棟(C棟)竣工
- 5月10日 ■ 以下の部等を設置  
事務局に病院部(現 病院総務部)  
附属病院に15診療科、検査部、手術部、放射線部、材料部(現 物流センター)、薬剤部、看護部
- 10月 1日 ■ **附属病院開院**
- 1977年(昭和52年) 4月18日 ■ 第3内科、神経内科、脳神経外科設置  
救急部(現 救急・集中治療部)及び病歴部設置
- 6月15日 ■ 特殊診療棟(D棟)竣工
- 1981年(昭和56年) 3月20日 ■ 病棟(E棟)竣工
- 4月 1日 ■ 分娩部(現 総合周産期母子医療センター)設置
- 1982年(昭和57年) 4月 1日 ■ 理学療法部設置
- 1988年(昭和63年) 3月30日 ■ MR棟(F棟)竣工
- 5月25日 ■ 卒後臨床研修部(現 総合臨床教育センター)設置
- 1990年(平成2年) 6月 8日 ■ 集中治療部(現 救急・集中治療部)設置
- 1992年(平成4年) 4月10日 ■ 輸血部設置
- 12月15日 ■ 外来診療棟(A棟)増築竣工
- 1994年(平成6年) 3月22日 ■ MR棟(F棟)増築竣工
- 5月20日 ■ 光学医療診療部設置
- 1995年(平成7年) 4月 1日 ■ 病歴部の改組により医療情報部(現 医療情報経営戦略部)設置
- 1997年(平成9年) 4月 1日 ■ 病理部設置
- 1999年(平成11年) 2月15日 ■ (公財)日本医療機能評価機構より認定
- 2000年(平成12年) 4月 1日 ■ 理学療法部の改組によりリハビリテーション部設置
- 2001年(平成13年) 4月 1日 ■ 血液浄化療法部設置
- 9月 1日 ■ 陽子線医学利用研究センター新施設完成
- 2002年(平成14年) 4月 1日 ■ 臨床医療管理部設置
- 2003年(平成15年) 3月31日 ■ MR棟(F棟)増築竣工
- 4月 1日 ■ 医療福祉支援センター(現 医療連携患者相談センター)設置
- 2004年(平成16年) 2月15日 ■ (公財)日本医療機能評価機構の認定更新
- 3月 9日 ■ ISO9001:2000認証取得
- 4月 1日 ■ **国立大学法人化に伴い国立大学法人筑波大学附属病院に変更**  
中央診療施設、特殊診療施設が診療施設として統合  
病態栄養部新設
- 6月21日 ■ 経営戦略室設置
- 2005年(平成17年) 6月29日 ■ 茨城県より総合周産期母子医療センター指定
- 7月 1日 ■ 緩和ケアセンター設置
- 2006年(平成18年) 3月 2日 ■ 本学に筑波大学附属病院再開発推進室設置
- 9月25日 ■ (公財)日本医療機能評価機構の認定更新
- 2007年(平成19年) 2月 1日 ■ つくばヒト組織診断センター設置
- 3月 9日 ■ ISO9001認証更新
- 7月 1日 ■ 臨床腫瘍センター(現 総合がん診療センター)設置
- 2008年(平成20年) 2月 8日 ■ 地域がん診療連携拠点病院指定
- 4月 1日 ■ 外来化学療法室設置
- 7月 1日 ■ 医療機器管理センター設置
- 9月24日 ■ NPO法人卒後臨床研修評価機構より認定
- 2009年(平成21年) 4月 1日 ■ 水戸地域医療教育センター設置

- 2010年(平成22年) 2月12日 ■ ISO9001:2008認証更新
- 4月 1日 ■ ISO・医療業務支援部設置  
かさま地域医療教育ステーション設置
- 10月 1日 ■ 茨城県地域臨床教育センター設置
- 12月27日 ■ 放射線治療品質管理室設置
- 2011年(平成23年) 4月 1日 ■ ひたちなか社会連携教育研究センター、臨床研究推進・支援センター設置
- 2012年(平成24年) 4月 1日 ■ 感染管理部、日立社会連携教育研究センター、  
土浦市地域臨床教育ステーション(現 土浦市地域臨床教育センター)、  
北茨城地域医療教育ステーション設置、国際戦略総合特区推進室設置
- 6月18日 ■ 国際連携推進室設置(現 国際医療センター)
- 7月 1日 ■ 茨城県小児地域医療教育ステーション設置  
附属病院の英語表記名を「University of Tsukuba Hospital」に変更
- 9月10日 ■ いばらき治験ネットワーク設置
- 9月30日 ■ **新棟(けやき棟)竣工**
- 12月 1日 ■ ボランティア室設置
- 12月26日 ■ **新棟(けやき棟)供用開始**
- 2013年(平成25年) 1月 1日 ■ 小児総合医療センター、小児集中治療センター設置  
茨城県より小児救命救急センター指定
- 2月 1日 ■ 病床管理センター設置
- 2月 8日 ■ ISO9001:2008の認証更新
- 4月 1日 ■ 認知症疾患医療センター設置  
茨城県より認知症疾患医療センター(基幹型)指定  
陽子線医学利用研究センターに先端粒子線研究戦略室、中性子医学研究開発室設置
- 9月 1日 ■ つくば市バースセンター設置
- 10月 1日 ■ 臨床心理部設置
- 11月 1日 ■ つくばヒト組織バイオバンクセンター設置  
茨城県災害拠点病院指定  
(公財)日本医療機関評価機構の認定更新
- 2014年(平成26年) 1月 1日 ■ 未来医工融合研究センター設置
- 7月16日 ■ 取手地域臨床教育ステーション設置
- 10月 1日 ■ 陽子線治療センター設置
- 2015年(平成27年) 1月 1日 ■ リハビリテーション科設置
- 4月 1日 ■ 腫瘍内科、総合災害・救急マネジメント室設置
- 6月 1日 ■ つくば臨床医学研究開発機構設置
- 7月 1日 ■ 神栖地域医療教育センター設置
- 8月 1日 ■ 遺伝診療部設置
- 9月 1日 ■ 患者図書室「桐の葉文庫」開設
- 10月 1日 ■ つくばスポーツ医学・健康科学センター設置
- 2016年(平成28年) 4月 1日 ■ 茨城県災害・地域精神医学研究センター設置  
国際連携推進室から国際医療センターに改称
- 10月 1日 ■ つくば予防医学研究センター設置
- 2017年(平成29年) 4月 1日 ■ 脳卒中診療グループ設置  
品質・安全管理課設置
- 2018年(平成30年) 4月 1日 ■ 病院総合内科診療グループ設置  
高次救急センター設置  
難病医療センター設置  
合同茨城県西部地域臨床教育センター設置
- 2019年(平成31年) 4月 1日 ■ 診療グループを診療科に名称変更  
栄養サポートセンター設置  
抗菌薬適正使用支援センター設置  
古河・坂東地域医療教育センター設置

## ハイブリッド手術室の整備で質の高い医療を提供

近年、県内の脳卒中患者数が増加し続けたことにより、夜間の緊急治療件数も増加してきています。特に、脳梗塞に対する血栓回収療法は搬入時から90分以内の再開通がQOL維持のうえで重要となっています。また、難易度の高い疾患は治療も複雑となり、X線による透視時間も長時間化することから、患者さん及び術者の被ばくも問題となっていました。加えて、従来の施術場所がERと物理的に離れている当院の特性上、医師（麻酔科含む）・看護師等の移動時間が課題となっていました。

こうした状況に対応するため、当院では脳卒中科、脳神経外科、小児科、心臓血管外科の治療を対象に、昨年度よりけやき棟手術室内に、新たに最先端のバイプレーン血管造影撮影装置を導入しました。これにより、被ばくや造影剤使用量の大幅な低減、さらに付属するコーンビームCT機能を活用することで、患者さんの移動なく術中の繊細な骨・軟部組織等の画像を得ることができるようになり、高度なカテーテル治療が可能となりました。また、ERから手術室まで専用エレベータでスムーズに移動が実現されたことにより、麻酔科医師の移動負担が大幅に軽減され、医療スタッフの労働環境の体制改善が図られました。



## 脳卒中患者さんの早期社会復帰を目指して —SCU (Stroke Care Unit) 設置

本院では、昨年度よりけやき棟10階西病棟4床室2部屋（1005室、1006室）を6床室1部屋に改修して病棟内SCUとして整備し、運用を始めました。

SCUとはStroke Care Unitの略称で、急性期の脳卒中患者さんの治療を専門に行う病室・部署のことをいいます。脳卒中は、がん、心臓病、肺炎に次いで日本における死因の第3位を占め、「寝たきりの原因」の1位が脳卒中などの脳血管疾患です。

脳卒中は発症初期の早い治療が延命や早期回復・改善に効果があるとされており、当院では県内の脳卒中患者さんを24時間体制で受け入れ、適切な環境・ケアのもと患者さんの早期社会復帰に取り組んでいます。



## ドクターズ・アシスタントを 増員しています！

当院では、医師の業務負担軽減のために、医師に代わって事務作業や診療業務の補助を担う「ドクターズ・アシスタント」（医師事務補助作業員）を増員し、医師事務作業補助体制加算の体制を整えました。

幅広い知識を有するスタッフが42人体制【2019年4月1日現在】で、医師の指示の下に、診断書や診療情報提供書の作成代行、電子カルテの代行入力などの業務を行っており、皆様の診療がスムーズに行えるようサポートしています。



## さくらサイエンス交流事業に採択 —ブラジル・サンタクルス病院から医師3名が来日—

本院は、科学技術振興財団が運営する「さくらサイエンス交流事業」に昨年度より採択され、「ブラジルにおける陽子線治療導入に向けた共同研究」をテーマとし、協定病院であるブラジル・サンタクルス病院の医師3名が、本院の放射線腫瘍科、脳神経外科、消化器内科にて1か月の研修を行いました。

当該交流事業は、科学技術の分野で交流を深めることにより、日本の教育・研究機関のグローバル化を推進し、科学技術イノベーションに貢献しうる海外からの優秀な人材の育成と継続的な交流に寄与することを目的に実施されており、3年間継続実施されます。

今年度も同院より3名の医師が、本院の泌尿器科、眼科、消化器外科にて研修を行う予定です。

招聘期間中には、世界各国の教育機関が集結する本学主催の筑波会議が開催され、会議の参加・セッション発表も予定されています。

筑波会議のメインテーマは「Society 5.0とSDGsを見据えた目指すべき社会の在り方とその実現に向けて取り組むべき課題」であり、本交流事業が日本とブラジル両国の科学技術や医療技術、および更なる国際交流の端緒となることが期待されています。







## 看護師特定行為研修

### —チーム医療の中心的な存在となりうる看護師養成を目指して—

看護師特定行為とは、団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となる2025年に向けて、更なる在宅医療等の推進やチーム医療の促進ならびに医師の負担軽減等を目的に、2015年10月よりスタートした制度です。医師や歯科医師などと連携しながら、あらかじめ指定された手順書に従って特定行為を実施できる看護師を育成していきます。

筑波大学附属病院では、県内唯一の研修施設として2016年より看護師特定行為研修を開始し、これまでに40名（延べ54名）の修了生を輩出してきました。当院の研修では、創傷管理関連、腹腔ドレーン管理関連など12区分（20行為）の特定行為を習得することができます。今年度も茨城県内外の各医療機関から20名の看護師が入講し、専門的な技術や知識を用いて医療の第一線で活躍することが期待されています。

また、今年度からは、複数の研修項目を一度に受講できるパッケージ研修を開講予定で、効率的に必要な知識・技術を習得できる体制も整備予定です。



2019年4月入講式

## 第72回国立大学附属病院長会議総会を開催

平成30年6月21日（木）、22日（金）の2日間にわたり、「第72回国立大学附属病院長会議総会」が、筑波大学を当番校として開催され、厚生労働省、文部科学省をはじめとした、全国国立大学42大学45病院の病院長・事務部長ら総勢187名が出席しました。

当院の原晃病院長の議事進行のもと、「病院長会議の法人化について」や「国立大学附属病院関係の要望事項について」などの協議事項等について活発な議論が交わされたのち、国立大学病院を取り巻く状況に対して、地方・小規模大学を含めた多様な視点から議論することを目的にグループディスカッションが実施され、国立大学病院が直面する喫緊の課題である「新専門医制度」「働き方改革」「臨床研究支援体制」の3テーマについて、今後の解決に向けた方向性について議論を行いました。



テーマごとに分かれて実施したグループディスカッションの様子

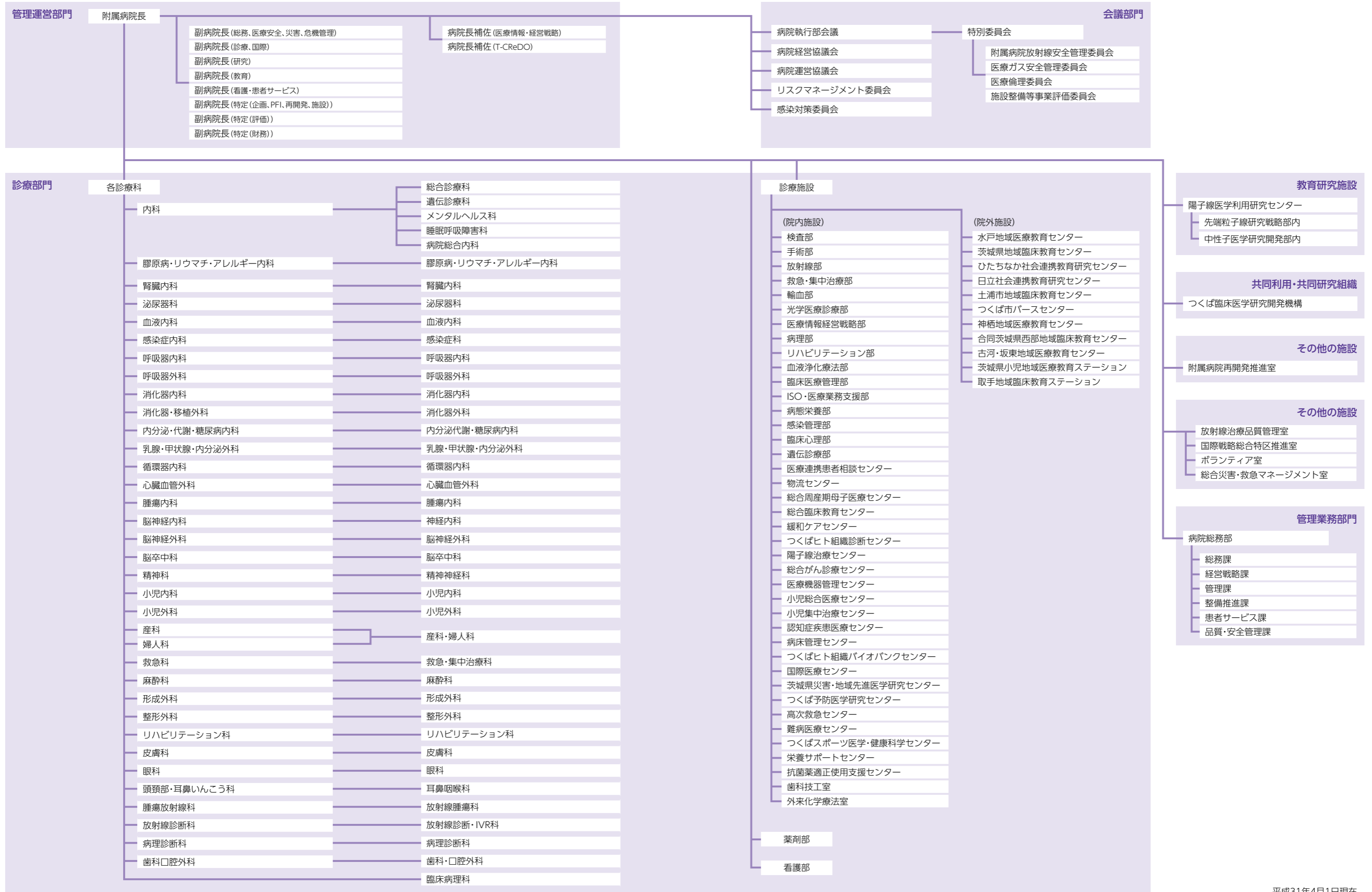


総会の様子



講演する森光研究開発振興課長

# 組織図



平成31年4月1日現在

# 医療連携患者相談センター

本院は「特定機能病院」として高度な医療の提供、高度医療の研究や開発を通して地域の医療機関との連携を強化し、患者さんの紹介・逆紹介を通じ、緊密な医療連携を図っています。

## 医療機関の先生方との連携

本院では、医療機関の先生方との連携を重点に医療活動を展開しています。

ご紹介いただいた患者さんには、高度に専門化された医師、看護師、技師等の職員による総合的なチーム医療により安心して治療を受けられるような体制で診療にあたっています。

## 患者さんの紹介について

本院での予約方法は以下の2通りがあります。

### 1. 紹介元医療機関から医療連携患者相談センターで予約を取る方法

**医療連携患者相談センター（医療機関専用）**

**FAX 029-853-3712**

### 2. 患者さんご本人が予約センターで予約を取る方法

**予約センター（患者さん専用）**

**TEL 029-853-3570**

**FAX 029-853-3612**

- ➔ 詳しい予約方法については、14～15ページ「患者さんの紹介について」をご覧ください。
- ➔ 夜間・休日・緊急を要する受診の場合は、19～21ページ「予約方法等一覧」をご確認の上、ご連絡ください。

## 医療福祉・入退院支援に関する相談

医療連携患者相談センターでは、療養生活上の問題等に対し、専任のソーシャルワーカー（社会福祉士）と退院調整看護師が専門的な立場でご相談をお受けしています。

こんなとき、医療連携患者相談センターをご利用下さい。

- 治療費支払いや今後の生活費など、経済的な心配がある
- 往診や訪問看護、ホームヘルパーなど在宅サービスについて知りたい
- 介護保険や健康保険、障害年金などの社会福祉・社会保障の制度を知りたい
- 自宅で生活するために車椅子やベッドなど福祉用具が必要
- 身体に障害が残り、今後どのように生活をしたら良いかわからない

ご相談についての秘密は厳守します。

ご相談は原則予約制となりますので、お電話または来室の上、ご相談日時をご予約ください。

病棟または外来の医師・看護師を通して、ご予約いただくことも可能です。

相談日 月曜日～金曜日（土日祝日、年末年始を除く）

受付時間 8:30～17:00

設置場所 防災センター脇の通路を右折

**T E L 029-853-3906**

**F A X 029-853-3584**



医療連携患者相談センターのスタッフ

# 患者さんの紹介について

## 1. 紹介元医療機関から医療連携患者相談センターで予約を取る方法

本院では、医療連携患者相談センターでFAX（または電話）による紹介患者さんの予約受付を行っています。

### 1 受診の予約

紹介元医療機関

筑波大学附属病院 医療連携患者相談センター

本院の外来診療は、原則として予約制です。

患者さんから同意を得た上で「受診予約申込書※」をご記入いただき、

FAXでお申込みください。

可能な限り、診療情報提供書を一緒にお送りください。

#### 医療連携患者相談センター

**FAX 029-853-3712** (医療機関専用)

- 受付時間 月曜日～金曜日 8:30～17:00 (土日祝日、年末年始を除く)
  - FAX受信は24時間可能ですが、17時以降と休診日に送付されたFAXは、翌稼働日の対応となりますのでご注意ください。
  - 予約日時については、すべての希望に添えない場合もありますのでご了承ください。
  - FAXができない場合でも「受診予約申込書」の項目を予めご準備いただいてから電話でご連絡ください。
- TEL 029-853-3727** (医療機関専用)
- 受診予約申込書について  
17ページの受診予約申込書をコピーしてご使用ください。  
本院のホームページからダウンロードすることが可能です。(https://www.hosp.tsukuba.ac.jp/medical/)

受診予約申込書

### 2 予約取得の連絡

筑波大学附属病院 医療連携患者相談センター

紹介元医療機関

患者さん

予約日時は、紹介元医療機関へ電話または「予約票」をFAXで送付するか、患者さんに電話でお知らせします。

### 3 患者さんへ紹介受診手続き説明

紹介元医療機関

患者さん

- 電話でお知らせした場合  
患者さんに予約日時、当日受付方法のご説明をお願いします。
- 予約票をFAXで受け取った場合  
予約票【患者さん用】を患者さんにお渡しください。  
患者さんに予約日時、当日受付方法のご説明をお願いします。

## 4 紹介状・画像データ等の事前送付

紹介元医療機関

筑波大学附属病院 紹介状・画像等受付担当

画像データは、標準規格（DICOM）でご提供ください。

また、患者さんの待ち時間短縮のため、予約日の2日前（休診日を除く）までに下記担当宛にご送付ください。

事前にお送りいただいた紹介状・画像データを前もって担当医師が確認し、検査の必要性を認めた場合、予約日の診察前に検査を行っていただくことができますので予めご了承ください。

### 送付先

〒305-8576 茨城県つくば市天久保2-1-1

筑波大学附属病院 紹介状・画像等受付担当

## 5 受診

患者さん

筑波大学附属病院

予約当日、本院を初めて受診される方は1番初診窓口で、過去に本院の受診歴がある方は5番再診窓口で手続きをします。

## 2. 患者さんご本人が予約センターで予約を取る方法

本院の外来診療は、原則として予約制です。

事前に予約をお取りいただくよう、患者さんにお伝えください。

### 予約センター

TEL 029-853-3570（患者さん専用）

●受付時間 月曜日～金曜日 8:30～17:00（土日祝日、年末年始を除く）

医療連携患者相談センターでは、他の医療機関からの外来予約のほか以下の業務等を行っています。

- ・当日受診依頼
- ・転院相談
- ・診療情報提供の依頼
- ・訪問看護指示書等の管理

# セカンドオピニオン外来のご案内

## セカンドオピニオン外来の目的

当院以外の医療機関で診療を受けている方を対象に、「他の医師の意見も聞き納得して治療を受けたい」というご要望に応え、紹介元医師から与えられた診断・治療の資料から、今後の治療に関する意見を提供し、参考にさせていただくことを目的としています。

## セカンドオピニオンの対象者

患者さん本人の相談を原則とします。

ご家族のみの場合は、同意書が必要となり、未成年者の場合には、続柄を確認できる書類（健康保険証等）が必要となります。

同意書の様式は、本院のホームページからダウンロードできます。

精神神経科では、セカンドオピニオンを行っておりません。

## 相談内容

検査や治療行為（薬剤投与、処置）は行いません。

ご持参いただいた資料から、今後の治療に関する専門医としての意見をご提供します。

## 相談時間

1人1時間以内となります。

相談時間には、紹介元医師への報告書作成時間等が含まれます。

## 相談費用

報告書作成費を含めて、43,200円（税込）です。自由診療ですので全額自費になります。

## 事前に必要な書類

①診療情報提供書 ②検査資料（血液検査の結果、画像結果等） ③相談同意書（相談者が本人以外の場合）

セカンドオピニオン係宛にご送付いただくか、総合受付2番の窓口までご持参ください。

## お申し込み方法

完全予約制です。

上記内容について患者さんにご説明いただき、ご納得いただけましたら「受診予約申込書」と「診療情報提供書」をFAXでお送りください。

※上記「事前に必要な書類」を確認してからのご予約となります。

F A X 029-853-3612

T E L 029-853-3562

送付先 〒305-8576 茨城県つくば市天久保2-1-1  
筑波大学附属病院 セカンドオピニオン係



予約	/	:
	科 Dr.	

受診予約申込書

FAX:029-853-3712

申込日: 年 月 日

ID:

フリガナ			紹介元 医療機関	
氏名	様			
性別	男性・女性	旧姓 ※お分かりでしたらご記入ください	医師氏名	
生年月日	M・T・S・H・R	年 月 日	所在地	〒
住所	〒			
電話番号	9時～17時で連絡が取れる番号	所有者	電話番号	
	①		FAX	
	②		部署名	
③				
筑波大学附属病院受診歴	無・有⇒	筑波大学附属病院のID		

基本情報(診療科確認のために使用いたします。)

主傷病名			
紹介目的	<input type="checkbox"/> 精査 <input type="checkbox"/> 加療 <input type="checkbox"/> 手術 <input type="checkbox"/> その他( )	<input type="checkbox"/> セカンドオピニオン	
画像データ	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	ご都合の悪い日 または曜日	
医学的に望ましい 受診までの期間	<input type="checkbox"/> 1週間 <input type="checkbox"/> 1ヶ月 <input type="checkbox"/> 3ヶ月		
予約取得の連絡	<input type="checkbox"/> 医療機関へ予約票をFAX <input type="checkbox"/> 医療機関へ電話連絡 <input type="checkbox"/> 筑波大から患者さんへ連絡		
受診当日の状況	<input type="checkbox"/> 通院中 <input type="checkbox"/> 入院中(入院料等の算定情報を記載した連絡文書をご持参ください。)		

受診希望診療科に○をつけてください。

\* 紹介状、検査・画像データは、事前にご送付ください。

内科系	<input type="checkbox"/>	循環器内科	外科系	<input type="checkbox"/>	心臓血管外科	内・外科系以外	<input type="checkbox"/>	眼科
	<input type="checkbox"/>	消化器内科		<input type="checkbox"/>	消化器外科		<input type="checkbox"/>	耳鼻咽喉科
	<input type="checkbox"/>	呼吸器内科		<input type="checkbox"/>	呼吸器外科		<input type="checkbox"/>	皮膚科
	<input type="checkbox"/>	腎臓内科		<input type="checkbox"/>	泌尿器科		<input type="checkbox"/>	精神神経科
	<input type="checkbox"/>	内分泌代謝・糖尿病内科		<input type="checkbox"/>	乳腺・甲状腺・内分泌外科		<input type="checkbox"/>	婦人科
	<input type="checkbox"/>	小児内科		<input type="checkbox"/>	小児外科		<input type="checkbox"/>	産科
	<input type="checkbox"/>	神経内科		<input type="checkbox"/>	脳神経外科		<input type="checkbox"/>	メンタルヘルス科
	<input type="checkbox"/>	膠原病・リウマチ・アレルギー内科		<input type="checkbox"/>	脳卒中科		<input type="checkbox"/>	遺伝診療科
	<input type="checkbox"/>	血液内科		<input type="checkbox"/>	整形外科		<input type="checkbox"/>	麻酔科
	<input type="checkbox"/>	総合診療科		<input type="checkbox"/>	形成外科		<input type="checkbox"/>	放射線腫瘍科(放射線)
<input type="checkbox"/>	感染症科	<input type="checkbox"/>	歯科・口腔外科	<input type="checkbox"/>	放射線腫瘍科(陽子線)			
専門外来		外来	希望医師名		医師			

注意事項

- 希望医師のご指定がない場合は、初診担当医師の予約をお取りいたします。
- 紹介状と画像データ等の事前送付にご協力ください。  
※ 画像データは、標準規格(DICOM)でご提供ください。  
※ 郵送の際は、右記「紹介状・画像等受付担当」宛てにご送付ください。
- 患者さん都合による予約変更・キャンセルは、予約センターでお受けいたします。  
(予約センター 029-853-3570)
- セカンドオピニオン外来は、お申込み後、担当者からご連絡いたします。  
(セカンドオピニオン外来担当 029-853-3562)
- 平日17時00分以降、土日祝日・年末年始等の休診日に届いたFAXは、翌診療稼働日の対応となります。

紹介状・画像データ送付先

〒305-8576  
茨城県つくば市天久保2-1-1  
筑波大学附属病院  
紹介状・画像等受付担当

患者さんの待ち時間短縮のため、事前送付にご協力をお願いいたします。

※ このFAXには、個人情報を含む機密情報が含まれており、筑波大学附属病院宛てに送られています。誤って届いた場合は、大変お手数ですがその旨を上記「紹介元医療機関」にお知らせください。



# 予約方法等一覧

診療科	対応方法			
	初診	夜間(17:15~翌日8:30)の場合 休日の場合	医療的に緊急を要する場合	転院を希望される場合
循環器内科	専門分野別に担当者が分かれています。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	循環器内科 029-853-5600 オンコール医師が担当します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
心臓血管外科			心臓血管外科ホットライン 029-853-7831・080-4197-8186 (オンコールスタッフによる 24時間対応) または ICU受付 029-896-7290 (平日9:00~17:00) へご連絡ください。	平日の日中は 医療連携患者相談センター 029-853-3727 または 心臓血管外科医局 TEL/FAX 029-853-3097 E-mail: cardio-v@md.tsukuba.ac.jp へご連絡ください。 これ以外の時間帯で急を要する場合は、 心臓血管外科ホットライン 029-853-7831・080-4197-8186 (オンコールスタッフによる 24時間対応)へご連絡ください。
消化器内科	疾患別に担当者が分かれています。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 事前に診療情報提供書を FAXしてください。 029-853-3712	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。消化器外科 科当直医が担当します。	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
消化器外科	毎週火曜日と金曜日の初診担当 医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 事前に診療情報提供書を FAXしてください。 029-853-3712		救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	呼吸器内科外来 029-853-3915 へご連絡ください。
呼吸器内科	疾患別に担当者が分かれています。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 事前に診療情報提供書を FAXしてください。 029-853-3712	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。平日は当 該曜日の担当医師が対応し ます。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
呼吸器外科	当該曜日の担当医師が対応し ます。 医療連携患者相談センター 029-853-3727		医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。	
腎臓内科	疾患別に担当者が分かれています。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 事前に診療情報提供書を FAXしてください。 029-853-3712	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。平日は当 日オンコール医師が対応し ます。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
泌尿器科			医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。	
内分泌代謝・ 糖尿病内科	当該曜日の担当医師が対応し ます。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 事前に診療情報提供書を FAXしてください。 029-853-3712	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
乳腺・甲状腺・ 内分泌外科	専門分野別に分かれて担当し ます。 医療連携患者相談センター 029-853-3727		医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。	
膠原病・リウマチ・ アレルギー内科	当該曜日の担当医師が対応し ます。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。

診療科	対応方法			
	初診	夜間(17:15~翌日8:30)の場合 休日の場合	医療的に緊急を要する場合	転院を希望される場合
血液内科	火曜日と金曜日に初診担当の医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 事前に診療情報提供書をFAXしてください。 029-853-3712	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。当日オンコール医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
精神神経科	当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727		精神神経科外来 029-853-3931・3932 へご連絡ください。	
皮膚科	曜日毎に初診担当医が診察し、その後専門分野別に主治医を決めます。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。緊急外来で診察し、必要に応じて皮膚科医が診察します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通しご相談ください。当日のオンコール医師が対応します。
小児内科	専門分野別に分かれて担当します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727  ●初診時の注意点 紹介状(診療情報提供書)：できる限り事前に診療情報提供書をFAXしてください。 医療連携患者相談センター FAX 029-853-3712 持参された画像(CD-R)：当院では紹介元病院からご持参いただいたCD-Rはウイルスチェックを行ってから、画像を拝見させていただいています。患者さんの受診日前に医療機関から担当医師宛にあらかじめ送っていただけると、診察時に患者さんを待たせずに画像の評価を行い、スムーズな診療につながります。可能な限り、ご協力をお願いします。	受診には紹介状(診療情報提供書)と予約が必要です。 初診、再診にかかわらず緊急を要する場合(医療機関からのみ) 平日(8:30~17:15)は、小児科外来 029-853-3877 に直接連絡してください。 夜間(17:15~8:30)・休日は、救急外来 029-853-3110 に連絡してください。		
小児外科	当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	救急外来 029-853-3110 へご連絡いただき、当科の当直医に直接連絡してください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
形成外科	当該曜日の担当医師が対応します。専門外来を設置しています。対象外、専門分野が不明な場合初診担当医が担当します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727		医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。当日オンコール医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、外来担当医にご相談ください。 E-mail : tkeisei@md.tsukuba.ac.jp (医療相談などは行いません)
神経内科	当該曜日の担当医師が対応します。専門外来は設置していません。外来担当医が神経・筋疾患全般に対応可能です。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。当直またはオンコール医が対応します。	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。当直またはオンコール医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、外来担当医にご相談ください。
脳神経外科	領域別に担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 または 救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。当日オンコール医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
脳卒中科	当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727			
整形外科	専門分野別の担当医師が対応します。専門分野が不明な場合、初診担当医師が担当します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727		救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。当日オンコール医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
つくばスポーツ医学健康科学センター(SMITセンター内アスリートサポート部門)	自由診療のセンターです。医師確認のもとプログラムを作成いたします。 初診担当医または整形外科外来が担当いたします。 SMITセンター窓口 029-853-3910 までご相談ください。 (平日9:00-17:00)			
つくばスポーツ医学健康科学センター(SMITセンター内健康増進部門)	センター内のスポーツ健康クリニック外来、または、肝臓生活習慣病外来を受診してください。 自由診療を希望される場合は、医師確認のもとにご相談に応じます。 予約センター 029-853-3570			
リハビリテーション科	領域別に担当医師が対応します。 リハビリテーション部 029-853-3795			
眼科	当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。当直またはオンコール医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。

診療科	対応方法			
	初診	夜間(17:15~翌日8:30)の場合 休日の場合	医療的に緊急を要する場合	転院を希望される場合
産科・婦人科	以下の曜日の午前中に対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 婦人科：月・水・金 産科：月・火・木 婦人科については、事前に診療情報提供書をFAXしてください。	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	茨城県周産期救急搬送体制に基づく母体搬送については、下記へご連絡ください。 産科病棟 029-853-3850 (平日8:30~17:15) 防災センター 029-853-3525 (上記以外の時間帯)	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
耳鼻咽喉科	当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727		医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。オンコール医師または耳鼻科外来医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、耳鼻咽喉科オンコール医師にご相談ください。
麻酔科	第2火曜を中心に当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。	
救急・集中治療科	平日(日中)：医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡いただき、当科を含め、連携ご希望の診療科をご相談ください。 夜間・休日：救急外来 029-853-3110 へご連絡いただき、当科を含め、連携ご希望の診療科をご相談ください。			
歯科・口腔外科	月・火・木・金の初診担当医師が担当します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	歯科口腔外科外来 029-853-3870 または 救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
メンタルヘルス科 (社会精神医学科)	産業保健外来 029-853-6025 精神保健外来 029-853-3099 へご連絡ください。 紹介または他診療グループからのコンサルテーションによる、診療領域に該当する外来患者さんが診療の対象です。 精神保健外来(斎藤・森田担当)への受診希望の場合、受診に先立って連絡と相談をお願いします。 精神保健学 FAX 029-853-3099		医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。各外来が担当します。	
放射線腫瘍科	月・火・木の担当の医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 陽子線治療に関する医師からのご相談、お問い合わせを受け付けています。 FAX 029-853-7102 E-mail: proton_therapy@pmrc.tsukuba.ac.jp	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	放射線治療棟外来 029-853-3657 へご連絡ください。外来担当医が対応いたします。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
放射線診断・IVR科	放射線診断科としての予約はありません(当院で画像検査をご希望の場合は関連する当該科を通して検査依頼を行っていただくください)。他院で撮像された画像に関するコンサルテーションをご希望の方は、セカンドオピニオン外来 029-853-3562 にご相談のうえ、お申込みください。			
総合診療科	当該曜日の担当医師が対応します。 漢方外来：金曜日の午後 禁煙外来：月~木曜日の午後 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。オンコール医師が対応します。	
病理診断科	病理説明外来をご希望の患者さんは主治医にご相談ください。			
遺伝診療科	遺伝診療部は完全予約制です。患者さんからの予約のみ受け付けています。予約センター 029-853-3570 月曜日 11:00~12:00：乳がん・卵巣がん 水曜日 13:30~16:30：遺伝相談一般 *お電話の際には「遺伝外来の受診希望(または受診の相談)」とお伝えください。 *認定遺伝カウンセラーが折り返しお電話をし、担当スタッフや日時を調整いたします(都合により後日お電話をさせていただきます)。			
感染症科	当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。オンコール医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
腫瘍内科	火曜日午前中のみ。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通じてご相談ください。		医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、臓器別診療科へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、臓器別診療科にご相談ください。



# University of Tsukuba Hospital Guide 2019



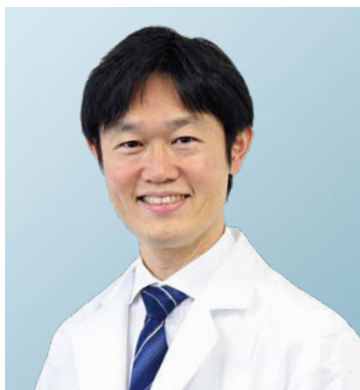
## 診療科紹介

循環器内科	24
心臓血管外科	26
消化器内科	28
消化器外科	30
呼吸器内科	32
呼吸器外科	34
腎臓内科	36
泌尿器科	38
内分泌代謝・糖尿病内科	40
乳腺・甲状腺・内分泌外科	42
膠原病・リウマチ・アレルギー内科	44
血液内科	46
精神神経科	48
皮膚科	50
小児内科	52
小児外科	54
形成外科	56
神経内科	58
脳神経外科	60
脳卒中科	62
整形外科	64
リハビリテーション科	66
眼科	68
産科・婦人科	70
耳鼻咽喉科	72
麻酔科	74
救急・集中治療科	76
歯科・口腔外科	78
メンタルヘルス科（社会精神医学科）	80
放射線腫瘍科	82
放射線診断・IVR科	84
総合診療科	86
病理診断科	88
遺伝診療科	90
感染症科	92
腫瘍内科	94
病院総合内科	96
看護専門外来	98

\*各診療科のスタッフ一覧は、平成31年4月1日現在のものです。

\*診療実績は特に記載がない場合、平成30年度分です。

# 循環器内科



診療科長 教授

家田 真樹

## 診療科の特徴

筑波大学附属病院循環器内科は、心不全、高血圧、末梢動脈疾患、心筋症、弁膜症、肺高血圧症、先天性心疾患など幅広い循環器領域に対応しています。私たちの目標は『常に患者さん一人ひとりにとって最適な治療を選択し、安心、安全、良質な循環器診療を提供すること』です。その実現のため、構造的な心疾患に対するカテーテル治療、不整脈に対するカテーテルアブレーション・デバイス治療、重症心不全に対する補助人工心臓などの高度先進医療に積極的に取り組み、365日24時間体制で緊急の患者さんを受け入れる体制を整えています。また関連病院や診療所の先生方と緊密なコミュニケーションを取り、しっかり信頼関係を築くことが、患者さんやご家族に安心していただける良い医療の提供につながる鍵と考えています。どのような循環器疾患でも、まずはお気軽にご相談ください。

当院は茨城県唯一の国立大学病院であり、私たちはこの地域における“最後の砦”として、少しでも患者さんや地域の先生方のお力になりたいと考えています。今後も質の高い医療を提供し続けることができるよう尽力していきますので、筑波大学附属病院循環器内科をどうぞよろしくお願い致します。

## 診療領域・体制

■ 構造的な心疾患に対するカテーテルインターベンション  
筑波大学循環器内科では2015年6月に茨城県で初めてTAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）施設認定を取得し、2015年9月から治療を開始しました。2019年3月時点までの121例の成功率は99%、術後30日以内の死亡は1例もおらず、良好な成績を得ています。2018年4月からはより傷の小さい穿刺法（数mm程度の傷）で治療を行うようになり、患者さんの体の

氏名	職名	専門分野
家田 真樹	教授	循環器病全般、心筋症、心不全
青沼 和隆	教授	不整脈
宮内 卓	教授	循環器病全般、肺高血圧症
本間 覚	教授	血管疾患、肺高血圧症
久賀 圭祐	教授	不整脈
野上 昭彦	教授	不整脈
小池 朗	教授	心不全、心臓リハビリテーション
渡邊 重行	教授（水戸地域医療教育センター）	虚血性心疾患
西 功	教授（筑波大学神栖地域医療教育センター）	心筋症、心不全、心臓リハビリテーション
石津 智子	病院教授	先天性心疾患、女性循環器疾患、心不全
佐藤 明	准教授	虚血性心疾患、血管疾患
関口 幸夫	准教授	不整脈
村越 伸行	准教授	虚血性心疾患、心不全、不整脈
五十嵐 都	准教授	不整脈
吉田健太郎	准教授（茨城県地域臨床教育センター）	不整脈
星 智也	講師	構造的な心疾患、虚血性心疾患
山崎 浩	講師	不整脈
町野 毅	講師	不整脈
山本 昌良	病院講師	心不全
渡部 浩明	病院講師	虚血性心疾患
小松 雄樹	病院講師	不整脈
貞廣威太郎	病院講師	循環器全般、心不全、心筋症
呉 龍梅	病院講師	血栓症、心臓リハビリテーション
田尻 和子	助教	腫瘍循環器疾患
町野 智子	助教	弁膜症、先天性心疾患
佐藤 希美	助教	肺高血圧症、心筋症、心不全



負担もより少なくなっています。TAVIの対象となるのは、ご高齢（80～85歳）、高度大動脈石灰化、過去に開胸手術や胸部への放射線照射の既往がある、肺気腫・肝硬変など他の合併疾患がある等、通常の外科的弁置換術のリスクが高いと判断された重症大動脈弁狭窄症の患者さんです。また、先天性心疾患、閉塞性肥大型心筋症、僧帽弁閉鎖不全のカテーテル治療にも取り組んでいます。当院では心房中隔欠損症のカテーテル治療を2016年11月から開始し、2019年4月までに32例全てにおいて合併症なく治療に成功しています。薬物療法で十分に症状が改善しない閉塞性肥大型心筋症に対して、経皮的中隔心筋焼灼術（PTSMA）が有効な場合があり、当院では2018年4月より治療を開始しています。また、僧帽弁閉鎖不全（MR）に対するカテーテル治療（MitraClip）は安全かつ低侵襲にMRを減少させることができ、2018年4月より日本でも導入されましたが、当院においても2019年1月から開始し、4月までに4例の治療に成功しました。

#### ■不整脈に対するアブレーション・デバイス治療

筑波大学循環器内科不整脈診療グループは、先進的医療や難治性不整脈に対する高難度医療に長年積極的に取り組んできました。不整脈に対するカテーテルアブレーションに加え、ペースメーカー、植込み型除細動器、重症心不全に対する心臓再同期療法といった最先端のデバイス治療、高度な技術を必要とするデバイス抜去術を数多く施行しており、いずれもわが国トップレベルの治療件数を誇ります。中でも不整脈に対するカテーテルアブレーションは、大学病院の中で全国1位の実績を誇っており、日本の不整脈診療の先導的役割を果たしています。近年、社会の高齢化や生活習慣病の広がりに伴い、心房細動の患者数が増加しています。筑波大学循環器内科は、心房細動カテーテルアブレーションに関して年間500件以上と国内有数の実績があり、肺静脈隔離術に用いる各種バルーンシステムもわが国において一早く臨床使用しています。カテーテル治療は局所麻酔下に行い入院期間は4日前後です。有症候性の心房細動のみならず、無症候性の心房細動の患者さんにおいても、それぞれの患者さんの背景・病態にあわせて、治療の有効性・安全性をふまえた上で、最善の治療を提供できるように努めています。

#### 対象疾患

不整脈、虚血性心疾患、心不全、心筋症、心筋炎、弁膜疾患、高血圧、動脈疾患、肺高血圧症、肺血栓栓塞症、先天性心疾患、先天性心疾患を有する成人、心疾患を有する妊婦等。

#### 診療実績

##### ■外来診療実績

###### □患者数

項目	人数
患者数	21,716
初診患者数	1,225
紹介患者数	1,018
逆紹介患者数	3,307

##### ■入院診療実績

###### □患者数

項目	人数
患者数	13,883
新入院患者数	1,845
平均在院日数	6.4日

###### □手術件数

術式	件数
カテーテルアブレーション	777
心臓再同期療法	49
植え込み型除細動器	41
ペースメーカー	56
リード抜去術	20
経皮的冠動脈インターベンション	214
経皮的末梢動脈インターベンション	6
経カテーテル大動脈弁置換術	48
補助循環用ポンプカテーテル（IMPELLA）治療	1
経皮的心房中隔欠損閉鎖術	15
経皮的動脈管開存閉鎖術	2
経皮的僧帽弁クリップ術	3
経皮的中隔心筋焼灼術	3





診療科長 教授

平松 祐司

## 診療科の特徴

茨城県南部医療圏の心臓血管外科基幹施設として、新生児から高齢者まで、あらゆる心臓血管疾患に対して最先端の外科医療を展開しつつ、高度先進医療の研究開発や外科医の育成にも取り組んでいます。2012年の新棟「けやき棟」開棟およびICU・小児ICU整備によって手術の効率と安全性は一層高まり、国内外で研鑽を積んだ専門医陣が年間300例以上の心臓大血管手術を含む総数約500例の手術を実施しています。最新技術として、2015年から経カテーテル的大動脈弁置換術、左室形成術、補助人工心臓装着術を導入し、2016年には小児用補助人工心臓の実施施設認定も取得しました。同年にはAmplatzer経カテーテル的心房中隔欠損閉鎖術も開始しています。大動脈緊急症例に対しては隣接する筑波メディカルセンターとアライアンスを形成し、迅速な外科治療が24時間可能なシステムを構築しています。

## 診療領域・体制

成人心臓血管疾患に対する外科治療と最新心臓リハビリテーション、重症新生児から成人まで全ての先天性心疾患に対する外科治療、胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療、末梢血管カテーテル治療およびステント治療、重症虚血肢に対する末梢動脈バイパス術、下肢静脈瘤レーザー治療、経皮的人工心肺補助、補助人工心臓、経カテーテル的大動脈弁置換術、経カテーテル的心房中隔欠損閉鎖術、ペースメーカー管理、人工心臓による重症心不全治療

## 対象疾患

先天性心疾患、成人先天性心疾患、冠動脈疾患、心臓弁膜症（必要に応じて不整脈手術を併用）、虚血性心筋症、心筋症、血管疾患（大動脈解離、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤）、心臓腫瘍、肺塞栓症

## 先進医療等への取り組み

末梢血幹細胞を用いた血管再生治療

**適応症：**閉塞性動脈硬化症などによる重症虚血肢

**内容：**重症末梢動脈閉塞性疾患において、薬物療法や血行再建治療が無効な場合に本治療を考慮します。患者さん自身の血液から造血幹細胞を分離し、これを虚血肢に移植して血管再生を促す先進治療です。

## 診療実績

### ■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	3,710
初診患者数	183
紹介患者数	139
逆紹介患者数	532

□ 治療に関するコメント等

### 疾病・検査・手術実績

**先天性心疾患：**新生児の複雑先天異常から成人期に到達した先天性心疾患まで、あらゆる年齢・病態に対応するチームを形成し、子供たちの未来を見据えた最善

氏名	職名	専門分野
平松 祐司	教授	先天性心疾患、補助人工心臓
坂本 裕昭	准教授	成人心臓病、大動脈疾患、補助人工心臓
大坂 基男	講師（病院教授）	成人心臓病、大動脈疾患
上西祐一郎	講師	成人心臓病、大動脈疾患
松原 宗明	講師	先天性心疾患、感染症コントロール
加藤 秀之	講師	先天性心疾患、補助人工心臓
五味 聖吾	病院講師	集中治療
中嶋 智美	病院助教	心臓血管疾患全般、病床管理

の医療を展開しています。姑息術、根治術、Fontan型修復術いずれの成績も良好で、小児科・成人循環器内科・産婦人科と共同で成人先天性心臓病外来も運営し、生涯にわたって安心して医療が受けられる仕組みを整えています。

**虚血性心疾患：**ハイリスク症例が多数を占める中、80%以上の症例において体外循環を用いない心拍動下冠動脈バイパス術を実施。若年者には動脈グラフトを積極的に用い、早期社会復帰のための心臓リハビリテーションも充実しています。虚血性心筋症に対する左室形成手術にも取り組んでいます。

**心臓弁膜症：**僧帽弁閉鎖不全症に対しては人工腱索や僧帽弁リングを用いて高確率で弁形成を達成し、ワーファリン内服不要の高いQOLを提供しています。心房細動を合併する場合にはRadial手術（Maze手術）を積極的に併用しています。大動脈基部病変に対するDavid手術も導入し、良好な成績をおさめています。80歳以上の高齢者には2015年秋から経カテーテル的大動脈弁置換術を導入し、新たな治療の選択肢を提供しています。

**大動脈疾患：**緊急度の高い急性大動脈解離については、24時間体制での遅滞ない受け入れを目指しています。ハイブリッド手術室完成後、動脈瘤に対するステントグラフト内挿術は急速に増加しており、腹部はもとより胸部大動脈瘤や破裂例に対してもステント治療を積極的に応用し、より患者さんに優しい手術の実現をはかっています。

**末梢動脈疾患：**足関節付近への遠位動脈バイパス手術にも積極的に取り組み、多くの患者さんを切断の危機から救っています。カテーテルによる血管狭窄解除においては、放射線科とチームを構成してハイレベルなインターベンションを展開しています。

**補助人工心臓：**2015年から補助人工心臓装着術を開始し、重症心不全の最終救命手段と位置付けています。国内で認可されたばかりの小児用体外式補助人工心臓の実施施設認定も取得し、2017年には植込型補助人工心臓も導入しました。

**下肢静脈瘤：**低侵襲レーザー治療を導入して機能的にも美容的にも満足いただいています。日帰りまたは1泊2日の入院で、速やかに日常生活に復帰可能です。

□治療成績（特徴的なもの）

新生児開心術、弁形成術、自己弁温存大動脈弁手術、経カテーテル大動脈弁置換術、人工心臓手術などに力を入れて取り組んでいます。

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	7,148
新入院患者数	302
平均在院日数	16.5日

□手術件数

術式	件数
開心術	320
非開心術	200
手術総数	520

□手術に関するコメント等

国立大学病院としては数少ない開心術300例以上のhigh volume centerとして広域循環器医療に貢献しています。

□治療成績（特徴的なもの）

全国平均よりも良好な手術死亡率を維持しており、ハイリスク症例に対してもより安全確実な手段を工夫しています。



平松を中心に、2010年以来ベトナムにおいて心臓外科技術協力を実施している。

# 消化器内科



診療科長 病院教授

溝上 裕士

## 診療科の特徴

当科では、あらゆる消化器疾患の患者さんの診療を行っています。消化管出血、炎症性腸疾患、肝炎、膵炎などの良性疾患では内科的薬物治療、胃癌、大腸癌、肝癌、胆道・膵癌などの悪性腫瘍では、内視鏡治療や化学療法を担当しています。また同時に臨床試験を通じて新たな治療法の開発を推進しています。月曜から金曜まで午前、午後にわたり、消化管疾患の専門医及び肝臓・胆道・膵疾患の専門医が外来診療を担当しています。病院と診療所あるいは病院同士の連携を深め、地域性を考慮した診療体制を構築しています。

## 診療領域・体制

**消化管疾患：**消化管は食道から胃、十二指腸、小腸、大腸までの管腔臓器を指し、大きく分けて良性疾患と悪性疾患に分けられます。良性疾患には、逆流性食道炎、食道ヘルニア、胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病、機能的胃腸症などがあります。これ

らの治療は主に薬物療法が中心となり、専門知識を生かした高度な治療を行っています。当院では胃・十二指腸潰瘍や癌との関連が指摘されているピロリ菌を専門に扱うピロリ菌外来、潰瘍性大腸炎やクローン病を専門に扱うIBD外来を設置しています。また、以前は検査が困難であった小腸にもカプセル内視鏡やバルーン内視鏡検査といった最新鋭の医療器具を取り入れ、診断・治療にあたっています。悪性疾患には食道癌、胃癌、大腸癌があり、これらの癌に対しては進行度に応じた治療法を選択しています。リンパ節転移のない初期の段階では内視鏡的切除を行います。最近開発された粘膜下層剥離術は大きな病変でも一括で切除することができ、当院でも積極的に行っています。進行癌では外科的治療の適応を考慮しますが、適応がないと判断される場合には、化学療法や放射線治療が選択されます。化学療法は最も有用性と安全性に優れた標準治療を基本に、臨床試験にも積極的に取り組んでいます。その他、高齢者や合併症のある症例に対しては腫

氏名	職名	専門分野
溝上 裕士	病院教授	消化管疾患、炎症性腸疾患、消化器内視鏡
兵頭一之介	教授	消化器疾患、臨床腫瘍
正田 純一	教授 (医療科学)	肝胆膵疾患、抗肥満療法、運動療法
谷中 昭典	教授 (日立社会連携教育研究センター)	消化管疾患、ヘリコバクターピロリ
瀬尾恵美子	病院教授 (茨城県地域臨床教育センター)	肝胆膵疾患
安部井誠人	准教授	肝胆膵疾患、肝炎治療
鹿志村純也	准教授 (水戸地域医療教育センター)	消化管疾患
鈴木 英雄	准教授 (腫瘍内科)	消化管疾患、炎症性腸疾患、消化器内視鏡
松井 裕史	講師 (光学医療診療部)	消化管疾患、光線力学療法
福田 邦明	講師	肝胆膵疾患
奈良坂俊明	講師 (光学医療診療部)	消化管疾患、消化器内視鏡
森脇 俊和	講師	消化器疾患、臨床腫瘍
石毛 和紀	講師	肝胆膵疾患
廣瀬 充明	講師 (土浦市地域臨床教育センター)	消化管疾患
廣島 良規	講師 (ひたちなか教育センター)	消化器疾患
長谷川直之	病院講師	肝胆膵疾患
山本 祥之	病院講師 (総合がん診療センター)	臨床腫瘍、消化器癌
山田 武史	病院講師 (T-CReDO)	消化器疾患、臨床腫瘍
岡田 浩介	病院講師	肝疾患
坪 大輔	病院講師 (光学医療診療部)	消化管疾患、消化器内視鏡
遠藤 壮登	病院助教	肝胆膵疾患、肝胆膵内視鏡

瘍縮小を目的に内視鏡を用いた光線力学療法も行っています。

**肝・胆道・膵疾患**：肝・胆道・膵疾患には肝炎、脂肪肝、胆石、膵炎などの良性疾患と、肝臓癌、胆嚢癌、膵臓癌などの悪性疾患があります。B型肝炎やC型肝炎は近年、治療法が飛躍的に進歩し、当院では専門医によるきめ細やかな治療を行っています。急性肝障害に対しては、劇症肝炎に移行する前から早期に積極的かつ強力な内科治療を行うことにより高い救命率を得ています。胆石症に対しては、症状、石の存在部位、合併症の有無などの病態に応じて、経口的胆石溶解療法、内視鏡的治療（乳頭バルーン拡張術、乳頭切開術）などの適切な治療選択を行っています。肝臓に対しては、早期発見に努め、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法、陽子線療法（先進医療）、分子標的薬治療などを駆使した集学的治療を行っています。特に、当院で開発された陽子線治療は、これまで1,000例以上を実施し、良好な局所コントロールとQOLの改善から世界的に高い評価を得ています。胆道癌、膵臓癌に対しては、黄疸例に対して胆道ドレナージやステント挿入などを行う他、超音波内視鏡下生検など病理組織学的診断にも力を入れています。また、消化器外科、放射線腫瘍科と協力し、進行度に応じて、最適な治療を選択しています。

### 対象疾患

消化管疾患（逆流性食道炎、胃・十二指腸潰瘍、炎症性腸疾患）、肝胆膵疾患（肝炎、脂肪肝、肝硬変、胆石、膵炎）、消化器癌（食道・胃・大腸・肝・胆・膵臓）、等



### 先進医療等への取り組み

#### 自由診療

ヘリコバクターピロリ感染診断・除菌  
第2、4水曜日午後担当 溝上 裕士

### 診療実績

#### 外来診療実績

##### 患者数

項目	人数
患者数	24,786
初診患者数	732
紹介患者数	634
逆紹介患者数	653

##### 検査件数

検査名	件数
上部消化管内視鏡検査	3,882
下部消化管内視鏡検査	1,749
小腸内視鏡検査（バルーン/カプセル）	48/61
内視鏡的逆行性胆道膵管造影検査（ERCP）	264

##### 治療件数

治療名	件数
食道静脈瘤治療（EVL・EIS）	55
内視鏡的止血術（上部/下部）	75/30
粘膜切除術（胃/小腸/大腸）	7/5/340
粘膜下層剥離術（食道/胃/大腸）	16/55/37
胃瘻増設術	24
光線力学療法	10
超音波内視鏡検査	110
超音波内視鏡下穿刺生検	72

##### 治療に関するコメント等

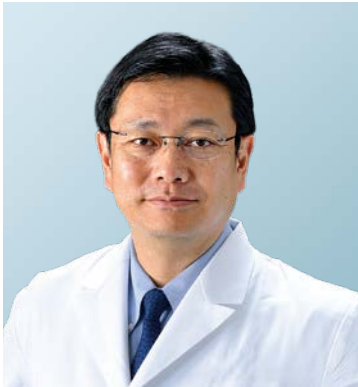
外来化学療法……………年間3,722件  
肝臓癌治療  
ラジオ波焼灼術……………36件  
化学療法（肝動脈塞栓化学療法など）……………106件

#### 入院診療実績

##### 患者数

項目	人数
患者数	14,958
新入院患者数	1,222
平均在院日数	11.0日

# 消化器外科



診療科長 教授

小田 竜也

## 診療科の特徴

私たち、消化器外科には2つの使命があります。1つ目は、現代における最高の外科医療を提供する事です。外科というと“メス”に代表される手術手技ばかりに目が行きがちですが、術前の詳細な検討に基づいた手術方針の決定と、術後の臨機応変な管理の3つが合わさって、初めて最高の医療につながります。私たちの外科グループだけに閉じる事なく、消化器内科、腫瘍内科、放射線診断部、放射線治療部といった関連診療科と密に連携して、個々の患者さんにとって、現代最高の医療を提供して行きます。2つ目の使命は、未来の医療を作る事です。近年急速に普及してきた鏡視下手術は、今後、様々なIT技術のアシストを受けながら行うロボット手術に発展していくでしょう。また、個々の患者さん、病気の遺伝子変化に合わせて治療方針を決定していくゲノム医療の導入も目の前です。私たちはこういった先駆的な治療の開発、導入に積極的に役割を担って行きたいと考えています。私たちの診療科で治療を受ける患者さんは、未来の医療を開発する上でのサポーターとしてのご協力をお願いします。

## 診療領域・体制

当科では、消化器領域における癌に対する治療を中心に、各臓器の専門医が担当してきめ細かい診療を行っています。治療の主体は手術療法ですが、病変を摘出切除する際に、病巣周囲の正常組織や臓器の犠牲的切除を最小限に止め、根治性と機能や形態の温存を最大限に保ちながら病気を治療することを心掛けています。手術治療だけでは完全治癒が期待できない進行癌の治療には、関連診療科と協力して放射線や抗癌剤の併用を行う集学的治療を行っています。外科治療においては、肝胆膵外科高度技能指導医・内視鏡外科技術認定医・食道科認定医など各臓器にエキスパートがそろっており、専門的な治療を行っています。また消化器疾患で、「別の医者意見を参考にしてから治療法を決めたい」という方のために、セカンドオピニオン外来も行っています。

## 対象疾患

■ 特に力を入れて治療をしている疾患  
膵腫瘍（膵癌、内分泌腫瘍、嚢胞性膵腫瘍）、胆道腫瘍（胆管癌・胆嚢癌・ファーター乳頭癌）、直腸癌、食道癌、食道胃接合部癌

氏名	職名	専門分野
小田 竜也	教授	消化器癌治療、膵臓・胆道手術
倉田 昌直	教授（先進消化器外科学講座）	腹腔鏡手術、肝臓・胆道・膵臓手術
鄭 允文	准教授（先進消化器外科学講座）	研究（発生学、悪性腫瘍）
榎本 剛史	講師	腹腔鏡手術、直腸・大腸手術
久倉 勝治	講師	食道手術、ヘルニア手術
明石 義正	講師	腹腔鏡手術、胃手術
大原 佑介	講師	腹腔鏡手術、直腸・大腸手術
高橋 一広	講師	移植治療、肝臓手術、肝嚢胞治療
小川 光一	講師	食道・胃・腹腔鏡手術
下村 治	講師	膵臓・胆道手術
大和田洋平	助教（総合がん診療センター）	大腸・直腸手術
古屋 欽司	助教（T-CReDO）	臨床試験
近藤 匡	教授（高萩地域医療教育サテライトステーション）	消化器全般
山本 雅由	教授（茨城県西部地域臨床教育センター）	消化器全般
松村 英樹	講師（水戸地域医療教育センター）	消化器全般
池田 治	講師（茨城県西部地域臨床教育センター）	消化器全般
湯沢 賢治	病院教授	移植治療

■力を入れている治療をしている疾患

胃（胃癌、胃粘膜下腫瘍、GIST）、肝腫瘍（肝細胞癌、転移性肝癌）、大腸腫瘍（盲腸癌、結腸癌）といった全ての消化器癌。炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）。腎移植。

診療実績

■外来診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	12,864
初診患者数	539
紹介患者数	479
逆紹介患者数	326

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	12,985
新入院患者数	821
平均在院日数	13.8日

□手術件数（2018年1月～12月）

術式	件数
悪性疾患	
食道切除	28
胃切除	69（内、腹腔鏡35）
大腸切除	105（内、腹腔鏡86）
肝切除	56（内、腹腔鏡23）
胆道、膵切除	64（内、腹腔鏡11）
良性疾患	
腎移植	12
腹腔鏡下胆嚢摘出	64
ヘルニア手術	35

□手術に関するコメント等

**高難度手術 1. 膵頭十二指腸切除**：膵頭部癌、胆管癌などに対して行う膵頭十二指腸切除は、全国的には現在でも3%近くの患者さんが手術後に亡くなる危険が伴います。私たちの施設が0.6%とその5倍も安全な手術を提供できているのは、精緻な手術手技に加えて、3D画像を用いた術前の詳細な検討や、術後の臨機応変な管理にも力を抜かない為です。

**高難度手術 2. 経肛門的直腸間膜切除術（TaTME）**：通常の大腸癌と異なり、肛門に近い直腸の手術は、狭い骨盤内で行うため何倍も難しい手術になります。今までは人工肛門になってしまう様な病態の方にも、腹部からの腹腔鏡に加えて、肛門側からも内視鏡を用いて肛門機能を温存する最先端の手術術式を行っています。

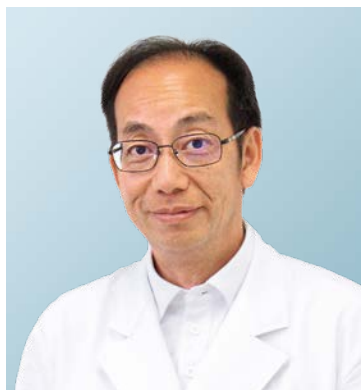
**高難度手術 3. 縦隔鏡を使った食道癌手術**：今まで、食道癌に対する手術では必ず開胸しなければならず、胸膜炎を患って癒着が激しい人や、呼吸機能が悪い患者さんにはとても負担の大きな手術になっていました。喉元とお腹の両側からトンネルを開通させる様に行う最新技術を用いる事で、開胸せずに食道を切除出来る、体に優しい治療を開始しています。

**低侵襲手術**：術後の早期回復と入院日数の短縮に大きく貢献することから鏡視下手術が注目され、当科では積極的に鏡視下手術を行っています。消化管では胃、大腸、肝胆膵領域にそれぞれ日本内視鏡外科学会技術認定医を有しており、豊富な症例数と経験により、確実かつ安全な鏡視下手術が可能です。

**膵癌に対する「温熱+化学放射線」→手術治療**：膵癌は雑草に例えると根が奥深く張るとい性質があり、手術で癌を99.9%除去しても、0.1%の残った根から再発してしまいます。この根をたたくために手術前に抗癌剤や放射線治療が行われていますが、膵癌細胞は抗癌剤が届きにくく、放射線が効きにくいので、治療効果を限定的にしています。私たちは、手術が難しいとされる局所進行膵癌患者に対して、温熱療法を加えた化学放射線療法を行っています。病巣を温めることで、抗癌剤の癌への分布が2倍以上になり、放射線治療効果も高まることが確認できています。膵癌に対して現代医学が持ち合わせている武器を総動員し、よりよい治療成績を提供することを目指しています。



# 呼吸器内科



診療科長 教授

檜澤 伸之

## 診療科の特徴

筑波大学に併設された当科の使命は、診療・教育・研究の3本柱を充実、発展させることだと考えています。その中でも最も重要なのは診療であり、患者さんと十分にコミュニケーションを図りながら、科学的根拠に基づいた医療を行うように心掛けています。特定の医師の判断で治療方針を決定するのではなく、チーム全体で情報を共有し、真摯な議論の中で方向性を決め、良質な医療を提供する体制をとっています。また教育機関として、次世代を担う医師の卒前・卒後教育を行うとともに、医師会向けの学術講演会や一般市民向けの公開講座を通じて最新の医療情報を地域へ発信する努力を続けています。一方、既存の医療のみを漫然と行うのでは医療の進歩は望めないとも考えています。研究機関として、新規治療法の開発を目指した臨床研究に力を注ぎ、医薬品の治験や陽子線治療などの先進医療にも積極的に参加しています。これからも呼吸器内科一同、さらなる医療レベルの向上に向けて情熱を持って日々前進していきたいと考えておりますので、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 診療領域・体制

WHOが発表した2015年度の全世界死因トップ10によると、3位が下気道感染症、4位が慢性閉塞性肺疾患、5位が肺がんであり、上位を呼吸器疾患が占めるという結果でした。

高齢化社会を迎えるなかで、当院においても、肺炎や肺がん、慢性閉塞性肺疾患など加齢に関連する疾患が増え、さらに生活環境の変化などにより、喘息をはじめとするアレルギー疾患も増えています。その他、血管炎や膠原病など全身疾患を基盤とする呼吸器疾患、肺血栓塞栓症、急性呼吸窮迫症候群/急性肺損傷、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症、肺胞蛋白症、リンパ脈管筋腫症、好酸球性肉芽腫症、Goodpasture症候群などの稀少疾患や合併症を有する複合疾患なども当科では積極的に受け入れておりますので、診断や治療に苦慮する患者さんがいらっしゃいましたら、御紹介いただければ幸いです。

## 対象疾患

肺がん、喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、肺感染症、睡眠時無呼吸症候群 等

氏名	職名	専門分野
檜澤 伸之	教授	喘息、免疫アレルギー疾患
佐藤 浩昭	教授（水戸地域医療教育センター）	肺がん
石井 幸雄	教授（土浦市地域臨床教育ステーション）	間質性肺炎、肺感染症
坂本 透	病院教授	慢性閉塞性肺疾患、喘息
森島 祐子	准教授	喘息、免疫アレルギー疾患、睡眠呼吸障害
籠橋 克紀	准教授（水戸地域医療教育センター）	肺がん
松野 洋輔	講師	間質性肺炎、肺感染症
際本 拓末	講師	喘息、免疫アレルギー疾患
小川 良子	講師	間質性肺炎、肺感染症、睡眠呼吸障害
増子 裕典	講師	慢性閉塞性肺疾患、喘息
中澤 健介	講師	肺がん
塩澤 利博	病院講師	肺がん
松山 政史	病院講師	肺感染症、間質性肺炎
山田 英恵	講師（ひたちなか社会連携教育研究センター）	慢性閉塞性肺疾患、喘息



## 先進医療等への取り組み

### ■陽子線治療

**適応症：**非小細胞肺がん

**内容：**手術不能で根治的胸部放射線療法が可能なⅡ期～Ⅲ期の患者さんについて、放射線腫瘍科と連携し、陽子線を利用した放射線化学療法を行っています。なお、陽子線治療費（293万8千円）は保険適応外のため、原則として全額が患者さんの自己負担となります。陽子線治療以外の医療費（診察・検査・処置・投薬など）については公的医療保険が適用されるので、一部自己負担（3割など）となります。関心をお持ちの患者さんがいらっしゃいましたら、医療連携患者相談センター（029-853-3727）を通じて初診予約をとっていただき、診療情報提供書、画像、検査データなどを添えて御紹介ください。非小細胞肺がんの患者さん全員が対象となるわけではありませんので、肺がん専門医が適応について御相談させていただきます。

## 診療実績

### ■外来診療実績

#### □患者数

項目	人数
患者数	10,933
初診患者数	391
紹介患者数	362
逆紹介患者数	361

#### □検査件数

検査名	件数
気管支鏡検査	285/年

#### □治療件数

治療名	件数
外来化学療法	521/年

#### □治療に関するコメント等

疾病・検査・手術実績

多くの呼吸器疾患の中で、喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺がんの罹病率は年々増加しています。喘息や慢性閉塞性肺疾患については、自覚症状に加え、肺機能、呼吸抵抗、呼気中一酸化窒素濃度などの客観的指標を参考にしながら、治療を組み立てています。肺がんについては、化学療法に伴う消化器症状や骨髄抑制に対する支持療法が確立し、診療形態が入院治療から外来治療へとシフトしつつあります。また一部の肺がんに対して、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬が開発され、患者さんの生活の質（QOL）を維持しながら、長期にわたって病勢をコントロールできるようになってきています。

### ■入院診療実績

#### □患者数

項目	人数
患者数	10,307
新入院患者数	699
平均在院日数	13.5日



# 呼吸器外科



診療科長 教授

佐藤 幸夫

## 診療科の特徴

呼吸器外科は肺、気管支、縦隔、胸壁の手術治療を担う科です。対象疾患は、肺がんを中心とし、転移性肺腫瘍、胸腺腫等の縦隔腫瘍などの腫瘍性疾患に加え、自然気胸、重症筋無力症、膿胸、多汗症、胸部外傷など多岐にわたります。中心疾患の肺がんの重要度はますます高くなってきています。日本は、現在2人に1人が‘がん’に罹患し、3人に1人が‘がん’で死亡する時代となりました。がん死亡を部位別にみると男女共に肺がんが最多です。肺がんの罹患と肺がんによる死亡は増え続けており、肺がんは、現在そして将来的にも日本人にとって最も重要な疾患であると言って過言ではありません。肺がんに対する最も効果的な治療は手術であり、手術可能な時期に発見し、手術を中心とした治療を行うことが肺がん対策のカギです。手術法は近年大きな進歩を遂げ、大きく胸をあける開胸手術から胸腔鏡を用いた体にやさしい低侵襲手術へと変遷してきています。当科では胸腔鏡を積極的に用い、さまざまな工夫を重ね、開胸手術を凌ぐ精度の肺がん手術を安全に遂行しています。

## 診療領域・体制

肺・気管支・胸壁・縦隔の外科疾患を対象に専門的な診療を行っています。胸部・呼吸器領域の腫瘍性疾患、悪性疾患の診断・治療、気胸・肺嚢胞性疾患・肺気腫、重症筋無力症、胸郭変形などの疾患の診断と外科手術を中心とした治療を行っています。外来は火曜

日を除く平日の午前中に行っています。疾患の性格上、外来初診の患者さんのほとんどは紹介患者ですが、胸部異常陰影の検査のためといった御依頼も受け付けています。入院患者は年間500名程度、手術例数は250件を超えています。診断においては、内科、放射線診断部、光学医療診療部、病理部と、また治療においても内科、放射線治療部、光学医療診療部との協力、会議を通して、外科治療のみにとどまらないきめ細やかな診療を心掛けています。治療においては、胸腔鏡を用いた低侵襲手術を積極的に取り入れ、痛みの少ない入院期間の短い手術を行っています。

## 対象疾患

肺がん、縦隔腫瘍、気胸、膿胸、胸壁腫瘍、悪性胸膜中皮腫、手掌多汗症 等

## 先進医療等への取り組み

### ■胸腔鏡手術

**適応症：**原発性肺がん・転移性肺腫瘍・縦隔腫瘍 等  
**内容：**従来の胸部の手術は、30cm前後の皮膚切開で筋肉と肋骨を切断し、肋間を開大して行われていました。時代の流れとともに低侵襲な手術が注目を集め、呼吸器外科の分野にも胸腔鏡手術という新しい方法が提唱されるようになりました。胸腔鏡手術とは、胸腔鏡という細いカメラを肋骨と肋骨の間から挿入して、テレビモニターに映し出される画面を見ながら手術を行う方法です。近年の胸腔鏡技術の進化により、

氏名	職名	専門分野
佐藤 幸夫	教授	呼吸器外科、肺がん治療、胸腔鏡手術、集学的治療
市村 秀夫	教授（日立社会連携教育研究センター）	呼吸器外科、肺がん治療、集学的治療
鬼塚 正孝	准教授	呼吸器外科、肺がん治療、腫瘍外科
後藤 行延	講師	呼吸器外科、肺がん治療、一般外科、胸腔鏡手術、気管支鏡診断治療、細胞診断
鈴木 久史	講師（茨城県地域臨床教育センター）	呼吸器外科、肺がん治療、胸腔鏡手術
菊池 慎二	講師	呼吸器外科、肺がん治療、一般外科、胸腔鏡手術、気管支鏡診断治療
井口けさ人	講師（水戸地域医療教育センター）	呼吸器外科、肺がん治療、一般外科、胸腔鏡手術、気管支鏡診断治療
小林 尚寛	講師	呼吸器外科、肺がん治療、胸腔鏡手術、気管支鏡診断治療

肺がんに対する標準手術（肺葉切除、縦隔リンパ節郭清）も4～5cmの皮膚切開で、筋肉や肋骨を切断することなく行うことが可能となりました。

当科では原発性肺がんの手術において9割以上を完全胸腔鏡下で行っています。胸腔鏡手術の導入により、術後の痛みは圧倒的に軽減され、術後合併症の減少や術後呼吸機能が維持されます。また、早期退院、早期社会復帰が可能となりました。当科では胸腔鏡手術において、安全で確実なリンパ節郭清法の確立や独自の手術器具の開発などに積極的に取り組み、学術集会等で提案し、高い評価を得ています。また、個々の患者さんの気管支・肺動静脈をCTデータを基に3D画像に再構成し手術シミュレーションを行い、更に手術の精度を向上させ区域切除等の積極的縮小手術も胸腔鏡下に遂行しています。

## 診療実績

### ■ 外来診療実績

#### □ 患者数

項目	人数
患者数	3,353
初診患者数	239
紹介患者数	210
逆紹介患者数	202

#### □ 治療に関するコメント等

##### 疾病・検査・手術実績

当科の昨年度の入院患者は年間4,461人、手術例数は298件で、原発性肺悪性腫瘍の手術件数は156件、転移性肺腫瘍の手術は36件でした。これら肺悪性腫瘍の手術の約9割を胸腔鏡を用い低侵襲に遂行しており、肺がんの手術後平均で7日で患者さんは退院され、当科の平均在院日数（化学療法等含む）8.7日となります。また術後補助化学療法が必要な患者さんには積極的に外来化学療法を導入し、昨年度は44例に施行しました。胸腔鏡手術による入院期間の短縮・外来化学療法により、治療の精度を高めながら患者さんの早期社会復帰を進めています。呼吸器内科・放射線科・病理・放射線腫瘍科・臨床腫瘍科とCancer boardを週1回行い、治療方針を決定しています。この体制により、進行例にも周学的治療を積極的に遂行しています。また、肺尖部胸壁浸潤肺がん・気管分岐部腫瘍等、難易度の高い症例を県内全域から紹介を受け、手術および術後集中管理を遂行しています。

### ■ 入院診療実績

#### □ 患者数

項目	人数
患者数	4,461
新入院患者数	443
平均在院日数	8.7日

#### □ 手術件数

術式	件数
原発性肺悪性腫瘍	156
転移性肺腫瘍	36
全手術件数	298

#### □ 治療成績

当科の肺がん手術成績は下記資料のように、IA期の5年生存率は90.4%と9割を超え非常に良好です。同様にIB期69.7%、IIA期70.2%、IIB期65.5%、IIIA期47.8%と全国調査と同等またはそれ以上に良好です。

特にIIA期、IIB期、IIIA期のリンパ節転移のある進行肺がんの成績は良好であり（肺癌登録合同委員会による全国調査ではIA期85.9%、IB期69.3%、IIA期60.9%、IIB期51.1%、IIIA期41.0%）、精度の高い縦隔リンパ節郭清と積極的な術後補助療法が功を奏していると考えます。

5年生存率 病理病期

p-stage	n	5 yr OS (%)	5 yr OS (%) Sq	5 yr OS (%) Ad
IA	374	90.4	76.2 (n = 57)	94.1 (n = 274)
IB	156	69.7	59.3 (n = 50)	74.3 (n = 86)
IIA	55	70.2	60.3 (n = 19)	76.2 (n = 30)
IIB	556	65.5	71.8 (n = 13)	71.7 (n = 30)
IIIA	106	47.8	36.9 (n = 25)	49.3 (n = 66)
IIIB	2	0	0 (n = 1)	- (n = 0)
IV	22	20.5	0 (n = 5)	32.1 (n = 16)



# 腎臓内科



診療科長 教授

山縣 邦弘

## 診療科の特徴

筑波大学附属病院開院以来、腎臓内科は糸球体腎炎の病態解明と治療をはじめとする腎臓疾患の診療と研究をしています。当科では腎臓内科疾患全般、腎臓病の早期発見としての検尿異常者の対処方法から、腎炎、ネフローゼ症候群の診断と治療、保存期慢性腎不全から透析導入、長期透析患者の合併症対策、腎臓移植後の治療管理まで、腎臓内科疾患の予防、診断、治療のすべての診療を行っています。さらに、腎疾患以外の肝疾患、自己免疫疾患や神経筋疾患などの疾患に対しても積極的に血液浄化療法などの治療を行っています。筑波大学腎臓内科学では、厚生労働省進行性腎障害調査研究班の急速進行性腎炎症候群分科会を代表して、本症の予後改善、診療指針の作成に中心的な役割を担っています。また平成19年度に開始した厚生労働省「腎疾患重症化予防のための戦略研究」の研究リーダー、平成22年度からは研究代表者として、かかりつけ医と腎臓専門医の協力体制による透析導入患者の減少を目指してきました。この戦略研究での知見をもとに慢性腎臓病の医療連携の構築と均てん化、及び医療施策への反映を検証してまいりました。更に平成27年度からは日本医療研究開発機構から「慢性腎臓病進行例の実態把握と透析導入回避のための指針の作成に関する研究」として、新規の透析導入患者減少に向け、理想の腎専門医の診療方法を検討しております。今後とも地域の医療機関の先生方との連絡を密に取りながら、腎疾患の診療と研究の発展に向け努力を継続します。

## 診療領域・体制

原発性糸球体腎炎、糖尿病・高血圧・膠原病等による二次性腎疾患、ネフローゼ症候群、多発性嚢胞腎を含めた遺伝性腎疾患、間質性腎炎など全ての内科的腎疾患、急性・慢性腎不全、維持透析や腎移植患者における合併症などを総合的に診断、治療、研究を行っています。また、腎疾患以外の肝疾患、自己免疫疾患や神経筋疾患などの疾患に対しても積極的に血液浄化療法などの治療を行っています。

外来では、全ての内科的腎疾患ならびに腎不全に対して、薬剤師、管理栄養士、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士等のメディカルスタッフと協力し、患者さん・家族を対象とした腎臓病教室の開催や、個別指導により、薬物療法、食事療法、生活指導を含めた総合的な治療を実践しています。また、心血管病をはじめとする多様な合併症についても、他診療科と協同して診療にあたります。

## 対象疾患

原発性糸球体腎炎（慢性糸球体腎炎、急速進行性糸球体腎炎、急性糸球体腎炎）、糖尿病・高血圧・膠原病等による二次性腎疾患、ネフローゼ症候群、多発性嚢胞腎を含めた遺伝性腎疾患、間質性腎炎、急性腎不全、慢性腎不全血液浄化療法：血液透析療法、腹膜透析療法その他の血液浄化療法の対象疾患：重症筋無力症、ギランバレー症候群などの神経筋疾患、全身性エリテマトーデス、劇症肝炎、術後肝不全、血栓性血小

氏名	職名	専門分野
山縣 邦弘	教授	内科、腎臓内科
斎藤 知栄	病院教授	内科、腎臓内科
植田 敦志	准教授（日立社会連携教育研究センター）	内科、腎臓内科
白井 丈一	准教授	内科、腎臓内科
森戸 直記	講師	内科、腎臓内科
甲斐 平康	講師	内科、腎臓内科
金子 修三	講師	内科、腎臓内科
河村 哲也	講師（茨城県西部地域臨床教育センター）	内科、腎臓内科
永井 恵	講師（神栖地域医療教育センター）	内科、腎臓内科
白井 俊明	講師（茨城県地域臨床教育センター）	内科、腎臓内科
藤田亜紀子	病院講師	内科、腎臓内科
角田 亮也	病院助教	内科、腎臓内科
田原 敬	助教	内科、腎臓内科

板減少性紫斑病、潰瘍性大腸炎、家族性高コレステロール血症、敗血症性ショック、コレステロール塞栓症、など

### 先進医療等への取り組み

先進医療B「コレステロール塞栓症に対する血液浄化療法」を平成25年より実施しており、血管内操作、血管外科の手術後にコレステロール塞栓症を発症し急速に腎機能障害が進行した患者さんに対するLDLアフェレーシス療法を施行しています。

### 診療実績

#### ■ 外来診療実績

##### □ 患者数

項目	人数
患者数	10,296
初診患者数	234
紹介患者数	212
逆紹介患者数	375

##### □ 検査件数

検査名	件数
腎生検	104

##### □ 検査に関するコメント等

腎疾患の確定診断に必要な腎生検は、主に超音波ガイド下で経皮的に、年間約90~100例（内訳は、微小変化型ネフローゼ症候群5%、巣状糸球体硬化症15%、膜性腎症15%、IgA腎症40%、膠原病性腎障害15%、その他10%）施行しています。また、関連医療機関で施行された腎生検標本に対しても病理組織診断（光学顕微鏡、蛍光抗体法、電子顕微鏡より）を年間約200例行い、各医療機関に報告しています。

##### □ 治療件数

治療名	件数
多発性嚢胞腎へのトルバプタン療法	10

##### □ 治療に関するコメント等

難治性遺伝性腎疾患である多発性嚢胞腎に対する新規治療薬トルバプタン療法を年間5~10例実施しています。

#### ■ 入院診療実績

##### □ 患者数

項目	人数
患者数	6,373
新入院患者数	337
平均在院日数	16.7日

##### □ 手術件数

術式	件数
内シャント造設術	63
透析用カフ付きカテーテル挿入術	13
PDカテーテル出口形成術	1

##### □ 手術に関するコメント等

血液透析や腹膜透析に必要なアクセスのための手術を年間約60~80例施行しています。

##### □ 治療成績（特徴的なもの）

慢性腎不全患者の新規透析療法導入数は年間50~70人、重症合併症に対する治療目的にて紹介される維持透析患者は年間30~50人、その他、急性腎不全患者や他臓器疾患の合併症を有する保存期慢性腎不全患者の検査・治療の際の一時的な透析療法を含めると延べ透析患者数は年間約300人に及びます。

また、劇症肝炎・術後肝不全などの肝疾患、全身性エリテマトーデス、ギランバレー症候群、重症筋無力症などの自己免疫疾患や神経筋疾患に対する血漿交換及び免疫吸着療法を年間20~30人、延べ年間80~100件施行しています。さらに、多臓器不全・systemic inflammatory response syndromeに対する持続血液透析濾過やエンドトキシン吸着療法も年間10~20件施行しています。



# 泌尿器科



診療科長 教授

西山 博之

## 診療科の特徴

我々、泌尿器科は、まず安全な医療を第一に、丁寧な説明と同意、患者さんの生活の質の重視、および先端医療の提供を基本姿勢として診療に当たっています。特に重点を置いているのが悪性疾患に対する治療です。膀胱癌においては経尿道的手術や膀胱全摘術、化学療法などを数多く行っていますが、生活の質を重視し陽子線治療を利用した膀胱温存療法やBCG免疫療法による膀胱温存療法も積極的に行っています。前立腺癌においてはDaVinci手術支援用ロボットを用いた前立腺全摘術や陽子線治療など幅広い治療選択肢を提供できます。希少疾患の難治性精巣腫瘍の化学療法やリンパ節郭清術の経験も豊富です。低侵襲手術である副腎、腎臓の体腔鏡手術、蛍光膀胱鏡を用いた新規膀胱癌診断法や、MRI画像を超音波画像に同期させた高精度前立腺生検法などの新たな技術も導入しています。泌尿器悪性腫瘍に関するセカンドオピニオンは県内のみならず全国から年間100件以上の相談を受け入れているほか、多くの臨床治験も実施しています。そのほか生殖、神経因性膀胱、女性泌尿器科の専門外来も開設し、結石や前立腺肥大症などの良性疾患も信頼のおける関連施設と協力して診療しています。

## 診療領域・体制

尿路性器癌（腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍など）、前立腺疾患（前立腺肥大症、排尿障害、前立腺炎など）、排尿生理、男性不妊症、男性機能障害、副腎疾患、尿路感染症、後腹膜腔の疾患など泌尿器科の全分野において専門的な診療を行っています。

## 対象疾患

前立腺癌、膀胱癌、腎細胞癌、精巣腫瘍、副腎腫瘍、排尿障害、男性機能障害、女性泌尿器疾患、不妊症等

## 先進医療等への取り組み

**適応症：**尿路性器癌（腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍など）

**内容：**膀胱癌に対しては、放射線腫瘍科とともに動注化学療法併用放射線治療による膀胱温存療法を行っています。また、リンパ節転移のあるケースに対する膀胱温存にも取り組み始めています。前立腺癌に対しては、放射線腫瘍科と緊密な連携を行い、通常の放射線治療だけではなく、IMRTや陽子線治療も行っています。前立腺癌、腎癌、精巣腫瘍を含め尿路性器癌全般に対しては、積極的に新規薬物療法（抗増殖剤や内分泌療法、分子標的薬、癌免疫療法、癌ワクチン等）の治験を行っています。また、基礎研究の分野では、「尿

氏名	職名	専門分野
西山 博之	教授	泌尿器腹腔鏡手術、泌尿器腫瘍学、生殖医学、泌尿器外科学
河合 弘二	病院教授	精巣癌、尿路上皮癌、前立腺癌に対する化学療法、腎臓癌に対する細胞・免疫療法
小島 崇宏	准教授	泌尿器外科学、泌尿器腫瘍学
星 昭夫	講師	泌尿器外科学、泌尿器腹腔鏡手術、再生医学
木村 友和	講師	泌尿器外科学、泌尿器腫瘍学
神鳥 周也	講師	泌尿器外科学、泌尿器腫瘍学
根来 宏光	講師	泌尿器外科学、排尿生理学、時間生物学、生殖医学
河原 貴史	病院講師	泌尿器外科学、泌尿器腫瘍学、癌緩和医療
池田 篤史	病院講師	泌尿器外科学
松岡 妙子	病院講師	泌尿器外科学
田中 建	病院助教	泌尿器外科学、排尿生理学
古城 公佑	助教	泌尿器外科学、男性不妊、男性機能障害
志賀 正宣	助教	泌尿器外科学、泌尿器腫瘍学

路上皮癌の遺伝子変異解析」等の研究を開始し、日々、新規治療法の開発にも取り組んでいます。外科的治療の分野においても、体腔鏡下腎部分切除を含めた先進的な体腔鏡手術の他、腎癌に対するソフト凝固を用いた無阻血腎部分切除のような腎機能温存を目指した手術を行っています。光線力学的診断（Photodynamic diagnosis; PDD）を応用した膀胱癌に対する内視鏡手術や3次元立体視下の体腔鏡手術、そしてDaVinciによるロボット手術を行っています。

## 診療実績

### ■ 外来診療実績

#### □ 患者数

項目	人数
患者数	15,780
初診患者数	607
紹介患者数	563
逆紹介患者数	676

#### □ 検査件数

検査名	件数/年
透視下処置（腎瘻造設、交換、尿管ステント留置、膀胱造影）	250
前立腺生検	62
後腹膜・腎生検	9

#### □ 治療件数

治療名	件数/年
膀胱温存療法（動注）	6
膀胱温存療法（静注）	13

#### □ 治療成績（特徴的なもの）

浸潤性膀胱癌に関する動注化学療法併用放射線治療では延べ140件を超え、膀胱温存率80%と良好な成績を示しています。また、精巣腫瘍に関しては転移巣がある場合にも積極的な化学療法にて80%以上の5年生存率を認めています。

### ■ 入院診療実績

#### □ 患者数

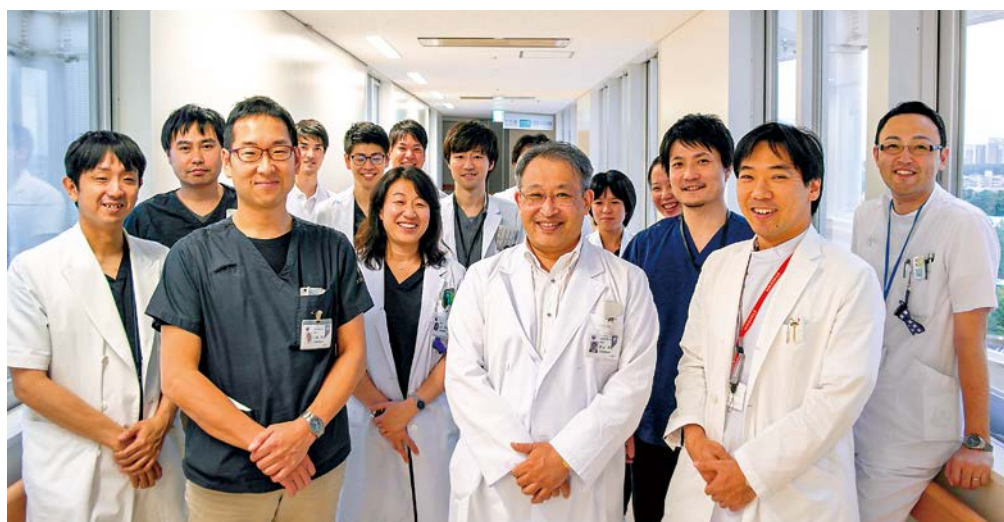
項目	人数
患者数	10,413
新入院患者数	922
平均在院日数	10.1日

#### □ 手術件数

手術総数：503件

#### □ 手術に関するコメント等

主な手術は、膀胱腫瘍関連（経尿道的膀胱腫瘍切除術141件、膀胱全摘術29件）、腎腫瘍関連（体腔鏡下腎摘術8件、開腹腎摘術10件、開腹腎部分切除術14件、ロボット支援腎部分切除術28件、体腔鏡下腎部分切除術1件）、腎盂尿管腫瘍関連（開腹腎尿管摘除術9件、体腔鏡下腎尿管摘除術8件）、前立腺腫瘍関連（ロボット支援手術83件）、精巣腫瘍関連（後腹膜リンパ節郭清18件）





診療科長 教授

島野 仁

## 診療科の特徴

当診療科は、動脈硬化を予防するための先端医療、人の繋がりを大切に世界をまたにける医療人材の育成、生活習慣病を科学する夢のある研究の発信をめざしています。

糖尿病の治療は、生活習慣をはじめ患者さんを取り巻く様々な環境の改善を必要とし、今だけでなく将来を見据えた生活習慣管理をチーム医療として展開しています。糖尿病教育入院は2週間を基本としていますが、専門的医療チームによる診療・指導体制を充実させています。また、糖尿病患者には、癌、血管合併症、認知症、膵臓・肝臓疾患、内分泌疾患が隠れていることが少なからずあり、これらを見逃さないことを当科では目標としています。

脂質異常症、肥満症、メタボリックシンドロームなどの代謝疾患について、動脈硬化性合併症予防の観点から、食事・運動療法指導などをふくむ幅広い対応を行っています。内分泌疾患（視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺）に関しては、茨城県のセンターとして専門的診療の提供に努めており、県内一円から広くご紹介をいただいております。

## 診療領域・体制

**糖尿病**：糖尿病の治療は、看護師や管理栄養士、薬剤師、理学療法士などと連携し、食事療法および運動療法に加え、各患者さんの病態やライフスタイルに応じ

た最適な治療法を選択し、治療にあたっています。合併症の進行した患者さんや1型糖尿病、糖尿病合併妊娠・妊娠糖尿病などを対象とするだけでなく、地域連携の一環として糖尿病教育入院も行っています。HbA1c $\geq$ 8.0%で入院を希望する患者さんがいらっしゃいましたら、積極的にご紹介ください。患者さんの持つすべての問題に対して細かく評価し、治療・対応方針を検討します。退院後、紹介元の医療機関にお戻りいただく時には、主治医の先生が安心して継続していただける治療方針を提示させていただきます。

**高脂血症（脂質異常症）**：原発性（家族性）高脂血症の診断・治療を行っています。

**内分泌疾患**：内分泌疾患の診断および内科的治療を行っています。また、外科的治療が必要な患者さんは、乳腺・甲状腺・内分泌外科や脳神経外科、腎泌尿器外科と連携し診療にあたっています。

## 対象疾患

糖尿病（1型糖尿病、2型糖尿病、糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病等）、甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病、亜急性甲状腺炎等）、脂質異常症、メタボリックシンドローム、肥満症、動脈硬化症、骨粗鬆症、視床下部・下垂体疾患（クッシング病、先端巨大症、プロラクチノーマ、非機能性下垂体腺腫、下垂体機能低下症、リンパ球性下垂体炎、重症成人成長ホルモン分泌不全症、抗利尿ホルモン不適切分泌症候群、中枢性尿崩

氏名	職名	専門分野
島野 仁	教授	糖尿病、内分泌、脂質異常症、動脈硬化症
川上 康	教授	糖尿病、内分泌
竹越 一博	教授	内分泌、糖尿病
野牛 宏晃	教授（水戸地域医療教育センター）	糖尿病、内分泌、脂質異常症、動脈硬化症
矢藤 繁	教授（取手地域臨床教育ステーション）	糖尿病、内分泌、脂質異常症
鈴木 浩明	病院教授	糖尿病、内分泌、脂質異常症、動脈硬化症
矢作 直也	准教授	糖尿病、脂質異常症、動脈硬化症
関谷 元博	准教授	糖尿病、脂質異常症、動脈硬化症
岩崎 仁	講師	糖尿病、内分泌、脂質異常症
菅野 洋子	病院講師	糖尿病、内分泌、脂質異常症
大崎 芳典	病院講師	糖尿病、内分泌、脂質異常症



症)、副甲状腺疾患(原発性副甲状腺機能亢進症、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症)、副腎疾患(原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、アジソン病、先天性副腎皮質過形成等)、消化管疾患(インスリノーマ・ガストリノーマ・カルチノイド等の消化管隣内分泌腫瘍)、多発性内分泌腫瘍症1型・2型。

### 先進医療等への取り組み

- ・インスリンポンプ(インスリン持続皮下注入療法)、皮下グルコース連続測定(CGM)

1型糖尿病や糖尿病合併妊娠などで血糖を厳格かつ安定的にコントロールしたい患者さんにインスリンポンプを積極的に導入しています。また、CGMを行い6日間の血糖変動を評価し、治療方針を決定しています。特に、CGM機能がインスリンポンプに組み込まれたSAP(sensor augmented pump)を用いることで、日々の血糖変動を連続的に評価したり、高血糖・低血糖アラームを用いたりすることで、重症低血糖のリスクを増やすことなく厳格な血糖コントロールが可能になってきています。

### 診療実績

#### ■ 外来診療実績

##### □ 患者数

項目	人数
患者数	15,530
初診患者数	367
紹介患者数	246
逆紹介患者数	512

#### ■ 入院診療実績

##### □ 患者数

項目	人数
患者数	5,298
新入院患者数	449
平均在院日数	10.7日

#### ■ 治療成績(特徴的なもの)

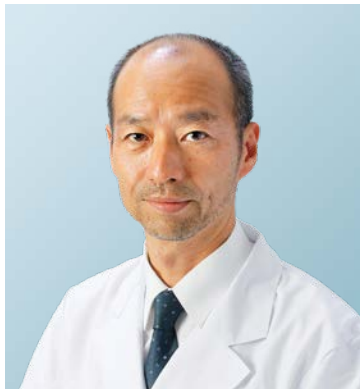
2018年度(入院、延べ人数、疑い症例も含む、主病名での分類)

##### □ 診療実績

1型糖尿病	30名
2型糖尿病	201名
糖尿病ケトアシドーシス	7名
糖尿病合併妊娠・妊娠糖尿病	5名
その他の糖尿病	19名
視床下部・下垂体疾患	47名
甲状腺疾患	5名
副甲状腺疾患	2名
副腎疾患	93名
低血糖症	9名
性腺疾患	1名
電解質異常	4名
その他内分泌代謝疾患	6名
その他	20名



# 乳腺・甲状腺・内分泌外科



診療科長 教授

原 尚人

## 診療科の特徴

乳腺・内分泌（甲状腺・副甲状腺・副腎）疾患の診断、治療を行っています。どの臓器も良性疾患、悪性疾患があり、経過観察、薬物療法、手術療法、放射線療法まで、様々な治療法があります。個々の患者さんの状態にあった治療が選択できるように、当科が中心となって説明し、放射線科、腫瘍内科、内分泌内科と連携し診療を行っています。最近の知見やガイドラインを踏まえ、患者さんの生活背景も考慮して、治療の御相談をしております。甲状腺・副腎疾患に関しては内視鏡や腹腔鏡、乳腺では乳房再建、といった整容性に配慮した手術も行っています。

## 診療領域・体制

### ■ 甲状腺疾患

甲状腺の良性疾患として、甲状腺機能異常や感染性疾患、良性結節、びまん性腫大があります。まず、薬物療法などの保存的治療を行います。バセドウ病では、長期の内服治療で寛解困難な症例では、①放射線内用療法（アイソトープ治療）、②外科的切除の選択をお勧めしています。内服薬で副作用が強い場合、眼症を認める場合、早期に妊娠を希望されている場合は、外科的切除をお勧めしています。巨大甲状腺腫に関しても、御相談により手術切除を行うこともあります。橋本病（慢性甲状腺炎）に関しては、甲状腺機能低下症が見られる場合は甲状腺ホルモンの補充をします。橋本病では、まれに悪性リンパ腫の合併を認め、特に急速に甲状腺が腫大する際には超音波検査が必要です。必要時には生検を行い、血液内科と連携して診断をしています。

甲状腺腫瘍については、超音波検査と細胞診で悪性を疑う病変か良性を疑う病変か診断しています。良性でも、硬く大きく、外見上あるいは生活に支障が出るもの、急速に大きくなる腫瘍に関しては、御相談し手術切除をしています。甲状腺癌に関しては、組織型、分化度、進行度に応じて、最も適切な治療法を選択できるよう御説明しています。

1 cm以下の癌（微小癌）に関して経過観察の選択もお勧めしています。進行度に応じて、外来で行える範囲の甲状腺摘出後の放射線内用療法や、近年保険適応となった薬物療法も行っています。

甲状腺の手術療法に関しては、良性疾患に対する内視鏡下の手術も保険適応で受けることができます。悪性疾患に関しては、根治性を保つことを重視していますが、高度先進医療として内視鏡補助下切除にも取り組んでいます。一般的な手術に関しても、根治性を重視し、なおかつ、合併症の少ない手術に取り組んでおり、副甲状腺機能の温存、反回神経の温存、喉頭周囲の発声に関わる筋肉の温存を心がけています。必要時には反回神経再建も行っています。

### ■ 副甲状腺疾患

原発性副甲状腺機能亢進症、二次性（腎性）副甲状腺機能亢進症に対する診断、手術を行っています。副甲状腺ホルモンの過剰分泌は、高カルシウム血症、骨粗鬆症、尿路結石の原因となります。高カルシウム血症は、倦怠感、頭重感、食欲低下など非特異的な症状から重症例では意識障害を来します。採血、尿検査で診断後、超音波検査やシンチグラフィで、腫大した副甲状腺腫瘍の局所診断を行い、手術切除しています。多くは、腺腫、時に過形成といった良性腫瘍ですが、まれに悪性腫瘍も認めます。二次性副甲状腺機能亢進症では、薬物療法的内科的治療も可能ですが、薬物療法でコントロール不良な場合には、腎臓内科と協議の上、手術切除を行うことがあります。

手術療法として、内視鏡補助下に手術も状況によっては選択することができます。

### ■ 副腎疾患

過剰分泌されるホルモンの種類により様々な症状を来します。

原発性アルドステロン症は、高血圧と低カルシウム血症

氏名	職名	専門分野
原 尚人	教授	乳腺外科、内分泌外科
穂積 康夫	教授（茨城県地域臨床教育センター）	乳腺外科、内分泌外科
坂東 裕子	准教授・病院教授	乳腺外科、内分泌外科
都島由希子	講師	乳腺外科、内分泌外科
井口 研子	講師	乳腺外科、内分泌外科
市岡恵美香	講師	乳腺外科、内分泌外科
澤 文	病院講師	乳腺外科、内分泌外科
岡崎 舞	病院助教	乳腺外科、内分泌外科
朝田 理央	クリニカルフェロー	乳腺外科、内分泌外科

を来します。クッシング症候群は、高血糖や高脂血症、高血圧、満月様顔貌、中心性肥満などを来します。褐色細胞腫は、頭痛、動悸、多汗、高血圧発作などを来します。いずれのホルモンの過剰分泌もしない非機能性副腎腫瘍も存在します。これらの診断で、入院が必要なものは内分泌内科で診断し、当科で手術を行っています。術前後でホルモン状態が変化するため、周術期の管理が必要な場合もあります。(開胸)開腹手術は、傷も大きく、時間も要するため、明らかに大きい又は悪性を疑うものを除き、腹腔鏡下に手術を行っています。

### ■ 乳腺疾患

当院の特徴は早期乳癌の確実な診断にあります。2003年には世界に先駆けて組織弾性映像法(エラストグラフィ)を日立メディコとともに開発しました。これにより、良性疾患への侵襲的な診断を回避することが可能となっています。確定診断は、穿刺吸引細胞診、針生検、吸引式組織生検、ステレオガイド下マンモトーム生検により行います。さらにMRI、CTを駆使して乳癌の広がりを実際に評価し、必要最低限の組織の切除を行っています。この15年間での乳房温存療法の局所再発率は1.5%であり、極めて定率です。初期の乳癌の治療方法には乳房温存療法、乳房切除術、御希望により形成外科チームと共に乳房再建術を提供しています。また、センチネルリンパ節生検を行い、リンパ浮腫予防に努めています。腫瘍の大きさや再発リスクに応じて、術前化学療法もしくは内分泌療法を行い、癌を縮小させた後に外科的切除を行う場合もあります。術後の放射線治療は放射線腫瘍科が担当し、コンピューターを用いて位置を正確に測定し照射範囲を決定しています。術前後の全身療法、再発治療は世界的な標準治療に基づき実施しており、また臨床試験や治験も積極的に導入しています。化学療法は快適性、安全性に配慮し、専門薬剤師や看護師の常駐する外来化学療法室で実施しています。遺伝診療部との連携により、家族性/遺伝性乳癌への対応も行っています。近隣の医療機関と“つくば乳癌ネットワーク”を設立し、定期的なカンファランスを開催し、お互いの交流を図りながら最先端の治療の知識を共有し、その能力の向上および適切な医療の提供に努めています。

### ■ 対象疾患

**内分泌疾患：**甲状腺、副甲状腺、副腎など

**乳腺疾患：**良性腫瘍、悪性腫瘍、炎症性疾患など全般



### ■ 先進医療等への取り組み

■ 内視鏡補助下甲状腺癌手術

**適応症：**甲状腺乳頭癌

**内容：**頸部に1.5～2.5cmの小切開をおき、内視鏡補助下に甲状腺切除および頸部リンパ節郭清を行います。

### ■ 診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	16,320
初診患者数	885
紹介患者数	812
逆紹介患者数	545

□ 検査件数

体表超音波検査(頸部、乳腺)

ステレオガイド下マンモトーム生検

□ 検査に関するコメント等

超音波検査は専門の超音波検査士、超音波専門医が担当しています。

□ 治療件数

治療名	件数
乳癌(新規症例)	417
甲状腺癌(新規症例)	100
バセドウ病(新規症例)	39

□ 治療に関するコメント等

化学療法は外来化学療法室における通院治療が主体です。

■ 入院診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	4,222
新入院患者数	542
平均在院日数	6.6日

□ 手術件数(2018年1月～12月)

術式	件数
乳房部分切除術	112
乳房切除術	178
乳房良性疾患手術	22
再建手術	39
甲状腺癌手術	88
副腎手術	12
甲状腺良性腫瘍術	24
バセドウ甲状腺全摘術	20
副甲状腺手術	22

□ 手術に関するコメント等

乳癌では形成外科と連携し、数多くの同時再建手術を行っています。乳輪乳頭温存乳房切除も実施しています。



診療科長 教授

住田 孝之

## 診療科の特徴

当診療科では、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群をはじめとする膠原病・自己免疫疾患の診療を行っています。近年、この分野の診療は、生物学的製剤や新規免疫抑制薬の臨床応用により、めざましい進歩を遂げています。我々は、サイエンスに基づく内科学を実践し、早期診断とエビデンスレベルの高い治療を提供しています。茨城県内においては膠原病・自己免疫疾患の専門医の数は十分とはいえない状況ですが、地域の一般病院、診療所とも連携をとりながら、最新・最善の医療を提供していけるよう、スタッフ一丸となって取り組んでいく所存です。

## 診療領域・体制

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、血管炎症候群等の膠原病・自己免疫疾患の診断及び治療が中心であり、現在約2,600名の患者さんが外来通院中です。入院患者は常時20～25名程度です。診療は紹介患者が中心で予約制を取っています。特定の医師が特定の疾患を専門に治療するというのではなく、特に入院中はチームによる合議制で診療を進めています。

## 対象疾患

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症、多発性筋炎/皮膚筋炎、混合性結合組織病、抗リン脂質抗体症候群、血管炎症候群、成人発症スチル病、脊椎関節炎、ベーチェット病、IgG4関連疾患等

## 先進医療等への取り組み

**適応症：**関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、IgG4関連疾患等

**内容：**当診療科では、自己免疫疾患の病因・病態の解明、疾患特異的治療の構築に向けて、多くの臨床研究を実施しています。また関節リウマチに対する新規生物学的製剤、分子標的治療薬の治験も実施しています。

**関節リウマチ：**生物学的製剤投与患者の画像評価（手専用コンパクトMRI、関節エコー）・有効性評価・安全性評価、新規生物学的製剤・分子標的治療薬の治験

**シェーグレン症候群合併関節リウマチ：**生物学的製剤の有効性評価

**全身性エリテマトーデス等：**疾患感受性遺伝子検索

**IgG4関連疾患：**治療ガイドラインの構築に向けた前向き治療研究

氏名	職名	専門分野
住田 孝之	教授	リウマチ、膠原病
松本 功	准教授	リウマチ、膠原病
後藤 大輔	准教授（茨城県地域臨床教育センター）	リウマチ、膠原病
千野 裕介	講師（水戸地域医療教育センター）	リウマチ、膠原病
坪井 洋人	講師	リウマチ、膠原病
近藤 裕也	講師	リウマチ、膠原病
萩原 晋也	病院講師	リウマチ、膠原病
高橋 広行	病院講師	リウマチ、膠原病
柳下 瑞希	病院助教	リウマチ、膠原病
安部 沙織	助教	リウマチ、膠原病
藏田 泉	助教	リウマチ、膠原病
大山 綾子	助教	リウマチ、膠原病

## 診療実績

### 外来診療実績

#### 患者数

項目	人数
患者数	19,219
初診患者数	357
紹介患者数	286
逆紹介患者数	295

#### 検査件数

検査名	件数
手専用コンパクトMRI	87
関節エコー検査	260

#### 治療件数

治療名	症例数
関節リウマチに対する生物学的製剤による治療（点滴静注製剤）※症例数	100

#### 治療に関するコメント等

生物学的製剤による治療は、投与形態が点滴静注のものについては外来化学療法室を使用して行います。

投与形態が皮下注射（自己注射の投与指導を含む）のものは、一般外来ブースで投与を行います。

#### 治療成績（特徴的なもの）

疾病・検査・手術実績

**関節リウマチ**：患者数約1,000名、生物学的製剤投与患者数約300名、手専用コンパクトMRI実施件数約100件/年、関節エコー実施件数約250件/年

### 入院診療実績

#### 患者数

項目	人数
患者数	8,503
新入院患者数	305
平均在院日数	23.9日



# 血液内科



診療科長 教授

千葉 滋

## 診療科の特徴

血液内科では、1日約60名の外来患者および約45名の入院患者の診療にあたっています。外来は13名で担当しています。入院診療は、スタッフ（主治医）、副主治医、受持医のチームで行います。診療対象となる疾患は、血液の腫瘍、造血障害性の疾患、種々の溶血性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、血友病など、あらゆる血液疾患です。治療の進歩が著しい分野ですが、次々に登場する新薬を導入しています。また従来から行ってきた造血幹細胞移植については、数の上でも質の上でも一段と充実してきました。初診の患者さんは原則として月曜日と金曜日に血液内科スタッフが担当いたします。かかりつけの患者さんで、急を要する場合には「予約方法等」の連絡先に御連絡いただき、指定時間帯以外でも受診可能です。入院患者の診療については、チーム外のスタッフも含め密に治療方針を協議し、一方患者さんにはできるだけ病状を詳細に説明して治療方針を御理解いただき、患者さんと共通の理解のもとで治療が行われるよう努力を重ねています。

## 診療領域・体制

血液疾患の診断と治療、造血幹細胞移植（骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植）、血縁者ドナーからの骨髄および末梢血幹細胞採取、非血縁者ドナーからの骨髄採取 等

## 対象疾患

急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血、溶血性貧血（自己免疫性、発作性夜間ヘモグロビン尿症など）、特発性血小板減少性紫斑病、真性赤血球増加症、原発性骨髄線維症、本態性血小板血症、血友病 等

## 診療実績

### 外来診療実績

患者数

項目	人数
患者数	13,636
初診患者数	379
紹介患者数	348
逆紹介患者数	260

検査件数（入院・外来共通）

検査名	人数
骨髄穿刺	842件

診療科紹介

氏名	職名	専門分野
千葉 滋	教授	造血器腫瘍、造血幹細胞移植、再生不良性貧血
二宮 治彦	教授	再生不良性貧血、発作性夜間血色素尿症、溶血性貧血等の貧血性疾患
長谷川雄一	病院教授	造血幹細胞移植、造血器腫瘍、血友病、輸血医学
小原 直	准教授	再生不良性貧血、造血器腫瘍
坂田麻実子	准教授	造血器腫瘍
錦井 秀和	准教授	造血器腫瘍、造血幹細胞移植、血小板疾患
横山 泰久	講師	造血幹細胞移植、造血器腫瘍、成人慢性好中球減少症
栗田 尚樹	講師	造血幹細胞移植
日下部 学	講師	造血器腫瘍
加藤 貴康	講師	造血器腫瘍
坂本 竜弘	病院講師	再生不良性貧血、骨髄異形成症候群
丸山ゆみ子	病院助教	血液内科全般
服部圭一朗	病院助教	造血器腫瘍

□治療件数

造血器腫瘍に対する化学療法	
実患者数	216人
化学療法延べ件数	1,120件

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	16,201
新入院患者数	648
平均在院日数	22.6日

□治療件数

治療名	
同種造血幹細胞移植	42件
自家造血幹細胞移植	8件
造血器腫瘍に対する化学療法（実患者数）	240人
造血器腫瘍に対する化学療法（延べ件数）	642件

■治療成績（特徴的なもの）

化学療法のみでは治癒を期待しにくいタイプの白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫などに対する、造血幹細胞移植に積極的に取り組んでいます。移植件数は全国の大学病院のなかでも有数の規模に達しており、2017年度より、造血幹細胞移植学会認定施設に指定されています。複数の移植学会認定医や、移植コーディネータなど移植専門のスタッフを擁しています。また24の個室を有する血液内科病棟はフロア全体が無菌エリアであり、感染症をより起こしにくい環境で治療を受けることができるだけでなく、治療中も行動が制限されにくい環境が整っています。最近では移植の方法を工夫することで、高齢の方への移植（ミニ移植）や、ドナーの見つかりにくい方への移植（臍帯血移植や親子間移植）も可能となってきました。当施設ではこれらの移植の臨床試験にも取り組んでおり、その成果を国際学会や国際誌に発表しています。



■初診患者数（コンサルテーション含む）

項目	人数
2009	326
2010	417
2011	434
2012	395
2013	448
2014	484
2015	493
2016	445
2017	527
2018	513

□主な疾患別患者数（2009年4月～2018年3月）

項目	人数
急性骨髄性白血病	317
急性リンパ性白血病	111
慢性骨髄性白血病	102
慢性リンパ性白血病	31
成熟B細胞腫瘍（形質細胞腫瘍を除く）	1,193
成熟T細胞およびNK細胞腫瘍	145
ホジキンリンパ腫	84
多発性骨髄腫（形質細胞腫瘍）	312
骨髄異形成症候群	235
骨髄増殖性腫瘍（慢性骨髄性白血病を除く）	230
再生不良性貧血	105
特発性血小板減少性紫斑病	234
発作性夜間ヘモグロビン尿症	6
自己免疫性溶血性貧血	29
血友病	115
その他	1,779
※造血幹細胞移植ドナー	225

# 精神神経科



診療科長 教授

新井 哲明

## 診療科の特徴

茨城の地域精神医療の発展に貢献することを最大の使命とし、従来からの精神医療はもとより、認知症あるいは小児のこころの医療の充実に努力して新しい時代が求める心の医療体制を作っています。精神疾患に悩まれる患者さんが増え続けている現状のなかで、地域の医療機関と協力しつつ良い関係を築いていきたいと思っています。

## 診療領域・体制

大学病院の中の精神神経科として、うつ病、神経症、摂食障害をはじめ、統合失調症、認知症性疾患、児童や思春期の精神障害などの外来及び入院診療を行っています。身体合併症を持つ患者さんについては他の診療科と連携して治療に当たっています。また内科や外科の入院患者に対するコンサルテーション・リエゾン精神医学にも積極的に取り組んでいます。

初診の患者さんの診察ではおよそ1時間を、再診でも可能な限りの時間をかけて患者さんの悩みを十分に傾聴しています。

患者さんの一日も早い社会復帰を念頭に入れた治療を目指し、入院中は、薬物療法や精神療法を中心とした治療を行っています。2013年4月からは、外来患者を対象としてデイケアをオープンしました。

## 対象疾患

うつ病、神経症、摂食障害、統合失調症、認知症性疾患、児童・思春期の精神障害 等

## 先進医療等への取り組み

■もの忘れ外来

**適応症：**認知症、神経変性疾患など

**内容：**認知症の早期発見は大きな意義をもちますが、アルツハイマー病の初期状態などごく軽度の認知症の診断には、年齢相応の「もの忘れ」との鑑別が問題となるなど独特の難しさもあります。こうした初期認知症について正確に診断し効果的な治療を行うため、「もの忘れ外来」を行っています。

頭部画像検査（MRI、SPECTなど）、脳波検査、遺伝子診断などの検査により正確な診断に取り組んでいます。

治療については、進行を遅らせる抗認知症薬だけでなく根治につながる疾患修飾薬の治験も行っています。治療については外来治療が中心ですが、診断のために短期間の入院精査を行うこともあります。「もの忘れ外来」は月・火・金曜日に初診の患者さんを診療しています。

氏名	職名	専門分野
新井 哲明	教授	認知症、老年期精神障害、うつ病
太刀川弘和	教授（災害・地域精神医学）	うつ病、統合失調症
今井 公文	教授（日立社会連携教育研究センター）	統合失調症、認知症、不眠症
佐藤 晋爾	教授（茨城県地域臨床教育センター）	うつ病、統合失調症、せん妄
根本 清貴	准教授	うつ病、統合失調症、周産期メンタルヘルス
太田 深秀	准教授	認知症、うつ病、統合失調症
井出 政行	診療講師	うつ病、統合失調症
白鳥 裕貴	診療講師	うつ病、統合失調症
松崎 朝樹	診療講師	うつ病、躁うつ病、統合失調症
塚田恵鯉子	病院講師	うつ病、統合失調症、認知症
田村 昌士	病院講師	統合失調症、双極性障害、うつ病
袖山 紀子	助教	統合失調症、気分障害
高橋 卓巳	病院助教	うつ病、器質性精神障害
渡部 衣美	病院助教	周産期メンタルヘルス、摂食障害



### ■ 周産期メンタルヘルス外来

出産は喜ばしいものでありますが、同時に、母親となった女性にとっては人生が大きく変わることも意味しており、その中でうつ状態になってしまうことも決してまれではありません。このため、当科では産婦人科と連携して、妊娠中から心のケアを行っております。これまでにこころの病気を患っていた方が妊娠した場合、または、妊娠してからこころのバランスを崩してしまった場合、当科でも診察させていただき、よい出産を迎えることができるように協力していきます。また、産後のケアも行っています。

### ■ 摂食障害専門外来

近年の摂食障害の重症化および低年齢化に対応するため、2017年7月より摂食障害専門外来を開設し、専門的治療を行っています。丁寧な問診とともに、心理検査、画像検査、疾患教育、ご家族へのアドバイスなどを行い、重症例は必要に応じて速やかに入院治療につなげています。

### ■ 精神科デイケア

うつ病患者のためのリワークデイケアおよび認知症進行予防のための認知力アップデイケアを実施しています。

## 診療実績

### ■ 外来診療実績

#### □ 患者数

項目	人数
患者数	21,158
初診患者数	527
紹介患者数	488
逆紹介患者数	629

#### □ 検査に関するコメント等

必要に応じて各種心理検査を実施しています。

#### □ 治療に関するコメント等

もの忘れ外来、児童思春期外来、周産期メンタルヘルス外来と専門外来を開設しています。

### ■ 入院診療実績

#### □ 患者数

項目	人数
患者数	8,931
新入院患者数	251
平均在院日数	32.2日

#### □ 手術件数

術式	件数
修正型電気けいれん療法	600

#### □ 治療成績（特徴的なもの）

うつ病、統合失調症、認知症の他に、摂食障害の低体重治療プログラムに取り組んでいます。



# 皮膚科



診療科長 病院教授

藤澤 康弘

## 診療科の特徴

茨城県唯一の特定機能病院として、各種皮膚疾患に対して高度な診療を提供できるように努めています。経験豊富な専門医による視診をはじめとして、ダーモスコピー検査や病理組織学的診断も駆使し、やや深い病変の場合には超音波、CT、MRIなどの画像検査も組み合わせて診断しています。治療にあたっては、内服や外用はもとより皮膚外科治療や各種レーザー治療、紫外線照射療法、生物学的製剤治療なども積極的に行っています。この診断と治療にあたっては各段階で患者さんとよく相談し、負担が少ない治療を納得して受けていただけるよう心がけています。

初診外来は月～金曜日の午前に行っており、特に十分な時間をかけて診療にあたっています。さらに十分な検討が必要な患者さんは火、木曜日の昼に皮膚科構成員一同で診察して診断や治療方針を決定しています。

紹介への迅速な対応と症状安定後の逆紹介を通じて、地域の医療機関と密接に連携を図っています。

## 診療領域・体制

皮膚科全般にわたって高度な診療を十分な説明のもとに行っています。また、重篤な皮膚科急性疾患（蜂窩織炎、带状疱疹、薬疹など）の入院対応も積極的に行っています。

## 対象疾患

皮膚科全般を取り扱っています。特に以下の疾患については専門外来を設けて力を入れています。

**膠原病外来：**強皮症、皮膚筋炎、エリテマトーデスなど。

**アトピー・アレルギー外来：**アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、金属アレルギー、食物アレルギーなど。

**水疱症外来：**天疱瘡や類天疱瘡など自己免疫性水疱症、先天性表皮水疱症。

**乾癬外来：**尋常性乾癬、膿疱性乾癬、関節症性乾癬、乾癬性紅皮症など。

**腫瘍・皮膚外科外来：**基底細胞癌、有棘細胞癌、悪性黒色腫、乳房外パジェット病、皮膚リンパ腫など皮膚悪性腫瘍。先天性色素性母斑、脂腺母斑など皮膚良性腫瘍のほかに慢性膿皮症、熱傷など。

**レーザー外来：**単純性血管腫、太田母斑、異所性蒙古斑、いちご状血管腫など。

## 先進医療等への取り組み

### ■ 膠原病外来

膠原病の初期症状が皮膚に現れることも多く、皮膚症状に血液検査や他の検査所見と合わせて膠原病を早期かつ的確に診断することを心がけています。内科などの他科ともよく連携を図り、入院あるいは外来で治療を行います。

### ■ アトピー・アレルギー外来

治療に難渋するアトピー性皮膚炎には十分な診察時間をかけ、治療の見通しとそのための手段を患者さんと共有するよう心がけています。アトピー性皮膚炎に対しては、抗IL-4/13受容体抗体デュピクセントを皮切りに次々と新薬が登場してきており、こういった新規治療法も積極的に行っていますが、生活やスキンケア、外用の指導をきめ細かく行うことを基本にしてい

氏名	職名	専門分野
藤澤 康弘	准教授、病院教授	皮膚腫瘍
石井 良征	講師	レーザー治療
沖山奈緒子	講師	膠原病、皮膚免疫疾患、皮膚アレルギー疾患
渡辺 玲	講師	水疱症、乾癬、膠原病
石塚 洋典	講師	皮膚腫瘍、角化症
中村 貴之	病院講師	皮膚腫瘍
齊藤 明允	病院講師	膠原病、皮膚アレルギー疾患
井上 紗恵	病院助教	乾癬、皮膚腫瘍
久保田典子	病院助教	膠原病、皮膚アレルギー疾患

ます。アレルギー性疾患においては、詳細な問診や検査をもとに原因を追及しています。アレルギーは生活に密着した因子が関係するため、原因同定が困難ですが、生活すべてに関わる問題です。詳しい問診を基本に、問題を一つずつ解きほぐし、適切な検査を行うことを目指しています。

#### ■水疱症外来

初期治療の多くは入院で行っています。ステロイド抵抗性の場合には免疫抑制剤の併用や二重膜濾過血漿交換療法、大量免疫グロブリン療法を組み合わせ、最少の副作用で寛解に導入できるよう努めています。

#### ■乾癬外来

外用療法だけでは効果が不十分な症例に対し、内服や光線、生物学的製剤を組み合わせ治療しています。患者さん個々の事情、要望に最も適した治療を提供するよう努めています。

#### ■腫瘍・皮膚外科外来

治療は、入院での手術や化学療法を中心とし、積極的に放射線腫瘍科と連携し、放射線治療も行っています。病変が比較的小さな場合は、外来での日帰り手術も行っています。病変が大きい、他の合併症がある、高度な治療が必要であるなどの場合は入院での治療が中心となります。手術、化学療法、放射線治療といったこれまでの治療だけでなく、最新のオプジーボをはじめとする免疫チェックポイント阻害剤による免疫治療や、分子標的薬を用いた治療も行っています。

#### ■レーザー外来

色素レーザー (Vbeam<sup>®</sup>、Candela社製)、Qスイッチアレキサンドライトレーザー (ALEXLAZR<sup>®</sup>、Candela社製) を保有しており、それぞれ赤、黒の色素を持つあざに有効です。レーザーの効果は疾患によって、また患者さん個人でまちまちであるため、よく相談し、治療を開始しています。

### 診療実績

#### ■外来診療実績

##### □患者数

項目	人数
患者数	19,205
初診患者数	1,275
紹介患者数	1,223
逆紹介患者数	552

##### □検査件数

検査名	件数
皮膚生検	415
超音波検査	258
パッチテスト	84

##### □治療件数

治療名	件数
Qスイッチ付レーザー照射	131
色素レーザー照射	234

##### □治療に関するコメント等

皮膚レーザー照射及び紫外線療法はのべ件数

#### ■入院診療実績

##### □患者数

項目	人数
患者数	5,171
新入院患者数	337
平均在院日数	14.1日

##### □手術件数

術式	件数
皮膚皮下腫瘍摘出術	275
皮膚悪性腫瘍切除術	133
リンパ節生検	16
リンパ節郭清術	10
植皮、皮弁形成	75



# 小児内科



診療科長 教授

高田 英俊

## 診療科の特徴

総合周産期母子医療センター、小児総合医療センター、小児集中治療センター（小児救命救急センター）の基盤の上で、院内各診療科・各部門および学内外の医療機関／研究室等との協力によって総合集学的治療・トータルヒューマンケア体制を整えています。

新生児、循環器、肝・消化器、神経・筋、代謝・内分泌、小児がん、血液・免疫疾患など、高度な専門医療を提供できるスタッフが揃い、一方では救急・集中治療体制を整備して、互いに協力しながら患者さん中心の診療を展開しています。さらに、小児外科と病棟を共有して密接な連携をとっています。

こころの診療の分野でもチーム医療を実践しています。小児医療は、地域を含めた総合的な力が必要な分野であり、同時に子どもを取り巻く環境をどう整備するかが問題になります。そのためには地域の社会資源（医療機関、行政機関他）との連携と情報共有がスムーズにできるように尽力しています。また、筑波大学の小児科のホームページでは、抄読会や症例検討会、様々な研修集会などの情報を掲載しています。

## 診療領域・体制

小児科疾患の全領域をカバーできる専門家が揃っている点、産科、遺伝医学、社会精神保健学研究室、ヘルスサービスリサーチ研究室、障害科学域の専門家と密接な連携がとられている点を特徴としています。従って未熟児・新生児から学童・思春期に至る年齢層を受入れ、一日平均50名の患者さんが外来受診しています。外来は、初診・再診にかぎらず、原則として予約制

をとっています。しかし、小児では救急疾患も多いため、予約なしで来院された患者さんにも対応します。夜間及び土曜日、日曜日、祝日を含めて、必ず小児科専門医が複数で対応します。小児集中治療センターにおいては、小児内科、小児外科、心臓血管外科、脳神経外科、救急・集中治療科ほかすべての診療科、輸血部、血液浄化療法部、手術部等と協力して万全の準備を整えています。

技術革新が盛んな領域である遺伝診療、医療用ロボット／先進的な医療機器、および先制医療を積極的に取り入れています。

## 対象疾患

**新生児疾患**：産婦人科との密接な連携のもと、胎児から新生児に至る一貫した周産期医療の提供を行っています。新生児集中治療室では早産児や低出生体重児などいわゆる未熟児の治療に加えて、様々な合併症を有する妊婦より出生した新生児の管理を行っています。そして、小児外科、心臓血管外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科などの関連各科を網羅している大学病院の特性を生かして、ほぼ全領域の新生児疾患に対して一元的かつ一貫した治療を行っています。新生児の外来では以上のような治療を受けたのちに退院した子どもの発達を見守るとともに、積極的なサポートを行っています。

**循環器疾患**：平成20年度から日本小児循環器学会専門医育成施設に認定されました。

先天性心疾患、川崎病、心筋疾患、不整脈をはじめとして小児の心臓疾患全般に診療を行っています。1年間に平均200名の新たな紹介患者があり、心エコー検査、心電図、運動負荷心

氏名	職名	専門分野
高田 英俊	診療科長、教授	免疫不全・自己炎症性疾患、小児膠原病、総合
須磨崎 亮	客員教授（茨城県立こども病院）	小児肝・消化器疾患、感染性免疫疾患、総合
宮園 弥生	病院教授	新生児、遺伝
竹田 一則	教授（筑波大学人間系障害科学）	小児アレルギー、障害科学
鴨田 知博	教授（茨城県地域臨床教育センター）	小児内分泌・代謝、腎、総合
堀米 仁志	教授（茨城県小児地域医療教育ステーション）	小児循環器
齋藤 誠	准教授（茨城県地域臨床教育センター）	新生児
小林 千恵	准教授（茨城県小児地域医療教育ステーション）	小児血液・腫瘍
大戸 達之	講師	小児神経・筋疾患、遺伝
高橋 実穂	講師	小児循環器
岩淵 敦	講師	小児内分泌・代謝
福島 紘子	講師	小児血液・腫瘍、遺伝
田中 竜太	講師（茨城県小児地域医療教育ステーション）	小児神経・筋疾患
田川 学	講師	小児肝・消化器疾患
鈴木 涼子	講師	小児血液・腫瘍
日高 大介	病院講師	新生児
八牧 愉二	病院講師	小児血液・腫瘍、遺伝子治療
村上 卓	病院講師	小児循環器
金井 雄	病院講師	新生児
榎園 崇	病院講師	小児神経・筋疾患、遺伝
今川 和生	病院講師	小児肝臓・再生医療
榎本 有希	病院講師（救急・集中治療科）	救急、小児救急
竹内 秀輔	病院助教	新生児
永藤 元道	病院助教	新生児
森田 篤志	病院助教	小児肝・消化器疾患

電図、心肺機能検査、心筋シンチグラフィ等のもとより、小児心臓カテーテル検査・治療は、不整脈に対する電気生理検査、カテーテル焼灼術を含め年間約100例施行しています。また、出生前診断にも積極的に取り組み、特に全国に先駆けて最新の胎児心磁図診断法を臨床に取り入れました。この方法を用いると母体にも胎児にも全く負担をかけずに心臓病の出生前診断ができ、全国的に注目を集めています。また成人に達した先天性心疾患患者の増加に対応するため平成22年5月から、循環器内科、循環器外科、産科と協力し、成人先天性心臓病外来を開設しました。

**肝・消化器疾患：**食道静脈瘤や胃食道逆流、慢性腹痛や消化性潰瘍、ピロリ菌感染症、胆道閉鎖症などの胆汁うっ滞性疾患、ウイルス性肝炎や遺伝性・代謝性肝疾患、肥満・やせ、脂肪肝、便秘などの生活習慣病、膵炎などの膵臓疾患や胆石・胆管炎、炎症性腸疾患やポリープ、在宅栄養管理など、栄養・消化器・肝胆膵疾患を幅広く対象としています。消化管出血などの緊急時には休日昼夜を問わず迅速に内視鏡検査・治療を行います。

**内分泌代謝疾患：**小児のホルモンに関する疾患全般の診療を行っています。特に小児糖尿病（1型）については常に最新機器による治療を導入し、患者さんが自ら治療を行えるための支援・教育に注力しています。また、新生児マススクリーニング検査でエネルギー代謝に関する疾患等が疑われたお子さんに対する診断・治療を行います。

**腎疾患：**長期治療が必要となる腎臓の慢性疾患に対しては、薬物の副作用を最小限に、生活の質を最大限にできるように、短期入院と外来を組み合わせて治療します。学校検尿陽性者の精査・治療を行っています。

**神経・筋疾患、発達障害：**てんかん、筋疾患、神経変性疾患、炎症性中枢神経疾患などを対象としています。ビデオ脳波同時記録装置、脳血流シンチグラフィ、筋生検、遺伝診断、脳画像の定量的解析など先進的な手法を積極的に取り入れ、幅広い診療を行っています。また、発達や行動の問題、心の問題（15歳まで）の診療を行っています。必要に応じ、医学的検査、心理検査を併用しながら、心理面接、親面接、薬物療法を用い診療を行っています。

**原発性免疫不全症・小児リウマチ／膠原病・自己炎症性疾患：**精密検査、遺伝子診断、生物学的製剤を用いた治療など最新の診断・治療を行っています。

**腫瘍・血液疾患：**悪性腫瘍、血液疾患の総合的診療を行っています。血友病など生涯を通じての医療が必要な場合には、血液内科や産婦人科との連携を図り、化学療法、造血幹細胞移植や放射線治療などを含む悪性腫瘍の集学的治療は、小児外科、脳神経外科、放射線腫瘍科等の院内各科、更に全国的及び国際的な共同診療・医学研究を積極的に推進し、治療成績の一層の向上を目標にしています。

**遺伝診療：**小児期に発生する先天奇形や遺伝病の患者さんに対し、遺伝診療部と連携して診療に当たっています。また、探索的な遺伝診断の研究等にも積極的に取り組んでいます。

### 先進医療等への取り組み

■ 先進医療B：経胎盤的抗不整脈薬投与療法（小児科、産婦人科）

**適応症：**胎児頻脈性不整脈（胎児心拍数が毎分180以上で持続する心房粗動または上室性頻拍に限る）

**内容：**胎児頻脈性不整脈は、胎児心不全をきたし、子宮内死亡へ至る可能性があります。筑波大学附属病院では、胎児心磁図

を施行することにより、より詳細な不整脈診断ができるようになりました。本治療は、入院、24時間の安全管理のもとで行われています。小児循環器医による胎児心臓超音波検査および胎児心磁図にて不整脈の診断を行い、抗不整脈の使用薬剤および投与量を選択します。胎児心拍モニタリング下で、母体を介し経胎盤的に胎児へ投与し、胎児頻脈性不整脈の消失、早期娩出の減少および胎児死亡率の低下などの効果が期待できます。

■ 先進医療A：EBウイルス感染症迅速診断（リアルタイムPCR法）（小児科・血液内科）を実施中です。EBウイルス関連腫瘍、EBウイルス関連血球貪食症候群、免疫不全状況下のEBウイルス感染症、臓器移植後のEBウイルス関連リンパ球増殖性疾患等を対象として、迅速診断を実施中です。

### 診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	17,097
初診患者数	1,187
紹介患者数	489
逆紹介患者数	694

■ 診療手技等の実績（年間）

項目	件数
頭部超音波	1,000
心臓超音波診断 （胎児心臓超音波）	1,200
体幹部等超音波	240
心臓カテーテル	1,000
カテーテル治療	120
胎児心磁図	35
消化管内視鏡診断・治療	95
腎生検	50
肝生検	5
骨髄穿刺・生検	4
脳波	40
長時間ビデオ脳波同時記録	150
筋生検	20
筋電図/末梢神経伝導速度	4
腹膜透析（症例数）	10
交換輸血	2
血漿交換	3
ECMO	3
CHDF・サイトカイン吸着療法	2
一酸化窒素（NO）吸入療法	3
低体温療法	8
経皮的中心静脈カテーテル	3
光線療法	90
	320

■ 入院診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	19,612
新入院患者数	1,273
平均在院日数	13.4日



# 小児外科



診療科長 教授

増本 幸二

## 診療科の特徴

小児外科では、新生児外科疾患、小児がん、肝移植を含む胆道閉鎖症への治療を3つの柱として、臨床や研究を行っています。患者さんのニーズに応えた最適と考えられる最新医療を提供することに努めてきましたが、これからはさらに長期の美容的なことも含めた術後生活の質をどれだけよいものにできるかを考え実践しています。特に小児では、疾患の治療後も成長発達を考慮しなければならず、そのため可能な限り侵襲の少ない最適で安全な治療、しかも術後の長期にわたった生活の質の改善をする工夫を行うことが必要です。現在は細径の器材を用いた鏡視下手術や手術創の大きさ・位置を工夫した傷の目立ちにくい手術の適応拡大、合併症を少なくする周術期管理の工夫、長期のフォローアップについては小児内科を含む関係各科と連携して行うなどの工夫を進めています。

## 診療領域・体制

新生児・低出生体重児外科を中心とした小児外科一般及び、小児がん、肝移植、小児泌尿器科などの専門分野の患者さんが、茨城県内外から紹介され、治療を受けています。小児外科の対象疾患の多くは緊急性の高い疾患であるため、外来日は月～金曜日まで毎日開き新規の患者さんに対応しています。また、時間外・夜間・休日の診療にも、小児外科専門医をもつ医師が連日当直体制をとって対応しています。入院ベッド数は約20床で、入院患者数約600人、年間手術件数は約500件です。

## 対象疾患

### ■新生児疾患

食道閉鎖、十二指腸閉鎖、腸閉鎖、腸回転異常、新生児壊死性腸炎、鎖肛、ヒルシュスプルング病、先天性横隔膜ヘルニア、気管肺疾患などの緊急の治療を要する疾患に対して、いつでも迅速に入院手術を行い、高い治癒率・救命率を得ています。また、疾患によっては当院が茨城県唯一の治療施設になっています。国立大学のなかにあつて、筑波大学は新生児外科の患者数が多く、その治療成績もトップレベルにあります。当院では新生児未熟児の集中治療施設（NICU）があり、産科医・新生児専門医と連携して体重1,000gに満たない小さな患者さんの救命にも多く成功しています。また、2005年から茨城県周産母子総合医療センターの指定を受け、より困難な低出生体重児の外科的な治療にチャレンジしています。

### ■乳児・小児疾患

ヒルシュスプルング病、胆道閉鎖症や拡張症、腸重積症、水腎症、気管軟化症など、あらゆる疾患に対応しています。特にソケイヘルニアや停留精巣は頻度も高く、紹介患者が多数来院されています。麻酔科と連携して乳児期早期でも安全に手術を行っています。さらに乳児や小児に対しても積極的に腹腔鏡下、胸腔鏡下手術を導入し、患者さんの負担がより少ない手術を心掛けています。治療困難な気管肺疾患にも最先端の治療を行っています。毎月第1水曜日の午前には気管肺疾患の専門外来を行っています。

氏名	職名	専門分野
増本 幸二	教授	小児外科、新生児外科、外科代謝栄養、小児泌尿器外科
高安 肇	病院教授	小児外科、新生児外科、小児腫瘍
新開 統子	講師	小児外科、小児腫瘍
瓜田 泰久	診療講師	小児外科、新生児外科、小児泌尿器外科
神保 教広	病院講師	小児外科、新生児外科、内視鏡外科
小野健太郎	診療講師	小児外科、新生児外科、外科代謝栄養
千葉 史子	病院講師	小児外科、小児腫瘍
佐々木理人	病院助教	小児外科、新生児外科、外科代謝栄養

## ■移植外科

肝移植を茨城県下で唯一行っており、すでに胆道閉鎖症、劇症肝炎などの小児に対し肝移植を32例施行し、非常に手術が困難な患者さんを含めて優れた成績を上げています。消化器外科、形成外科、麻酔科などと連携し、看護体制を含め、充実した移植チームが治療に当たっています。また、移植専門外来は第3週の木曜日に行っています。

## ■悪性腫瘍

小児の固形がんの治療に積極的に取り組み、治療成績は国の内外でトップレベルにあります。神経芽腫治療のグループスタディの事務局が筑波大学小児内科に置かれ、治療成績向上への先進的な役割を果たしています。陽子線照射の施設があり、他施設には少ない放射線治療を受けることができるのも大きな特徴です。さらに、小児内科血液腫瘍グループと協力し、造血幹細胞移植を併用した大量化学療法も行い、治癒率の向上に努めています。毎月関係各科や県立こども病院とともに小児腫瘍カンファランス、小児病理カンファランスを開き、診断・治療の評価と各科の連携を行っています。

## ■小児泌尿器疾患

我が国では専門医の少ない小児泌尿器外科領域ですが、当科は充実した体制で治療に当たっています。水腎症や膀胱尿管逆流症などの治療はもちろん、尿道下裂、いくつかの奇形を伴う総排泄腔外反症や膀胱外反症などの治療では、さらに整形外科・形成外科と連携し、長期計画に基づいた治療を行っており、専門家の揃った大学病院の利点をフルに生かしています。

## ■鏡視下手術

今後小児でも多くの手術が、患者さんの体への負担が少なく傷も目立たない鏡視下手術になることが予想されます。当院小児外科では積極的に腹腔鏡や胸腔鏡での手術を取り入れて、手術を受けるこども達にとってやさしい治療に努めています。当科ではソケイヘルニアを始めとして、虫垂炎、胃食道逆流症、食道裂孔ヘルニア、卵巣疾患、ヒルシュスプルング病などの手術に鏡視下手術を応用しています。漏斗胸の手術も胸腔鏡を用いて行っており、安全性が高まっています。

## ■腹傷腔鏡の使用で傷の残らない手術について

最近の手術の進歩により、新生児、乳児では臍を使った手術により、傷のほとんどわからない手術を心掛けています。また以前は女兒だけでしたが、現在は男女を問わず鼠径ヘルニアに対しては家族の御希望に

より単孔式の腹腔鏡手術によって、傷の残らない手術を行っています。

## ■腸管不全に対する統合的治療

短腸症候群や腸管機能障害をもつ患者さんに対し、最新の外科治療（腸管延長術など）を行い、その後のQOLを改善するため、栄養管理を含めた総合的な治療を行っています。また、退院後や外来通院が可能な場合は、在宅静脈栄養や在宅経腸栄養を丁寧に指導し、専門の外来にて管理するようにしています。成人の患者さんも含め、全年齢の方を対象とした、全国に類のない他職種のチームによる（医師・看護師・管理栄養士）外来で、毎週水曜日の午後に行っています。

## 診療実績

### ■外来診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	6,040
初診患者数	475
紹介患者数	356
逆紹介患者数	106

### ■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	4,821
新入院患者数	479
平均在院日数	8.8日

□手術件数

手術総数：521件（うち新生児手術数：31件）



# 形成外科



診療科長 教授

関堂 充

## 診療科の特徴

近年、疾患を治すのみならず、その後の形状、傷跡などをきれいにし、QOL (Quality of Life) を上げることが要求されています。形成外科は傷をきれいに、また治りにくい傷をなおす、手術後の機能を良くすることを目的としています。対象とする部位は、頭の前から足の指先まで、男性及び女性、年齢も新生児から老人まで様々な方が受診します。対象疾患は下記の如く、外表奇形や外傷、難治性潰瘍、皮膚良性腫瘍から悪性腫瘍まで切除および術後変形・欠損の再建、良性色素性疾患等の治療を行っています。傷の修正や眼瞼下垂、腋臭症、自家組織を用いた乳房再建など保険がきかないと思われる手術でも、保険のできる手術も多くあります。

## 診療領域・体制

外観など治療効果がわかりやすい部位が殆どです。

**先天異常**：唇裂・口蓋裂、多指症、合指症、裂手、裂足など手足の変形、小耳症、埋没耳、立ち耳などの耳介の変形の手術

**外傷**：顔面、手足の外傷、熱傷、労働災害による外傷、交通事故などによる顔面軟部組織損傷、顔面骨折に対する手術

**外傷後瘢痕**：瘢痕（傷跡）の切除、形成

**皮膚腫瘍**：血管腫、母斑などの色素斑、母斑など皮膚の良性腫瘍から悪性腫瘍までレーザー治療から切除、硬化療法、再建まで

**悪性腫瘍切除後の再建**：頭頸部癌・口腔癌、皮膚癌、乳癌などの切除後の再建

**難治性潰瘍**：褥瘡、四肢の壊死、糖尿病性潰瘍、褥瘡、リンパ浮腫の治療

**美容外科**：乳房再建、乳房インプラント（乳がんの再建）、老人性などによる眼瞼下垂、腋臭症、刺青治療など（刺青治療は自費診療）

## 対象疾患

先天異常、外傷、熱傷、再建、整容 等

## 先進医療等への取り組み

口蓋裂に対するHotz床、NAM法

Nuss法を用いた漏斗胸手術

PDE（近赤外線カメラ）を用いたリンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合

血管腫・リンパ管腫に対する硬化療法

ケロイドに対する保存的、手術的治療

乳房再建（遊離組織移植、インプラント）・リンパ浮腫乳輪乳頭再建

褥瘡に対するVAC療法

## 診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	5,938
初診患者数	372
紹介患者数	351
逆紹介患者数	118

氏名	職名	専門分野
関堂 充	教授	再建外科（乳房、頭頸部、腹壁）、リンパ浮腫、移植外科、美容
佐々木 薫	講師	再建外科（頭頸部、四肢）、先天異常（四肢、耳、眼瞼、漏斗胸）、外傷（四肢、顔面）、眼瞼眼窩
相原有希子	講師	難治性潰瘍（虚血肢、褥瘡）、先天異常（唇顎口蓋裂）、再建外科（乳房、四肢）、レーザー
佐々木正浩	病院講師	先天異常（唇顎口蓋裂）、再建外科（乳房、頭頸部）、外傷（四肢、顔面）、眼瞼眼窩
西嶋 暁生	病院講師	難治性潰瘍、再建外科、外傷
大島 純弥	病院助教	再建外科（乳房、頭頸部）、外傷（四肢、顔面）、熱傷、先天異常（四肢）



□検査に関するコメント等

リンパ浮腫、再建手術、外傷などの疾患に対して、赤外線観察カメラシステム（PDE）を用いたインドシアニン蛍光造影法により、リンパ管、皮膚穿通枝血管造影、皮弁循環判定などを行い、より正確で確実な治療を行うことができます。

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	3,838
新入院患者数	346
平均在院日数	9.6日

□治療成績（特徴的なもの）※2018年実績

年間手術件数

入院手術 650件（全麻561件、局所麻酔など89件）

外来手術 311件（救急の小手術除く）

計961件

主な内訳

外傷	89
先天異常	175
・唇顎口蓋裂	35
・四肢	20
腫瘍	378
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	68
難治性潰瘍	90
レーザー	110
再建	
・乳房	85
・頭頸部	24
・その他	17

□手術に関するコメント等

先天異常、悪性腫瘍切除後再建をはじめとして、幅広い形成外科疾患に対して積極的に治療を行っています。



# 神経内科



診療科長 教授

玉岡 晃

## 診療科の特徴

筑波大学神経内科は、対応可能な神経疾患症例の多彩さ・豊富さには定評があります。脳血管障害はもちろんだん多発性硬化症や重症筋無力症などの免疫性神経筋疾患、アルツハイマー病・パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症などの変性疾患、家族性脊髄小脳変性症などの遺伝性疾患、各種末梢神経・筋疾患を含めて、主要な神経筋疾患の診断と治療をすべて施行することができます。特に、認知症を呈する疾患の鑑別診断と治療、パーキンソン症候群の鑑別診断と治療、免疫性神経筋疾患の診断と治療を得意としています。学会や研究会に多くの興味深い症例の呈示を行ってきており、医学的に高い水準を保ちながら、急性期から慢性期に至るまで、患者さん中心の全人的医療を心掛けています。高齢化社会が進行し神経内科への要請は益々高まっています。当科ではスタッフのほぼ全員が神経内科専門医だけでなく総合内科専門医も有しており、地域医療における普遍的な神経疾患や稀な神経難病の医療から医学的研究に至るまで幅広く対応できる診療科を目指しています。

筑波大学附属病院は難病拠点病院として茨城県の難病医療の中核的役割を担っていますが、指定難病の中で神経・筋疾患の占める割合は最も多く、神経内科の重要性は時代とともにますます高まっています。

## 診療領域・体制

脳・脊髄疾患や末梢神経・筋疾患を対象として、診断及び内科的な治療を中心に行っています。特に神経変性疾患は高齢者に有病率が高く、我が国の急速な高齢社会に伴い、神経内科に対するニーズは全国的にも増加しています。当科に於いては、病気の原因解明や治療開発につながる研究や高度な医療を進めています。また、ほかの専門領域の診療科の医師と協力して、スムーズな医療連携を心掛けています。患者さんの十分な理解と同意の下に、的確な診断と適切な治療やケアを行う医療を目指して診療に当たっています。

## 対象疾患

脳血管障害（脳梗塞、脳出血）、神経変性疾患（パーキンソン病、アルツハイマー病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症）、脱髄疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎）、炎症性疾患（脳炎、髄膜炎、脊髄炎）、脊椎疾患（変形性脊椎症性脊髄症・神経根症）、末梢神経障害（ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー）、筋疾患（筋炎、重症筋無力症、ミトコンドリア脳筋症、筋ジストロフィー症）、発作性疾患（頭痛、てんかん、神経痛、めまい、失神）、不随意運動（振戦、ジストニア、ジスキネジア、ミオクローヌス）、全身疾患に伴う神経症状（糖尿病性末梢神経障害、ベーチェット病、膠原病、傍腫瘍性症候群）等

氏名	職名	専門分野
玉岡 晃	教授	神経内科全般
石井 一弘	准教授（病院教授）	神経内科全般
石井亜紀子	講師	神経内科全般
中馬越清隆	講師	神経内科全般
富所 康志	講師	神経内科全般
辻 浩史	講師	神経内科全般
織田 彰子	講師（水戸地域医療教育センター）	神経内科全般
塩谷 彩子	講師（水戸地域医療教育センター）	神経内科全般
保坂 愛	講師（ひたちなか社会連携教育研究センター）	神経内科全般
儘田 直美	講師（ひたちなか社会連携教育研究センター）	神経内科全般
寺田 真	講師（茨城県西部地域臨床教育センター）	神経内科全般
保坂 孝史	講師（茨城県西部地域臨床教育センター）	神経内科全般

## 先進医療等への取り組み

### ■ミトコンドリア病の治療

**適応症：**ミトコンドリア脳筋症

**内容：**ミトコンドリア病の中のMELASでは血漿中アルギニン濃度が低下しており、L-アルギニン投与により、血管内皮機能の改善が報告されていますが、保険適応にはなっていません。当科では2008年から2011年まで多施設医師主導治験に参加して以来、MELASにL-アルギニン製剤による治療を継続しています。

### ■抗体神経抗体の検索

**適応症：**傍腫瘍性神経症候群・stiff-person症候群・Isaacs症候群

**内容：**当科では傍腫瘍性神経症候群やstiff-person症候群及びIsaacs症候群に対する自己抗体検索を行っています。特に抗gephyrin抗体については全国で検査している唯一の機関で年間40例以上の依頼があり、診断及び腫瘍の早期発見において貢献しています。

### ■認知症やパーキンソン症候群の鑑別診断と治療

**適応症：**認知症やパーキンソン症候群を呈する神経疾患

**内容：**問診、神経学的診察、脳脊髄液検査、画像検査などを駆使して、認知症やパーキンソン症候群の鑑別診断を行い、各疾患に対する適切な治療を行っています。

## 診療実績

### ■外来診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	10,470
初診患者数	471
紹介患者数	422
逆紹介患者数	652

□治療成績（特徴的なもの）

**外来：**神経・筋疾患を中心とした患者さんを対象に筋電図検査（神経伝導速度、針筋電図）を行っています。機能検査部門で検査する脳波や各種誘発電位の判読・実施を担当しています。また、CT、MRIなどの画像検査を放射線科に依頼して、専門的な見地から正確な診断に当たっています。

### ■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	9,220
新入院患者数	516
平均在院日数	16.2日

**入院：**外来での検査に加えて、さらに詳細な検査を必要に応じて行っています。臨床神経生理学的検査に加え、神経・筋疾患に対して神経生検や筋生検を行っています。院内他科のみならず、県内からも多くの検体処理および診断を依頼され、年間約60件（2012年3月現在総数1,500例）の生検を行い、地域医療に貢献しています。また、必要に応じて、遺伝性神経疾患に対する遺伝子検査や生化学的検査などを行っています。



筑波大学神経内科同門会

# 脳神経外科



診療科長 病院教授

石川 栄一

## 診療科の特徴

当科では、約20名の脳神経外科医が脳・脊椎脊髄の専門診療を行っており、患者さんの視点に立った医療、十分な説明と選択を大切に、「確かな手技」と「最新のテクノロジー」による高度な脳神経外科診療を展開することで、特定機能病院としての役割を担っていきたくと考えています。

手術件数は年間655件（2018年）で、脳腫瘍手術件数は全国トップレベルを維持しています。手術室には各種モニタリング機器、ニューロナビゲーション・蛍光ガイド下手術用顕微鏡、国内でも数少ない術中MRI撮像システム、手術と血管撮影・CT撮影とを同時に行えるハイブリッド室をはじめとした最新の手術支援機器を整備しています。

最近の取り組みとしては、脳腫瘍領域では免疫療法、陽子線治療などの最先端の集学的治療や、新たに設置されたPET装置を有する分子イメージング診断センターを利用した最新の診断技術を取り入れています。通常の顕微鏡下手術に加え、最先端の経鼻内視鏡下手術との使い分け、あるいは併用により、頭蓋底腫瘍、小児脳腫瘍を含めた幅広い疾患に対応しています。中性子捕捉療法についても、加速器を用いた臨床応用を目指した幅広い研究を展開しています。

また、脊髄脊椎疾患については、脊髄外科専門医を増員し、診療実績の更なる増加と質の向上を目指しており、小児脳神経外科疾患についても、院内および連携する施設を含め6名の専門スタッフにより質の高い医療を提供しています。機能的脳神経外科疾患においては、パーキンソン外来やてんかん外来を設置した影響もあり、年々診療実績は飛躍的に増加しているところです。

脳血管障害に対しては、2016年秋より、脳神経外科内に高い技術レベルを有する脳血管内治療指導医ならびに血管外科医をより充実させた「脳卒中科」を、2018年5月にはSCUを立ち上げており、最新の治療を提供しています。救急医療についても、救急部と密に連携し、脳卒中や頭部外傷など、地域の急性期医療への取り組みもさらに充実したものとなっています。

## 診療領域・体制

**脳腫瘍**：神経膠腫に対しては、放射線治療、化学療法、免疫療法などを組み合わせた集学的治療を行っています。頭蓋底腫瘍・下垂体腺腫・聴神経腫瘍については、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、放射線腫瘍科と連携したチーム医療を行っています。

**脳血管障害**：脳卒中科と一丸となって、脳動脈瘤、脳

氏名	職名	専門分野
松村 明	教授	脳腫瘍、脊髄脊椎疾患、放射線治療、頭痛
小松 洋治	教授（日立社会連携教育研究センター）	脳血管疾患、神経外傷
柴田 靖	教授（水戸地域医療教育センター）	脳腫瘍、脳血管疾患、頭痛
松丸 祐司	教授（脳卒中予防治療学）	脳卒中予防治療学
高野 晋吾	教授（T-CReDO）	間脳下垂体腫瘍、脳腫瘍
石川 栄一	病院教授・准教授	脳腫瘍、神経膠腫、免疫療法、手術を含む集学的治療
鶴嶋 英夫	病院教授・准教授	脳外科一般、臨床研究
益子 良太	准教授（水戸地域医療教育センター）	脳血管疾患、脳腫瘍、神経外傷
阿久津博義	講師	間脳下垂体/頭蓋底腫瘍、脊髄脊椎外科、神経内視鏡
松田 真秀	講師	脳腫瘍、頭蓋底腫瘍、顔面けいれん、三叉神経痛
鶴淵 隆夫	講師	小児脳神経外科、脊髄脊椎外科、悪性脳腫瘍
室井 愛	講師	小児脳神経外科、神経内視鏡、スポーツ頭部外傷
伊藤 嘉朗	病院講師	脳血管疾患、脳血管外科、脳血管内治療
佐藤 允之	病院講師	脳卒中全般、脳・脊髄血管内治療
相山 仁	病院講師	脳外科一般
増田 洋亮	病院講師	脳外科一般、機能的疾患（てんかん、パーキンソン病）
丸島 愛樹	講師（救急・集中治療部兼任）	脳卒中全般、救急医学、集中治療医学
早川 幹人	講師（脳卒中予防治療学）	脳血管障害の内科治療、脳血管内治療
坂本 規彰	講師（病理診断科兼任）	脳腫瘍病理

動静脈奇形、脳動静脈瘻などの脳血管外科手術・血管内手術、脳卒中に対する救急対応（急性期主幹動脈血行再建術など）を含めた急性期治療を行っています。

**機能的脳神経外科：**精神科や脳神経内科と連携し、パーキンソン病や不随意運動、難治性疼痛、痙縮、てんかん、三叉神経痛、顔面けいれんを扱っています。

**小児脳神経外科：**小児内・外科と連携し水頭症、脳瘤、頭蓋骨縫合早期癒合症、脊髄髄膜瘤、脊髄脂肪腫、頭蓋内嚢胞、キアリ奇形のほか小児の脳腫瘍やもやもや病なども対象としています。

**脊髄脊椎疾患：**脊髄腫瘍、変性疾患を含め多彩な疾患を扱っています。

**頭部外傷・スポーツ頭部外傷：**高次救急センターを立ち上げ、救急集中治療科や眼科・耳鼻科・形成外科などと連携して治療困難な症例の治療に取り組んでいます。スポーツ外傷はスポーツトレーナーなどと連携して専門的な診療を行っています。

### 対象疾患

脳腫瘍とくに悪性脳腫瘍の集学的治療、間脳下垂体疾患に対する経鼻内視鏡手術、頭蓋底腫瘍（含、聴神経腫瘍）、小児脳腫瘍、脳血管障害、てんかん（パーキンソン病）、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、急性期主幹動脈塞栓、頭蓋内外主幹動脈狭窄・閉塞、脊髄腫瘍、脊髄脊椎疾患、不随意運動・痙縮、難治性疼痛、三叉神経痛、片頭痛、顔面けいれん、水頭症、先天奇形（頭蓋・脳・脊髄）、キアリ奇形、神経内視鏡手術、頭部外傷（スポーツ頭部外傷を含む）など

### 先進医療等への取り組み

#### ■ 先進医療

- ・脳腫瘍に対する陽子線治療

#### ■ 臨床研究

- ・悪性神経膠腫に対する自家がんワクチン療法
- ・悪性神経膠腫等に対する中性子捕捉療法（医師主導治験を準備中）
- ・日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）脳腫瘍グループ登録施設における臨床研究
- ・日本小児がん研究グループ（JCCG）小児腫瘍登録施設における臨床研究
- ・大型脳動静脈奇形に対する陽子線治療
- ・小児脳腫瘍に対する陽子線治療（保険適応あり）
- ・再発脳腫瘍に対する抗血管新生治療（保険適応あり）

- ・頭蓋咽頭腫の組織型による遺伝子変異と予後に関する研究
- ・悪性脳腫瘍に対する光線力学療法に関する研究（保険適応あり）
- ・脳梗塞後の脳保護・再生医療に関する研究
- ・脳卒中に対するロボット（HAL）リハビリテーション
- ・水頭症に関する研究
- ・術後のてんかん予防に関する研究
- ・スポーツ関連脳振盪に関する研究

### 診療実績

#### ■ 外来診療実績

##### □ 患者数

項目	人数
患者数	7,180
初診患者数	569
紹介患者数	498
逆紹介患者数	672

#### ■ 入院診療実績

##### □ 患者数

項目	人数
患者数	10,548
新入院患者数	765
平均在院日数	12.5日

##### □ 手術件数

術式	件数
脳腫瘍摘出術・生検術	236
（経鼻内視鏡手術）	78
血管障害	66
外傷	32
奇形	23
水頭症	83
脊髄・脊椎	16
機能的手術	34
脳血管内手術	144
その他	19
計	655





診療科長 教授

松丸 祐司

## 診療科の特徴

筑波大学附属病院脳卒中科は、脳血管疾患を専門とする神経内科医と脳神経外科医の合同チームです。脳神経外科と一体となって診療しています。

脳卒中に対する治療の基本は内科治療（薬物療法や生活習慣の改善等）ですが、効果が不十分な場合は、外科手術やカテーテルを用いた血管内治療を行います。私たちの診療科では、内科治療は主に神経内科医が、外科手術は脳神経外科医が、血管内治療は全員が担当します。

当診療科の特徴は内科と外科が同時に診療することにより、最適で包括的な治療を提供できることです。日本における脳卒中診療の多くは脳神経外科医が担当し、手術適応の判断も脳神経外科医単独で行うことが多いのですが、筑波大学では合同チームによる適切な内科治療と厳密な手術適応の判断が行われています。

私たちが現在もっとも注力していることは脳卒中救急診療です。内科医・外科医のみではなく、救急医・放射線科医との密な連携や、看護師・検査技師・放射線技師などの多職種連携により、1年365日24時間最適な治療を迅速に提供できる体制を構築しました。特に脳主幹動脈閉塞による重症脳梗塞に対しては私たちが得意とする血管内治療の技術を生かした血栓回収療法を積極的に行っています。

また原因が明らかでない脳梗塞の原因究明と的確な再発予防治療の確立、頸部頸動脈狭窄症に対する内膜剥離手術とステント治療、脳血管狭窄または閉塞に対するバイパス手術とステント治療を行います。脳動脈瘤に対しては、未破裂脳動脈瘤の治療適応の決定や経過観察、治療困難な大型・巨大脳動脈瘤に対する外科

治療と血管内治療（血流改変ステントによる治療を含む）を行います。脳および脊髄動静脈奇形や硬膜動静脈瘻に対しては血管内治療を中心に、外科治療や陽子線治療を含む放射線治療を組み合わせる集学的治療を行います。

## 診療領域・体制

急性期脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）および待機的な脳および脊髄血管疾患に対する内科治療、外科治療、血管内治療

## 対象疾患

脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、くも膜下出血、脳動脈瘤、頸部頸動脈および脳血管の狭窄または閉塞、脳および脊髄動静脈奇形および硬膜動静脈瘻、顔面および頭頸部動静脈奇形および血管腫、もやもや病、オスラー病、胎児・新生児・乳児・小児の脳および脊髄血管疾患

## 先進医療等への取り組み

- ・血流改変ステント（Pipeline）による内頸動脈大型・巨大脳動脈瘤の血管内治療
- ・急性期脳梗塞に対する血管内治療単独療法の有効性に関する多施設ランダム化比較研究
- ・新規血栓回収機器治験
- ・新規抗血栓薬治験
- ・新規頸動脈ステント治験

氏名	職名	専門分野
松丸 祐司	教授	脳血管疾患、脊髄血管疾患、血管内治療
丸島 愛樹	講師	脳血管疾患、血管外科手術、血管内治療
早川 幹人	講師	脳血管疾患、内科治療、血管内治療
伊藤 嘉朗	病院講師	脳血管疾患、血管外科手術、血管内治療
佐藤 允之	病院講師	脳血管疾患、血管外科手術、血管内治療
日野 天祐	病院助教	脳血管疾患、内科治療、血管内治療

## 診療実績

### 外来診療実績

#### 患者数

項目	人数
患者数	1,116
初診患者数	291
紹介患者数	119
逆紹介患者数	120

### 入院診療実績

#### 患者数

項目	人数
患者数	8,312
新入院患者数	531
平均在院日数	13.6日

### 入院診療実績：561件

項目	件数
急性期脳卒中	241
脳梗塞・TIA	154
脳出血	76
くも膜下出血	21
脳動脈瘤	142
閉塞性脳血管障害（もや含む）	52
脳動静脈奇形・脳硬膜動静脈瘻	60
その他	55

### 手術・脳血管内治療実績：211件

	脳血管内治療	手術
動脈瘤塞栓術（破裂脳動脈瘤）	8	8
動脈瘤塞栓術（未破裂脳動脈瘤）	32	16
脳動静脈奇形・硬膜動静脈瘻	18	7
脊髄動静脈奇形・硬膜動静脈瘻	3	3
血栓回収術	29	
頸動脈ステント・内膜剥離術	15	6
バイパス手術		12
脳出血		9
腫瘍塞栓術	15	
その他	24	6
合計	144	67



# 整形外科



診療科長 教授

山崎 正志

## 診療科の特徴

筑波大学整形外科では、各外来担当医が、その専門領域（脊椎・股関節・膝関節・肩関節外科・手外科・足関節・小児整形外科等）に分かれて、診療を行っています。運動器疾患・外傷による変形の解剖学的整復、痛みの軽減、運動機能の回復による日常生活動作（ADL）向上・スポーツ復帰等、個人のゴールに沿った生活の質（QOL）の維持・向上を目的として治療にあたっています。外科系診療科ですが、保存療法も行っていきます。運動器リハビリテーションの充実は、超高齢化社会に不可欠なものであり、リハビリテーション部、関連病院との連携を密にしています。

筑波大学附属病院は、茨城県医療の中核医療機関であり、また筑波大学は筑波研究学園都市に集積する研究・教育機関の拠点となっています。整形外科では医工連携を基盤として、軟骨・神経・骨等の再生医療を行っています。脊椎・脊髄外科分野では難治疾患に対する治療法の開発および低侵襲脊椎手術の開発を行っています。さらには医学と体育の博士課程を有する総合大学としてスポーツ整形外科の分野でも多くの基礎的、臨床研究を行っています。

## 診療領域・体制

外来一日平均100人超、入院ベッド数39床。ベッド数の制限から、関連病院と連携し合って治療を行い、入院手術待ち日数の短縮を図っています。外傷は関連施設で行われることが多いですが、合併症を伴った難治例を受け入れています。人工関節置

換術は、クリーンルームと抗菌薬投与の改良から感染に対し高い安全性を確保しています。自己血輸血は国内でも早期から取り入れており、人工関節置換術などの待機可能な症例に施行されています。臨床医学系（整形外科）と体育系（スポーツ医学）の運動器系研究に携わる教官が協力してスポーツ医学健康科学センターを開設しました。スタッフの数は多く、高い専門性の発揮が可能となっています。高度先進医療を必要とする難治例や他院からの紹介患者が多く、各領域ごとの専門診体制により最先端かつ最良の医療を提供するよう努めています。

## 対象疾患

■ 脊椎・脊髄外科  
上位頸椎から腰仙椎まで、年間約140~170件の手術（2016~2018年）を行っています。脊椎・脊髄腫瘍、後縦靭帯骨化症（OPLL）、リュウマチや透析脊椎症、特発性・変性側弯症手術、悪性腫瘍の脊椎転移、再手術や多数回手術症例などが多くなっています。全身合併症のため関連病院での手術が困難な症例、高齢手術例が増加しています。OPLLは厚生労働省の研究班の一員として活動しています。現在、大学附属病院では、検査・手術待ち期間が長くなっているため、筑波大学整形外科脊椎診療グループで、日本整形外科脊椎脊髄病医、脊椎脊髄病学会脊椎外科指導医のいる関連病院と連携をとりながら診療しています。

■ 股関節外科  
変形性股関節症・関節リュウマチに対する人工股関節全置換術

診療科紹介

氏名	職名	専門分野
山崎 正志	教授	整形外科、脊椎外科、再生医療
宮川 俊平	教授（体育系）	スポーツ医学、股関節外科
羽田 康司	教授（リハビリテーション部）	リハビリテーション
西浦 康正	教授（土浦市地域臨床教育センター）	手外科、肘関節外科、末梢神経外科
三島 初	准教授	股関節外科
國府田正雄	准教授（サイバニクス研究センター）	脊椎外科
向井 直樹	准教授（体育系）	スポーツ医学、小児股関節
小川 健	准教授（水戸地域医療教育センター）	上肢機能外科
万本 健生	准教授（水戸地域医療教育センター）	膝関節外科
吉岡 友和	准教授（運動器再生医療学）	再生医療、膝関節外科
菅谷 久	准教授（運動器再生医療学）	再生医療、股関節外科
金森 章浩	講師	スポーツ医学、膝関節外科
鎌田 浩史	講師	小児股関節、スポーツ医学
野澤 大輔	講師	足関節外科、骨代謝疾患、四肢機能再建、スポーツ医学
安部 哲哉	講師	脊椎外科
西野 衆文	講師	股関節外科、スポーツ医学
原 友紀	講師	上肢機能外科、末梢神経外科
船山 徹	講師	脊椎外科
中島 佳子	講師（取手地域臨床教育ステーション）	整形外科、上肢機能外科
辰村 正紀	講師（水戸地域医療教育センター）	脊椎外科、スポーツ医学
和田 大志	講師	股関節外科
塚越 裕太	講師	小児整形外科
都丸 洋平	講師	小児整形外科
新井 規仁	助教	膝関節外科
上野 友之	診療講師（リハビリテーション部）	リハビリテーション
野口 裕史	病院講師	脊椎外科
大西 信三	病院講師	肩関節外科、スポーツ医学
清水 如代	病院講師（リハビリテーション部）	リハビリテーション
松本 佑啓	病院講師（救急集中治療部）	整形外科、外傷
柳澤 洋平	病院講師（救急集中治療部）	整形外科、外傷、足関節外科
三浦 紘世	病院講師（運動器再生医療学）	再生医療、脊椎外科
長島 克弥	病院助教	脊椎外科



は、最少侵襲による6～8cmの手術創にて行い、早期離床、早期退院を目指し、1～3週の入院期間で済む成果を上げています。ベッド数の制限から、近医への出張手術も取り入れることにより、年間200例以上の人工股関節全置換術/再置換術を大学スタッフがを行っています。臼蓋形成不全に対する臼蓋回転骨切り術や必要に応じて大腿骨の骨切り手術も採用しています。先天性股関節脱臼や大腿骨頭壊死ではMRIによる予後予測と保存ならびに手術的治療を行っています。また、大腿骨頭壊死に対して、骨髄細胞移植を用いた新しい治療法にも取り組んでいます。

#### ■ 膝関節外科

幼児の先天性膝蓋骨脱臼や若者の前十字靭帯損傷・半月板損傷などのスポーツ障害から御高齢の方の変形性膝関節症まで、幅広く膝関節疾患を対象に治療を行っています。大学病院では手術までの待機期間が長いこと、必要に応じて近隣の関連施設に御紹介して手術することもあります。したがって、合併症の多い御高齢者や関節リウマチ患者の人工膝関節全置換術の手術件数が多くなりますが、その他にも変形性膝関節症に対しては人工骨を用いた高位脛骨骨切り術や単顆型人工膝関節置換術など適応に応じて手術を行っています。スポーツ障害には関節鏡手術を主に行っており、トップレベルの選手からスポーツ愛好家のみなさまにも満足していただける治療を目指しています。前十字靭帯損傷では最新の治療法を採用しており、半月板も可能な限り縫合し、骨軟骨移植術なども応用して正常な関節機能を残す努力をしています。また複合靭帯損傷の治療も多く行っています。競技レベルの高い選手については術後リハビリテーションをスポーツ医学健康科学センターを通じて、体育科学系と連携し、早期競技復帰を目標にサポートしていきます。

#### ■ 手外科・肘関節外科・末梢神経障害

手外科領域では、手の疼痛性疾患、腱損傷・骨関節外傷、拘縮、感染、先天異常、関節リウマチなど幅広く診療を行い、良好な成績を上げています。診断困難な例、難治例や他院で治療がうまく行かなかった例に対しても、対応しています。腱損傷では、術後早期運動療法を行い良好な結果を上げています。関節リウマチでは、手・肘の機能障害や腱断裂に対して再建術や人工関節手術を行い、患者さんが使いやすい手・肘を再建しています。月状骨軟化症（キーンバック病）には、低侵襲な新しい治療法を導入し、好結果を得ています。手・肘のスポーツ外傷・障害は、成長期から成人まで年代や競技レベルに応じた治療を行っています。変形性肘関節症に対しては関節形成術を行い、良好な結果を得ています。末梢神経損傷では、欠損を伴う症例に対し、神経伸長による神経移植を行わない新しい治療法を開発し、治療しています。腕神経損傷では、高分解能MRIや術前術中の電気診断を駆使し、適切な診断に基づいた神経剥離・神経移植・神経移行術を行っています。手根管症候群や肘部管症候群に対しては、電気診断により適切な評価を行い、良好な結果を得ています。

#### ■ 足部・足関節外科

足部外科領域では、先天性内反足・外反母趾などの足部変形、変形性足関節症、関節リウマチなどの関節疾患、スポーツ障害などの診療を担当しています。先天性内反足ではPonseti法に基づいた矯正法を、関節リウマチでは従来の関節固定や関節切除術に加え、関節温存手術、人工足関節置換術を行っています。足関節靭帯損傷では、機能的器具療法や局所材料を用いた再建術、鏡視下靭帯修復・再建術を行っています。関節鏡では、診断のほか、骨棘切除などの関節形成術や骨軟骨損傷に対する鏡視下手術も行っています。大腿骨頭壊死同様に距骨壊死に対しても、骨髄細胞移植を用いた治療に取り組んでいます。軽度の外反母趾に対しては、日帰り手術も行っています。

#### ■ 肩関節外科

若年者に多い反復性脱臼から、中高年齢者に多い肩関節周囲炎（凍結肩）、腱板断裂、変形性肩関節症、関節リウマチによる肩関節破壊、また投球障害肩などのスポーツ障害を中心に診療にあたっています。反復性脱臼や腱板断裂などは、肩関節鏡

視下に低侵襲な手術を行っています。外来診療における保存療法においても超音波下で確実な注射を行い、リハビリテーションを同時に行うことで、肩の疾患に特有な夜間痛の改善、可動域の改善が得られています。人工骨頭置換術、人工肩関節全置換術に加えて、高齢者の腱板修復不能な症例に対して2015年に導入された、リバース型人工肩関節全置換術も当院にて手術しています。スポーツ障害に対しては目標とする大会や、手術希望時期を相談し、できる限り早期の復帰がかなうように治療を行っています。

#### ■ 再生医療

大腿骨頭壊死症をはじめとする骨壊死疾患および難治性骨折を対象に、第3種再生医療として骨新生を目的に自家骨髄血を用いた臨床介入研究を行っています。患者さんご自身の骨盤から骨髄血を採取し、遠心分離後、組織幹細胞（骨や血管の材料となる細胞）を含む有核細胞層と血小板（組織修復の栄養因子、シグナル伝達物質として働く成長因子を含有）を多く含む層を濃縮し、壊死部や偽関節部に移植します。骨壊死、難治性骨折が生じる背景は多様であり、骨壊死の原因は十分に明らかとなっていません。患者さんご自身の組織を用いる治療のため、その方の基礎疾患や生活習慣を含む背景および臨床経過、診察所見と画像所見をもとに適応を決定しています。

#### ■ ロボットスーツHAL (hybrid assistive limb)

筑波大学（山海嘉之教授）で開発されたロボットスーツHALを用いて、脊椎脊髄疾患および膝関節疾患を対象とした神経および関節機能回復治療を行っています。脊椎脊髄疾患では、脊椎の後縦靭帯骨化症の入院患者に対して、術後約2週から両脚型HALを用いた歩行練習を実施しています。歩行速度、歩幅が大幅な改善を示しており、術後急性期の脊椎脊髄疾患に対して有効的なりハビリテーションツールとなる可能性が期待されています。変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術後の急性期（入院中の患者さん）においては、単関節型HALを用いた膝関節伸展訓練が安全に実施可能であることが明らかとなりました。今後様々な運動器疾患を対象として、急性期、慢性期を問わずHALを利用した新しい運動器リハビリテーションを展開していく予定です。

#### ■ その他

イリザロフなど創外固定を応用した骨延長・骨移動術を、骨感染症の難治例や骨腫瘍例に対し病巣部切除後の欠損部修復に用いています。この方法は、小児の先天性骨疾患や外傷後の変形治療に対しても積極的に用いられています。骨粗鬆症は、最新の骨塩量装置を用いた骨量測定、骨代謝マーカー測定を行い、骨粗鬆症の診断ならびに治療効果の判定を行い、地域の病院・医院と連携しながら治療を行っています。

関節リウマチは膠原病リウマチアレルギー内科と、小児の骨軟部腫瘍は小児外科・放射線腫瘍科と共同して治療しています。その他の診療科との連携も密で、骨感染症や合併症を有する症例では、内科・外科・小児科等の医師を含め総合的診療を行っています。火曜日午前の総回診以外、一般整形外科と健康スポーツクリニックを開設しています。

### ■ 診療実績

#### ■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	38,192
初診患者数	1,778
紹介患者数	1,579
逆紹介患者数	887

#### ■ 入院診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	16,232
新入院患者数	852
平均在院日数	17.0日

# リハビリテーション科



診療科長 教授

羽田 康司

## 診療科の特徴

急性期リハビリテーションの必要性に応えるため、現在のところ、各診療科の入院患者を中心に対応しています。またロボットスーツHALを用いた臨床研究を行っています。外来通院により行うリハビリテーションは、当院入院中に開始し、退院後も当院での継続が必要な方、およびリハビリテーションを必要としながら他の医療機関での実施が難しい方を主な対象としています。外来で開始する場合は、通常は機能障害の原因である傷病について関連する診療科を受診していただいた上で、その診療科からの依頼を受けています。

## 診療領域・体制

脳血管疾患等リハビリテーション料（I）、運動器リハビリテーション料（I）、呼吸器リハビリテーション料（I）ならびにがん患者リハビリテーション料を算定する施設基準を満たし、下記を行っています。

### ■理学療法（physical therapy；PT）

主に下肢・体幹の運動機能、呼吸・循環器系、代謝系の機能改善を目的とした療法。日常生活における基

本的動作能力の改善を目的とした動作練習。下肢切断前後のリハビリテーション。小児の発達訓練。必要により装具や補助具を併用します。運動療法機器としては、トレッドミル（免荷装置付き）、自転車エルゴメーター、等速度運動用機器などを備えています。

### ■作業療法（occupational therapy；OT）

おもに、日常生活で必要な応用動作の改善を目的とした療法。作業課題を通して、心理的な適応、高次脳機能、社会的適応能力の向上を目的としています。必要に応じて福祉用具の選定や住宅環境の調整をご提案します。上肢・手指の運動機能改善や上肢切断前後のリハビリテーション、小児の発達訓練、装具や補助具、筋電バイオフィードバック療法なども併用します。

### ■言語聴覚療法

（speech and language therapy；ST）

言語を中心とした高次脳機能、構音機能、嚥下機能、コミュニケーション能力と摂食能力の改善を目的とした療法。小児の言語発達訓練。人工内耳埋め込み術後のリハビリテーション。

氏名	職名	専門分野
羽田 康司	教授・部長	リハビリテーション医学全般
上野 友之	診療講師・副部長	神経筋疾患のリハビリテーション、痙縮の治療
清水 如代	病院講師	運動器疾患のリハビリテーション、義肢装具、パラスポーツ
呉 龍梅	病院講師	循環器疾患のリハビリテーション
三浦 紘世	病院講師	運動器疾患のリハビリテーション

職名	氏名
理学療法士	石川 公久（副科長）、清水 朋枝、中川のりこ、山口 礼乃、松原 真由、石塚由美子、湯原 民、椿 拓海、鈴木 康裕、塩見 耕平、李 宰植、古園 弘隆、小嶋 恭平、丸谷 瑞歩、近野 宏知、加藤 秀典、高橋 雅文、久松 智子、福田 咲子、瀧田 翔、晝田 佳世、八塩ゆり子、山内 駿介、岡本 善敬、青木 麻美、細谷 志帆、北島 文、窪田 清香、岸本 圭司、岩淵 慎也、相馬裕一郎、有泉 花子、萩野谷 歩、井出亮太郎、西村 信幸、中谷 謙佑、佐々木晴希
	久保 匡史、伊藤美有紀、渡邊久仁子、齊藤 健太、加々井佑太、山倉 綾子、太田和加子、若山真由美、釜田 香織、高木日出美、久保田菜央、小野 恵美、渡邊 麗子、日浅 健太
	寺元 洋平、加藤 直志、福田あつみ、早川 侑希、大貫日菜子、山崎なつみ、荒木 文江、鈴木 菜摘

## ■ 義肢装具外来

麻痺のある方への装具や、四肢切断症例への義肢処方を行うとともに、適切な装着訓練、日常生活動作訓練、歩行訓練を進めていきます。処方後のメンテナンスも身体状況に応じて行います。

## 対象疾患

運動器（筋骨格系）の疾患・外傷、末梢および中枢神経の疾患・外傷、呼吸器疾患、循環器疾患、開胸・開腹術が行われる疾患（周術期）、廃用症候群、精神・運動発達遅滞、がん、嚥下障害 等

## 診療実績（2018年度）

### 種別新規依頼患者数

項目	人数
脳血管疾患等リハビリテーション	3,214
運動器リハビリテーション	1,609
呼吸器リハビリテーション	497
心臓大血管リハビリテーション	941
がん	473
廃用症候群	299





診療科長 教授

大鹿 哲郎

## 診療科の特徴

眼科一般及び難治性眼疾患や角膜移植を含め、一日平均約200名の患者さんが来院しています。月～金曜日の午前中は外来診療を、午後は一部再来診療を行っています。診療科長をはじめ各スタッフが、それぞれの専門領域を中心にきめの細かい診療を心掛けています。眼疾患の治療には、視機能改善とその保存に最大限の努力と工夫を凝らしています。年間手術件数は約1,900件であり、院内最多です。眼科の特殊検査やレーザー治療などの特殊治療は、平日午後に行っています。

## 診療領域・体制

白内障、眼光学分野、角結膜疾患、緑内障、ぶどう膜、網膜硝子体疾患、神経眼科、小児眼科、先天異常、眼腫瘍など、あらゆる眼科領域の診断、治療を行っています。

- ・白内障・眼光学分野では一般的な白内障の他に、各地から紹介された難治性白内障の手術を数多く手がけています。また、先進医療である多焦点眼内レンズやトーリック眼内レンズにも力を入れており、良好な結果をおさめています。
- ・角結膜分野では、すべての前眼部疾患に対応できることを特徴とする、角膜内皮移植術や深層前部層状角膜移植などの最新角膜移植手術を行っており、最小の侵襲で最大の治療効果が得られるようになりました。また羊膜移植も積極的に行っています。
- ・網膜硝子体分野では、年間約500件の手術を行っています。県南で唯一24時間体制の眼科当直を行っています。

いる施設であるため外傷が多くなっています。黄斑円孔、黄斑前膜、黄斑浮腫、糖尿病性網膜症、網膜剥離などあらゆる網膜硝子体疾患の手術を手がけています。黄斑変性に関してはレーザー治療や抗VEFG抗体による硝子体注射を行っています。未熟児網膜症の診療も行っています。緑内障分野では、線維柱帯切除術、線維柱帯切開術、隅角癒着解離術、インプラントを中心とした手術を施行しています。

- ・斜視分野では、眼科医とともに4人の視能訓練士が診療にあたり、多くの手術を施行しています。
- ・眼部腫瘍・眼窩疾患分野では、茨城県内では眼腫瘍を専門とする施設が他にないため、県内全域から多数の症例が紹介されています。眼瞼腫瘍、結膜腫瘍、眼窩腫瘍、眼窩吹き抜け骨折を中心として年間約100件の手術を施行しています。さらに当院では陽子線センターも併設しているため、幅広い選択肢の中から最適な放射線治療を選ぶことが可能となっています。
- ・涙道分野では、涙道内視鏡を導入し、難治症例に対しては涙嚢鼻腔吻合術を行っています。

## 対象疾患

白内障、乱視、近視、角膜感染症、角膜変性症、円錐角膜、翼状片、デルモイド、緑内障、ぶどう膜炎、黄斑前膜、黄斑円孔、糖尿病網膜症、黄斑浮腫、網膜剥離、眼外傷、視神経炎、視神経症、斜視、弱視、未熟児網膜症、先天性眼疾患、眼内腫瘍、眼窩腫瘍など

氏名	職名	専門分野
大鹿 哲郎	教授	白内障、屈折異常、角膜移植
岡本 史樹	講師	網膜硝子体疾患、外傷
平岡 孝浩	講師	眼腫瘍、網膜硝子体疾患
岡本 芳史	講師（水戸地域医療教育センター）	網膜硝子体疾患、黄斑変性、未熟児
杉浦 好美	講師	網膜硝子体疾患
長谷川優実	病院講師	白内障手術
星 崇仁	診療講師	涙道
上野 勇太	診療講師	緑内障
福田 慎一	病院講師	眼科一般

## 先進医療等への取り組み

### ■ 前眼部三次元画像解析

**適応症：**緑内障、角膜疾患、角膜移植術後

**内容：**角膜、隅角、虹彩などの断層面の観察や立体構造の数値的解析が行える唯一の検査です。

### ■ 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術

**適応症：**白内障

**内容：**多焦点眼内レンズによって遠方及び近方の視力回復が可能となり、眼鏡依存度が軽減されます。

## 診療実績

### ■ 外来診療実績

#### □ 患者数

項目	人数
患者数	31,666
初診患者数	2,202
紹介患者数	1,992
逆紹介患者数	1,697

#### □ 検査件数

検査名	件数
光干渉断層計（前眼部、網膜）	6,934

#### □ 検査に関するコメント等

最新の前眼部断層撮影装置や、角膜形状測定装置、視機能検査の装置があり、自覚検査、他覚検査の両面より患者さんの見え方の質を、集学的に評価しています。

#### □ 治療件数

治療名	件数
抗VEGF剤の硝子体注射	1,760
網膜光凝固	118
角膜炎治療	54
涙道内視鏡	179

#### □ 治療に関するコメント等

重症角膜炎（アカントアメーバ、真菌）などを特殊な点眼を用いて外来で治療可能。涙道疾患、白内障、その他が外眼手術についても外来手術が可能です。

### ■ 入院診療実績

#### □ 患者数

項目	人数
患者数	8,713
新入院患者数	1,292
平均在院日数	5.7日

#### □ 手術件数

術式	件数
網膜硝子体手術	489
緑内障	126
白内障	1,289

#### □ 手術に関するコメント等

難治性白内障をはじめ、網膜硝子体手術、眼窩、涙道手術など、幅広い眼科分野での手術を行っています。





診療科長 教授

佐藤 豊実

## 診療科の特徴

筑波大学産科・婦人科は、周産期専門医4名、婦人科腫瘍専門医5名、内視鏡技術認定医1名、生殖医療専門医1名を擁して周産期、婦人科腫瘍、生殖医療、女性のヘルスケアの4領域すべての診療を行っています。周産期分野では、茨城県周産期救急搬送体制の一翼を担い、総合周産期母子医療センターに求められる高い水準の医療を患者さんにご提供し、婦人科腫瘍分野では悪性腫瘍であっても妊孕性温存の可否や、再発癌であっても治療の可能性を徹底的に検討するなど、患者さん一人ひとりに合わせたベストな治療法を提供しています。生殖医療分野はながらく診療を休止していましたが2013年より再開、現在は体外受精まで含めた治療を提供できるようになっています。女性のヘルスケア分野は原発性無月経から月経困難症、更年期障害を中心に、まさしく女性の一生に関わった診療を提供しています。

## 診療領域・体制

産科・婦人科は、各々の専門性を活かし、より高度の医療を提供できるように、婦人科と産科（周産期）に分かれて診療を行っています。入院病床数は婦人科32床、産科35床あります。すべての患者さんについて、診断から治療、その後の管理まで当科の専門医が責任を持って行っているのはもちろんのこと、状況に応じて院内の様々な診療科と密に連携をとりながら、患者さんにとって最もよい医療を提供できるように努力しています。

## 対象疾患

**婦人科：**婦人科悪性腫瘍（卵巣癌、子宮頸癌、子宮体癌等）、子宮筋腫、卵巣腫瘍、不妊症 等

**産科：**妊婦健診、ハイリスク妊娠の周産期管理、出生前診断、胎児治療 等

## 先進医療等への取り組み

### ■ 先進医療

- 1) 経胎盤的抗不整脈薬投与療法  
**適応症：**胎児頻脈性不整脈
- 2) パクリタキセル静脈内投与（1週間に1回投与するものに限る。）及びカルボプラチン腹腔内投与（3週間に1回投与するものに限る。）の併用療法  
**適応症：**上皮性卵巣癌、卵管癌又は原発性腹膜癌
- 3) 内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術  
**適応症：**子宮頸癌

### ■ 現在進行中の臨床研究

- 1) 当院における婦人科がん患者に対する治療法と予後因子の調査研究
- 2) 思春期女性へのHPVワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18陽性割合の推移に関する長期疫学研究
- 3) 再発子宮頸がんにおけるプラチナ製剤free期間が化学療法法の効果に及ぼす影響の後方視的検討
- 4) 腫瘍随伴症候群を伴う婦人科悪性腫瘍に対する臨床研究
- 5) 子宮体部原発神経内分泌腫瘍に対する治療法・予後についての後方視的研究

氏名	職名	専門分野
佐藤 豊実	教授	婦人科、腫瘍外科
濱田 洋実	教授	産科、出生前診断、胎児治療、臨床遺伝、生殖発生毒性
沖 明典	教授（茨城県地域臨床教育センター）	婦人科、腫瘍外科
小島 真奈	准教授	産科、周産期感染症、合併症妊娠
水口 剛雄	准教授	婦人科、腫瘍外科
川崎 彰子	准教授	不妊症、生殖内分泌
越智 寛幸	准教授	婦人科、腫瘍外科、鏡視下手術
八木 洋也	講師	産科、胎児治療
櫻井 学	講師	婦人科、腫瘍外科
大原 玲奈	講師	産科
志鎌あゆみ	講師	婦人科、腫瘍外科
阿部 春奈	講師	産科
秋山 梓	診療講師	婦人科、腫瘍外科
飯場 萌絵	助教	
田坂 暢崇	病院講師	婦人科、腫瘍外科
細川 義彦	病院助教	産科、婦人科
板垣 博也	病院助教	産科、婦人科

- 6) 卵巣神経内分泌腫瘍の病理組織学的再分類と臨床予後への影響に関する後方視的研究
- 7) 子宮頸がんに対する根治目的の放射線治療または同時化学放射線療法後の頸部腫瘍残存例における救済的子宮摘出術の実施状況に関する調査研究
- 8) 子宮頸部円錐切除術の実態調査
- 9) JCOG1203 上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験
- 10) 「日本産科婦人科学会周産期委員会 周産期登録事業」への登録
- 11) 「日本産婦人科医会 妊産婦死亡報告事業」への登録
- 12) 婦人科がんにおける遺伝子・蛋白異常と治療反応性・予後との関連性の解析
- 13) BRCA遺伝子検査に関するデータベースの作成
- 14) 「当院における10代女性の妊娠・分娩に関する後方視的検討」への登録
- 15) 子宮内膜間質肉腫の組織型別予後と治療法に関する調査研究
- 16) JGOG1078S：本邦における外陰陰悪性黒色腫に関する調査研究
- 17) 胎状奇胎の掻爬回数と続発症頻度に関する調査研究
- 18) がん治療施設における妊孕性温存がん治療 がん・生殖医療連携に関する実態調査

### 診療実績

#### ■ 外来診療実績

##### □ 患者数 (周産期)

項目	人数
患者数	11,738
初診患者数	1,143
紹介患者数	917
逆紹介患者数	184

##### □ 患者数 (婦人科)

項目	人数
患者数	22,651
初診患者数	892
紹介患者数	805
逆紹介患者数	395

#### ■ 入院診療実績

##### □ 患者数 (周産期)

項目	人数
患者数	10,900
新入院患者数	1,215
平均在院日数	7.9日

##### □ 患者数 (婦人科)

項目	人数
患者数	11,848
新入院患者数	1,042
平均在院日数	10.2日

##### □ 手術件数

術式	件数
子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍	111
子宮頸癌	34
子宮体癌	76
卵巣癌	45
子宮鏡下子宮内膜ポリープ切除術	9
子宮筋腫摘出術	5
腹腔鏡下卵巣嚢胞摘出術	39
ロボット支援下手術	29
帝王切開	253
子宮内容除去術	47
異所性妊娠手術	8
妊娠中の卵巣嚢胞摘出術	1
総分娩数 (妊娠22週以降)	1,029

##### □ 検査件数

検査名	件数
内分泌検査	91
精液検査	122
子宮卵管造影検査	92
抗リン脂質抗体症候群検査	11
染色体検査	10
超音波断層検査	11,700
羊水検査	114

##### □ 治療件数

治療名	件数
経口排卵誘発剤 (一般不妊治療)	44
ゴナドトロピン療法 (一般不妊治療)	38
人工授精	215
体外受精・顕微授精	66
凍結融解胚移植	69
クラミジア頸管炎	35
妊娠糖尿病	129
妊娠性貧血	362
腔カンジダ症	98
トリコモナス腔炎	14
細菌性腔症	14
切迫流・早産	98



# 耳鼻咽喉科



診療科長 教授

田淵 経司

## 診療科の特徴

茨城県は最近の厚生労働省の統計でも人口当たりの耳鼻咽喉科医師数が最も少ない県の1つです。そのため、患者さんが耳鼻咽喉科にかかりにくいというようなことも起こっているのではないかと推測されます。当科では、難聴・中耳炎に代表される耳科疾患、慢性副鼻腔炎に代表される鼻科疾患、嚔声や嚔下困難をきたす咽喉頭疾患、頭頸部がんなど、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の各疾患に幅広く対応できるように体制を整えています。地域医療に貢献するため、紹介、逆紹介を増やし、病診連携を積極的に進めていきたいと考えておりますので、どうぞ御紹介くださいますようお願いいたします。またその際、貴重な情報を共有し、意思疎通を図るため、紹介状を付けていただければ幸いです。

## 診療領域・体制

初診外来は月～金の午前中です。予約制をとっておりますので受診前に予約センターまたは医療連携患者相談センターで予約が必要になります。予約日に紹介状とお薬手帳をもって受診してください。外来担当医師は曜日により異なります。水曜・金曜は手術日ですので外来で対応できる医師数が少なくなります。原則として医師指定はできません。当日の初診外来担当医が診察し、2回目以降の外来については必要に応じて適切な医師に引き継ぎます。

緊急性の高いケースでは、紹介状を書いてくださった先生から直接その日の当科オンコール医師にご連絡・ご相談ください。紹介状のない患者さんは原則と

して診察しておりませんのでご理解ください。

## 対象疾患

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の疾患全般に対応しています。代表的なものは以下の通りです。

**耳科疾患**：外耳炎（悪性外耳道炎）、中耳炎（急性中耳炎、滲出性中耳炎、反復性中耳炎、慢性中耳炎、癒着性中耳炎、真珠腫性中耳炎、好酸球性中耳炎、血管炎性中耳炎など）、コレステリン肉芽腫、耳硬化症、耳小骨奇形、外耳道閉鎖症、外リンパ瘻、先天性耳瘻孔、聴神経腫瘍、聴器がん、難聴（突発性難聴、急性低音障害型感音難聴、老人性難聴、騒音性難聴、音響外傷、特発性難聴、先天性難聴、遺伝性難聴、ムンプス難聴など）、耳鳴症、めまい（メニエール病、前庭神経炎、良性発作性頭位めまい症など）、顔面神経麻痺など

**鼻科疾患**：急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎、好酸球性副鼻腔炎、副鼻腔嚢胞、前頭洞嚢胞、アレルギー性鼻炎、花粉症、鼻中隔湾曲症、外鼻変形、肥厚性鼻炎、薬剤性鼻炎、鼻出血、副鼻腔真菌症、鼻腔乳頭腫、副鼻腔がん、嗅神経芽細胞腫、術後性頬部嚢腫、歯性副鼻腔炎、鼻涙管狭窄症、眼窩吹き抜け骨折、鼻性眼窩内合併症、鼻性頭蓋内合併症、嗅覚障害、髄液鼻漏など

**頭頸部疾患**：頭頸部がん（喉頭がん、上咽頭がん、中咽頭がん、下咽頭がん、口腔がん、鼻・副鼻腔がん、聴器がん、唾液腺がん、甲状腺がんなど）、唾液腺良性腫瘍（耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍など）、頸部嚢胞（側頸嚢胞、正中頸嚢胞、がま腫、嚢胞状リンパ管腫など）、喉頭腫瘍（声帯ポリープを含む）、咽頭腫瘍、副

氏名	職名	専門分野
田淵 経司	教授	耳鼻咽喉科、頭頸部外科、特に耳疾患
和田 哲郎	准教授	耳鼻咽喉科、頭頸部外科
西村 文吾	講師	耳鼻咽喉科、頭頸部外科、特に頭頸部がん
田中 秀峰	講師	耳鼻咽喉科、頭頸部外科、特に鼻疾患
廣瀬 由紀	講師	耳鼻咽喉科、頭頸部外科、特に耳疾患
中山 雅博	講師	耳鼻咽喉科、頭頸部外科、特に頭頸部がん
宮本 秀高	病院講師	耳鼻咽喉科、頭頸部外科、特に鼻疾患



咽頭間隙腫瘍、頸部腫瘍（神経鞘腫、傍神経節腫、転移性頸部リンパ節、悪性リンパ腫など）、深頸部膿瘍など

### 先進医療等への取り組み

その他、特に以下の項目は対応できる医療機関に限られますので、ご相談ください。

**乳幼児難聴外来：**当院は日本耳鼻咽喉科学会認定の新生児聴覚スクリーニング後の精密聴力検査機関です。木曜日に専門外来を開設し、難聴の有無と程度の早期診断ならびに療育に対応しております。

**難聴の遺伝子診断：**難聴の原因として遺伝が関与していることが少なくありません。信州大学耳鼻咽喉科、国立病院機構東京医療センターならびに当院遺伝外来と連携して難聴の遺伝子検査に対応しています。お気軽にご相談ください。

**舌下免疫療法外来：**アレルギー性鼻炎の新しい治療法として注目されています。近隣の耳鼻咽喉科医院と連携し、当院で治療を開始し、かかりつけの耳鼻咽喉科医院に逆紹介して治療を継続してもらいます。

### 診療実績

#### 外来診療実績

##### 患者数

項目	人数
患者数	12,469
初診患者数	866
紹介患者数	804
逆紹介患者数	665

##### 検査件数

検査名	件数
聴覚検査	
純音聴力検査	1,830
聴性脳幹反応検査	148
聴性定常反応検査	29

##### 検査に関するコメント等

様々な原因疾患による聴覚障害に対し、正確な聴力評価に努めています。

##### 治療件数

治療名	件数
頭頸部がんの臓器温存治療	
放射線治療（陽子線治療を含む）	90
化学療法（分子標的治療を含む）	40

##### 治療に関するコメント等

頭頸部悪性腫瘍に対して、様々な領域の専門医が参加するオンコロジーカンファレンスで治療方針を検討し、望ましい治療の選択肢を提示しています。放射線腫瘍科・腫瘍内科と協力して集学的治療も行っています。

#### 入院診療実績

##### 患者数

項目	人数
患者数	7,226
新入院患者数	545
平均在院日数	12.0日

##### 手術件数（2018年）

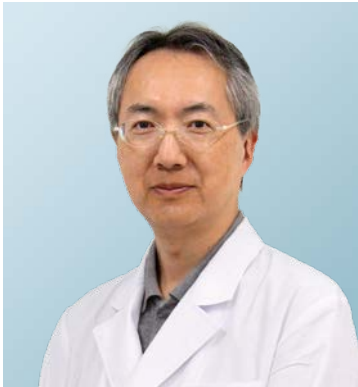
術式	件数
耳科手術（人工内耳）	170 (21)
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	331
頭頸部手術	193
頭蓋底手術（脳神経外科合同含）	73

##### 手術に関するコメント等

良性疾患では最大限の機能温存・改善を目指します。悪性疾患では症例に応じて、脳神経外科・消化器外科・形成外科等と合同で根治性を高める拡大手術あるいは機能温存手術にも取り組んでいます。



# 麻酔科



診療科長 教授

田中 誠

## 診療科の特徴

筑波大学附属病院麻酔科の任務は、麻酔を受ける全ての患者さんに対し、安全で苦痛の少ない周術期ケアを提供すること、円滑な手術の進行に協力すること、そして研修医教育や麻酔科専門医の育成を通じて地域の急性期医療を支えることです。そのためには、現代の医療水準に照らし合わせ成人および小児の手術患者に対し、急性・慢性痛のコントロールを含めた適切な術前・術中・術後管理を施すとともに、診療・教育活動を通じ関連病院群と連携しながら地域における保健・福祉に貢献します。

## 診療領域・体制

手術麻酔を中心に診療を行い、その他に痛みの治療（ペインクリニック）や集中治療を行っています。麻酔に関しては患者さんの安全を第一に考え、術中・術後を通じ痛みや恐れを感じさせない麻酔管理を目指しております。その上で外科医が手術を施行しやすいよう最善を尽くし、看護師や他の医療従事者と連携・協力しながら患者さんが最も良い医療を受けられるよう努力しております。

## 対象疾患

ペインクリニック：各種慢性疾患（帯状疱疹後神経痛、慢性腰痛など）

## 診療実績

### 外来診療実績

#### 患者数

項目	人数
患者数	5,835
初診患者数	21
紹介患者数	14
逆紹介患者数	13

#### 治療件数

治療名	件数
三叉神経・ガッセル神経節等の高周波熱凝固ブロック	15
慢性痛の高周波パルス治療	30
腹腔神経叢ブロック	1
クモ膜下フェノールブロック	2
星状神経節ブロック	250

氏名	職名	専門分野
田中 誠	教授	麻酔全般、集中治療、ペイン、蘇生
猪股 伸一	准教授	麻酔全般、小児麻酔、ペイン、蘇生
高橋 伸二	病院教授	麻酔全般、集中治療、ペイン、蘇生
山本 純偉	准教授	麻酔全般
山下創一郎	病院教授	麻酔全般、心臓麻酔
福田 妙子	教授（土浦市地域臨床教育センター）	麻酔全般、ペイン、蘇生
星 拓男	准教授（茨城県地域臨床教育センター）	麻酔全般、集中治療
左津前 剛	講師	麻酔全般
大坂 佳子	講師	麻酔全般、小児麻酔
中山 慎	講師	麻酔全般
清水 雄	講師	麻酔全般
叶多 知子	病院講師	麻酔全般
植田 裕史	病院講師	麻酔全般
石垣麻衣子	病院講師	麻酔全般、心臓麻酔
山田久美子	病院助教	麻酔全般

#### □治療に関するコメント等

**ペインクリニック**：線維筋痛症、帯状疱疹後神経痛、三叉神経痛、腰痛、多汗症、がん性疼痛などで痛みを苦しむ患者さんが、一日でも早く笑顔で日常生活を過ごせるよう、麻酔科では専門の医師が治療に取り組んでいます。最近、神経障害性疼痛が広く知られるようになり、TVでも話題になってきました。しかし、痛みを放置すると神経が変性し、長期間痛みを苦しむことになることは、知られていません。私どもは、大切な臓器のひとつである神経系を早期治療のターゲットとし、学会の指針に基づく内服療法、神経ブロック療法などを積極的に取り入れ、成果を上げています。さらに高周波熱凝固療法・パルス法を用いることで、患者さんが早期に満足できる痛みの治療を目指しています。また、痛みは、情動・脳とも関連しているため機能的脳画像診断などを用い総合的治療の開発にも力を入れています。

**集中治療**：手術後の患者さんあるいは重症の患者さんの呼吸・循環を中心とする全身管理を行う集中治療室では、救急・集中治療部医師と連携し、麻酔科医は全身管理に関わる知識や技能をいかに発揮し治療に参加・協力しています。

#### ■入院診療実績

##### □患者数

項目	人数
患者数	81
新入院患者数	4
平均在院日数	15.2日

##### □手術件数

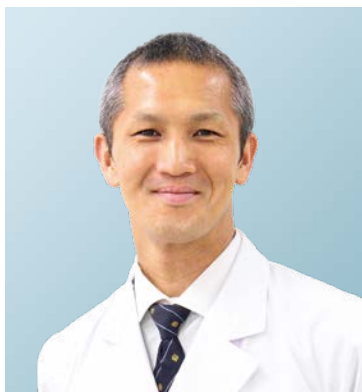
術式	件数
総手術件数	9,217
うち緊急手術件数	1,539
総麻酔科管理手術件数	7,102
うち緊急手術件数	1,168
手術室外麻酔件数	111

##### □手術に関するコメント等

**手術麻酔**：麻酔科では約6,400件の麻酔管理を担当しています。麻酔モニターの充実を図り、手術室16部屋の全てに統一した最新鋭のモニターを完備しています。これらモニターには自動血圧測定、心電図、動脈血ヘモグロビン酸素飽和度の必須モニターに加え、呼吸炭酸ガスモニター、経食道心エコー、観血的動脈圧モニター、心拍出量測定装置などが含まれており、さらに近年では自動麻酔記録システムが装備され、麻酔科医の注意をより一層患者さんのバイタルサインの急変やきめ細かい管理に役立てられるような体制が敷かれています。さらに麻酔管理室では、これらのモニターを集中的に監視し、患者さんの急変にいち早く対応できる体制を取っており、麻酔関連事故を未然に防ぐ最大限の努力を払っております。また、胸部、腹部、下肢手術には積極的に持続硬膜外麻酔や末梢神経ブロックを併用し、積極的な術後の鎮痛を図るとともに、その効果や副作用についても麻酔科担当スタッフが対応するシステムを構築しています。



# 救急・集中治療科



診療科長 教授

井上 貴昭

## 診療科の特徴

筑波大学附属病院救急・集中治療科では、2018年4月より合併症を有する患者さんや難治症例を24時間体制で受け入れる「高次救急センター」の運用を開始しました。本センターは、三次救急医療機関でも対応困難な重症救急患者さんの受け入れを目的に設置された院内診療体制であり、県民の皆様が安心していただける救急医療の提供をめざしています。また、地域の各中核病院でお困りの症例や、各種合併症を保有する症例など、地域救急医療の最後の砦として、積極的に県内外からの重症症例受け入れを推進しています。

また、2019年4月からは、従来のように集中治療室（ICU）に入院後も各診療科の担当医によって診療が継続される“Open型ICU”体制から、集中治療専門医がICUに専従して、ICUに入院するすべての患者さんの診療を行う“Closed型ICU”に体制を大きく変革しました。これにより、重症患者さんに対する各種集中治療の標準化の促進、治療効果の向上、人工呼吸管理期間・ICU滞在期間の短縮、重症患者さんの予後の改善などが期待できます。また、重症患者さんに対する診療上の安全の担保、多職種・複数診療科によって実施されるチーム医療の円滑化、各疾患に対する時相別の効率的な診療分担による医療者の負担軽減が可能となります。つまり、Closed型ICU体制により、各診療科・各職種間の連携が更に進み、重症患者さんに対する診療機能の相乗効果が期待できます。

更には、2018年9月には有事の際の診療継続性を計画した、BCP（Business Continuity Plan）が完成し、計画に基づいた防災訓練も病院全体規模で実施するようにし

ました。また、茨城県原子力災害拠点病院の認可を受け、CBRNE災害と称される、化学・生物学・放射線・核・爆撃災害など、どのような災害・事故にも対応できる、準備と体制づくりを進めています。これら災害時の取り組みも含め、どんなときでも地域の皆様と各医療機関が安心して過ごせる、地域の救急医療セーフティネットを構築するように計画を進めています。

当科は新体制開始後4年目を迎え、様々な専門性を持つ若手スタッフも徐々に増えてきました。茨城県内全救命救急センター6箇所と中核となる地域の救急医療施設8箇所をすべて網羅する、『次世代型救急科専門医養成プログラム』の基幹病院として、若手救急医の育成にも更に尽力していきたいと思えます。

## 診療領域・体制

当院救急・集中治療科は、主として中等症から重症救急患者さんに対応する救急外来に加え、地域で発生した重症・最重症患者さんを集約し、速やかに状態を安定させた上で、早期社会復帰を可能にするための各種集中治療を行う機能を持ち合わせます。そのため多職種・複数診療科スタッフによるチーム医療連携を実現させ、最重症の患者さんに対して最先端で最高の救急医療・集中治療を実現できる体制を構築しています。また、院内急変対応や、心肺蘇生に関する多職種・複数診療科スタッフに向けた教育にも力を注いでいます。更には、先の東日本大震災や常総市大水害において出動させていただきましたDisaster Medical Assistant Team（DMAT）に代表されるような、災害医療にも積極的に対応しています。24時間365日、地域の皆様が

氏名	職名	専門分野
井上 貴昭	救急・集中治療部部長（教授）	救急医学、集中治療医学、外傷外科学、熱傷医学
河野 了	救急・集中治療部副部長（病院教授）	救急医学、集中治療医学、循環器病学、臨床疫学
丸島 愛樹	救急・集中治療部副部長（講師）	救急医学、集中治療医学、脳神経外科学、脳卒中
下條 信威	救急・集中治療部副部長（講師）	救急医学、集中治療医学、循環器病学
西野 衆文	講師	救急医学、整形外科、災害医学
榎本 有希	講師	救急医学、集中治療医学、小児科学、災害医学
松本 佑啓	病院講師	救急医学、集中治療医学、整形外科
関谷 芳明	病院講師（麻酔科）	救急医学、集中治療医学、麻酔科学、災害医学
平谷 太吾	病院講師	救急医学、集中治療医学、循環器病学
柳澤 洋平	病院講師	救急医学、集中治療医学、整形外科
星野 哲也	病院講師	救急医学、集中治療医学
鈴木 貴明	病院講師	救急医学、集中治療医学、外傷外科学、国際医療
中尾 隼三	病院助教	救急医学、集中治療医学、脳神経外科学、脳卒中
戒能多佳子	クリニカルフェロー	救急医学、集中治療医学
鈴木 喜一	クリニカルフェロー（麻酔科）	救急医学、集中治療医学、麻酔科学
朴 啓俊	シニアレジデント	救急医学、集中治療医学
小野 貴広	シニアレジデント	救急医学、集中治療医学
小林 有彩	シニアレジデント	救急医学、集中治療医学

安心して過ごせるセーフティネットとしての救急医療体制の確立と、次世代の救急医療発展のための研究、そして若手医師の教育を積極的に実施していきます。

## 対象疾患

### 救急外来部門

- 24時間365日、救急・集中治療部専属スタッフを中心に、中等症から重症救急患者さんを受け入れ、状態の安定化と原因精査を実施します。
- 各専門診療科と連携・協力の上で、人工呼吸管理・血液浄化法を含めた最先端の集中治療と、手術治療やカテーテル治療などの各種専門治療を実施します。
- 脳血管障害（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血など）や虚血性心疾患・不整脈疾患、大血管・末梢血管疾患などについては、血管内治療・手術治療を含む専門治療を該当診療科を中心に随時迅速に対応します。
- 小児科救急疾患、周産期救急疾患、急性の身体疾患を有する精神科患者さんについても、各専門診療科のスタッフにより、適切な専門的診療を実施します。
- 近隣の地域医療機関と連携して、ドクターヘリやドクターカー搬送を広く応需し、県内外の難治症例の受け入れを推進します。
- 多数傷病者発生時の災害医療において、重症度に基づく優先順位選別により傷病者受け入れを速やかに行います。東日本大震災や常総大水害事例において実出動経験を持つDMATチームの協同編成が常時対応可能です。

### 集中治療部門

- ICU12床、PICU 8床、HCU28床の重症集中治療可能病床を保有し、人工呼吸管理、血液浄化法、経皮心肺補助装置など、重症患者さんに対する各種集中治療を実施しています。
- Closed型ICU体制により、救急・集中治療部がICUにおいては、各診療科の術後や院内急変症例に対して、最先端の気道管理、呼吸管理、循環管理、栄養管理、感染対策を主となって実施し、各診療科と密接に連携しながら

ら、重症患者さんの超急性期～急性期における集中治療を実施しています。

- 看護師、臨床工学技士、理学療法士、薬剤師など、重症集中治療の推進に不可欠な多職種と密接に連携し、早期離床と合併症の予防、早期社会復帰を実現できるよう努めています。
- 院内感染対策チーム、栄養管理サポートチーム、呼吸管理サポートチームなど、多職種・複数診療科スタッフで構成される各専門サポートチームの協力下に、多角的な連携・診療を推進しています。

## 先進医療等への取り組み

### 先進研究内容

- 敗血症に対する臓器障害、凝固障害などの合併症とその治療法の研究
- 中毒物質と中毒症状に関する研究
- 慢性患者における外傷治癒経過に関する研究
- 集中治療室における呼吸管理に関する研究
- ICUせん妄の診断
- 難治性合併症の治療と予防に関する研究
- 周術期不整脈のコントロールに関する研究
- 脳血管疾患に関する治療法の研究
- 酸化ストレス及び心電同期変動解析を用いた生体ストレスの定量化に関する研究
- ICU acquired weaknessの発症機序と予防に関する研究
- ICUにおける院内感染菌種の侵入経路の解明と遺伝子解析を用いた適正隔離法確立のための研究

## 診療実績

### 救急外来部門

救急外来受診患者総数及び救急搬送総件数は年々増加傾向を示し、特に救急車総数は過去最高を記録しました。

項目	件/年
救急外来受診患者総数	10,230
救急車搬送総件数	4,057

(2018年1～12月)

### 集中治療部門

項目	件/年	平均稼働率
ICU総入室患者件数	3,651	83.4%
PICU総入室患者件数	2,531	86.7%
HCU総入室患者件数	8,521	83.4%

(2018年1～12月)



# 歯科・口腔外科



診療科長 教授

武川 寛樹

## 診療科の特徴

筑波大学歯科・口腔外科は、口腔腫瘍・顎関節疾患・顎変形性・顎顔面外傷・唇顎口蓋裂・口腔感染症・顎顔面補綴など、口腔とそれに隣接する組織・器官の疾患、異常に対して、機能を回復させることを目的として診療しています。口腔外科領域における様々な疾患に対応しており、茨城県の中核病院として県内の歯科医院や病院歯科との密接な連携を重視し、県民の皆様が安心して受診できる医療体制を築いています。研究においても、より良い医療を実現するために、実際の臨床に密接に関係した課題を取り上げ、特に口腔がん研究に重点を置き取り組んでいます。基礎研究の成果が一日でも早く臨床応用を図れるよう努力しています。また、当科は医師と歯科医師の両方の資格を有するダブルドクターが在籍しており、教育としては単に臨床や研究ができるだけでなく、人間的にも安定した、思いやりのある明るい心を持った立派な歯科医師・医師の育成を目指しています。

## 診療領域・体制

口腔や歯に関する様々な疾患のうち、一般の歯科診療所で対応できない歯科口腔外科疾患を主体として診療を行っています。初診は原則紹介予約制をとっており、月、火、木、金曜の午前中が新患日で、再来の患者さんは担当医が予約制をとり対応しています（曜日別の担当医師名は歯科・口腔外科のホームページをご覧ください）。患者さんは一日平均50～60名来院しており、治療の主体は外科的治療です。形態や機能を温

存して病気を根治的に治療することをモットーにして、埋伏智歯、口腔感染症、顎関節疾患、唇顎口蓋裂、顎変形症、顎顔面外傷、口腔腫瘍等の疾患に対処しています。う蝕・歯周疾患や義歯作製等の治療は原則として行っていませんが、医療の進歩や高齢者社会により最近増加している全身疾患をもつ患者さんに対してはこの限りではなく、主治医と緊密に連絡をとり、適切に対処しています。また、顎顔面補綴治療、インプラント治療も行っています。

## 対象疾患

埋伏智歯、嚢胞、口腔腫瘍、口腔感染症、顎関節疾患、唇顎口蓋裂、顎変形症、顎顔面外傷、インプラント等

## 先進医療等への取り組み

内容：抗癌キメラペプチドを用いた口腔がんの分子標的治療  
マイクロRNAを用いた口腔がんの診断・治療  
p62による口腔がんの予後探索  
歯髄幹細胞を用いた再生医療の研究  
遺伝子ノックアウトマウスを用いた口腔疾患の解析  
酸化ストレスタンパク質を用いた腫瘍マーカーの開発

氏名	職名	専門分野
武川 寛樹*	教授	口腔腫瘍、口腔感染症、外傷、有病者治療、顎関節疾患
柳川 徹*	教授（茨城県地域臨床教育センター）	口腔腫瘍、インプラント、唇顎口蓋裂、顎変形症、外傷
萩原 敏之	臨床教授（病院）	顎変形症、インプラント
山縣 憲司	講師	口腔腫瘍、唇顎口蓋裂、顎変形症、インプラント、外傷
菅野 直美	講師	口腔腫瘍、インプラント、唇顎口蓋裂、有病者治療
内田 文彦	病院講師	口腔腫瘍、顎関節疾患、唇顎口蓋裂、インプラント
福澤 智	病院助教	口腔腫瘍、外傷、有病者治療、インプラント

\*医師と歯科医師のダブルライセンスを取得

## 診療実績

### ■ 外来診療実績

#### □ 患者数

項目	人数
患者数	13,052
初診患者数	2,352
紹介患者数	2,135
逆紹介患者数	930

#### □ 治療に関するコメント等

**口腔腫瘍**：口腔がんについては視診、触診に加えて、CT、MRI、エコー、PET等の画像診断により病変の範囲、顎部リンパ節転移、他部位転移の有無を検討した上で治療法を決定しています。また、毎週、頭頸部がんセンターボードへ参加し他科とも連携しています。その他上記以外にも、診断や治療が困難であった様々な症状や疾患についても対処しています。初期がんに関しては、主として手術療法を行い、進行例に対しては機能温存を考慮し、化学放射線療法を併用し切除範囲を極力小さくした治療を実施しています。形成外科と合同でマイクロサージェリーを用いた遊離皮弁により欠損部の即時再建手術を行い、術後機能、形態の温存に努めています。2000年からは大学内に陽子線医学利用研究センターが設立され、放射線腫瘍科との対診を行い、陽子線治療も実施しています。

**唇顎口蓋裂**：患者さんの発育や年齢に応じて、口唇形成術、口蓋形成術を行っています。手術後の顎発育や咬合の異常については、歯科矯正医との連携により、一定の年齢に達した時期に顎裂部への骨移植術、外科矯正手術を行っています。ホッツ床による顎発育の補助も行っています。

**インプラント**：従来の義歯やブリッジで満足のいく結果が得られない場合に、歯の欠損部にチタン製の人工歯根を埋入し、一定期間後にその上に歯冠補綴物や義歯を装着し咬合を回復させます。インプラント治療に当たっては、紹介元の歯科診療所との連携をとり、人工歯根の埋入のみもしています。費用は保険診療の適用外となりますが一部の疾患術後の患者さんにおいては保険適応となります。

**顎変形症**：上顎前突、下顎前突、あるいは顔面左右非対称等の顎の形態に異常のある顎変形症では、通常、咬合の異常を伴います。このような疾患に対しては、歯科矯正医との連携のもとに、手術と矯正治療を併用する外科矯正手術を行い、形態のみならず機能の改善に努めています。

**顎顔面補綴**：悪性腫瘍等の手術あるいは様々な疾患の後遺症として顎顔面領域に欠損が生じた場合、顎顔面補綴の適応になります。外科的な処置による欠損の修

復が困難な場合、高度な歯科的技術を応用して欠損部を人工物で修復し、形態と機能の回復を図っています。

**抜歯**：主として、一般歯科診療所で困難と思われる水平埋伏智歯や埋伏過剰歯などの抜歯を行っています。通常、外来で抜歯しますが、患者さんの希望により、入院全身麻酔下で同時に複数の歯を抜歯することも可能です。また、血液疾患、循環器疾患、脳血管障害等の全身疾患をもつ患者さんは入院管理下で安全に抜歯を行っています。

**顎関節疾患**：様々な顎関節疾患のうち、最も頻度が高いのが顎関節症である。顎関節症に対してはスプリントによる保存治療を主体にしていますが、心理面からのアプローチも積極的に取り入れ、優れた治療率を得ています。

**顎顔面外傷**：上顎、下顎の骨折に対しては咬合の回復を第一に考えて手術を行っています。手術に当たっては、生体吸収性あるいはチタン製のプレートの使用により、手術時間の短縮、術後顎間固定期間の短縮、入院期間の短縮を図っています。

### ■ 入院診療実績

#### □ 患者数

項目	人数
患者数	3,071
新入院患者数	353
平均在院日数	7.6日

# メンタルヘルス科 (社会精神医学科)



診療科長 教授

松崎 一葉

## 診療科の特徴

メンタルヘルス科 (社会精神医学科) は、他の医療機関では聞きなれない診療科名かと思います。当科は筑波大学附属病院の開院時に発足しましたが、その当時は職業病性疾患外来診療グループという名称でした。その後、当外来を受診する方の中に高齢者や学生が多くなったこと、心の病や葛藤など精神保健領域の他、生活習慣病等の保健指導も増加してきた経緯があり、平成3年に保健衛生外来と改称しました。さらに産業保健と精神保健に関するメンタルヘルス不調の問題に注力すべく、平成31年4月にメンタルヘルス科 (社会精神医学科) として再出発しました。

社会からの要請として、働く人のメンタルヘルスの問題や、児童・青年期の不適応、児童虐待への対策が医療現場に求められています。当科ではメンタルヘルスの不調に対して、疾病の発病予防である第一次予防から、再発防止やリハビリテーションを中心とする第三次予防まで、多彩な包括的医療を行うことを目指して活動しています。

## 診療領域・体制

### 産業保健外来

- 1) 業務に起因して発症する職業病・作業関連疾患の予防
- 2) 職場復帰に関する相談
- 3) 業務に起因する精神的問題や過労に関する相談

### 精神保健外来

- 1) 親子関係に困難を生じている事例。児童・青年期の不適応 (不登校、ひきこもり、いじめ等) に関する親へのアドバイス
- 2) 犯罪・暴力・虐待による心的外傷後ストレス障害 (PTSD)
- 3) 職場のストレスなどによる心身症、身体表現性障害、軽症うつ病
- 4) 外来治療が可能な慢性統合失調症

## 対象疾患

- ・ 職域において発生する、職業病・作業関連疾患や職場におけるメンタルヘルス問題等
- ・ 児童・青年期の不適応 (不登校、ひきこもり、いじめ等)
- ・ 犯罪・暴力・虐待による心的外傷後ストレス障害 (PTSD)

氏名	職名	専門分野
松崎 一葉	教授	産業保健学、産業精神医学
斎藤 環	教授	思春期青年期精神医学、児童青年期精神医学、家族カウンセリング
森田 展彰	准教授	児童青年期精神医学、家族カウンセリング
笹原信一郎	病院教授	産業保健学、産業精神医学、長寿医学
大井 雄一	助教	産業保健学、産業精神医学、家族カウンセリング
道喜将太郎	助教	産業保健学、産業精神医学
堀 大介	助教	産業保健学、産業精神医学



## 先進医療等への取り組み

- ・筑波研究学園都市で働く労働者のメンタルヘルスに関する大規模疫学調査
- ・オープンダイアログの実践
- ・DV事例への介入

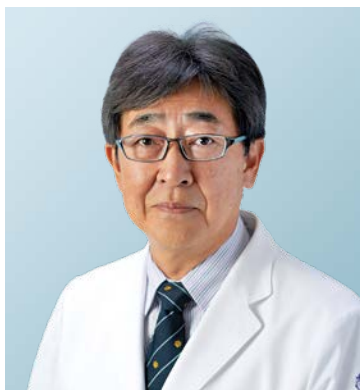
## 診療実績

### ■ 外来診療実績

#### □ 患者数

項目	人数
患者数	1,125
初診患者数	10
紹介患者数	7
逆紹介患者数	2

# 放射線腫瘍科



診療科長 教授

櫻井 英幸

## 診療科の特徴

筑波大学では、国立大学で最多の放射線治療を行っています。エックス線治療各種、小線源治療、陽子線治療など、さまざまな放射線治療が可能です。エックス線、電子線を用いる放射線治療については高精度の照射が可能な最新鋭の機器を備えています。陽子線治療は、病院に併設されたセンターで行っています。本科には放射線治療の基礎である放射線物理学分野の専門家や医学物理士が専任で所属しており、品質・安全管理にも力を注いでいます。また、茨城県内のがん診療拠点病院をネットワークで結び、各病院の放射線治療部門と密接に連携をとって診療を行っています。紹介元の主治医の先生方や、院内の各臓器の専門診療科との緊密な協力の下で、がんの患者さんに最も良い治療を提供できるよう心掛けています。術後の放射線治療や、化学療法と併用した放射線治療に関する相談にも応じています。当科にて入院も可能です。

## 診療領域・体制

### ■ エックス線 電子線外部照射

がんの放射線治療は、ほとんどがエックス線を体の外から照射する外部照射によって行われます。外部照射では、従来の治療法に加え、次の特殊な治療法を行っています。

**三次元照射**：脳腫瘍、肺がん、肝がん、前立腺がんなど、小さい腫瘍が対象。多数の方向から三次元的にエックス線を病巣へ集中照射する方法です。放射線の集中性が高いので、大量の照射ができる結果、根治性

が高く侵襲（副作用）も少なくなります。

**強度変調放射線治療（IMRT）**：前立腺がん、脳腫瘍、頭頸部がんなどが対象。エックス線のエネルギーを病巣の形に合わせて照射する治療法です。病巣に近接した正常組織を避けながら治療できるので、副作用のリスクを上げずに、病巣により多くの線量を投与できます。

**術中照射**：胆道がん、膵がん、神経芽腫などを対象。手術室で病巣部を露出し、病巣周囲の健常組織を機械的に排除して、電子線を照射します。術前照射や術後照射と併用して、病巣部への線量増加が図れます。また、小児では成長障害のリスクが少なくなります。

**全身照射**：血液内科と協力して骨髄移植の前処置として行っています。

### ■ 小線源治療

外来治療も可能。線源強度が高いため（高線量率）、照射は短時間で終了します。小線源治療専用の治療計画用CTも配備しました。これにより、一層精密な治療が可能となります。

**腔内照射**：主に子宮頸がん、食道がん、中枢型気管支がんなどが対象です。病巣のある腔内に線源導管を挿入して照射します。多くの場合、外部照射後の追加照射として用います。

**組織内照射**：主に子宮がんや腔がんなどに威力を発揮します。線源導管は、局所麻酔下や硬膜外麻酔下で挿入します。切除不能な各種のがんに対し、手術中に線源導管を配置してこることもあります。

氏名	職名	専門分野
櫻井 英幸	教授	放射線治療、陽子線治療
玉木 義雄	教授（茨城県地域臨床教育センター）	放射線腫瘍学
奥村 敏之	病院教授	放射線治療、陽子線治療
石川 仁	教授	放射線治療、粒子線治療
野中 哲生	准教授	放射線治療、陽子線治療
中井 啓	准教授	脳神経外科学
水本 斉志	講師	放射線治療、陽子線治療
大西かよ子	講師	放射線治療、陽子線治療
室伏 景子	病院講師	放射線治療、陽子線治療
沼尻 晴子	病院講師	放射線治療、陽子線治療

## 対象疾患

固形がん全般において適応となります。血液腫瘍に対しても、全身照射などの適応があります。

## 先進医療等への取り組み

### 陽子線治療

**内容**：陽子線は体内に入るとエネルギーに応じた一定の距離を進み、ぴたりと止まる性質の放射線です。がんの手前側の線量を最大値の7～8割におさえ、がんよりも奥側の線量はほとんど無くすることができ、したがって多くの線量をがん照射にすることができ、周囲の正常組織への線量が少ないので放射線による合併症が少なくなります。現在までに肝がんや食道がん、肺がん、脳腫瘍など治療の難しい腫瘍などでも良い成績を上げています。陽子線治療は、小児腫瘍、骨軟部腫瘍、一部の頭頸部悪性腫瘍、前立腺がんが保険診療となりました。その他の腫瘍は先進医療として実施していますが、対象疾患は統一治療方針として全国一律の適応基準にそって治療を行っています。先進医療の場合、一連の治療費として患者負担となります。ただし、一部の疾患に対しては臨床試験を行っており、該当する場合の陽子線治療の費用は当センターで負担します。陽子線治療を希望される患者さんに対しては、診察時に詳しく説明をします。経済的な負担のためにこの治療を受けることのできない患者さんに対しては、次善の方法を呈示します。

※保険診療で陽子線治療ができる疾患が増えました。詳細は (<http://www.pmmc.tsukuba.ac.jp>) を参照してください。

## 診療実績

### 外来診療実績

#### 患者数

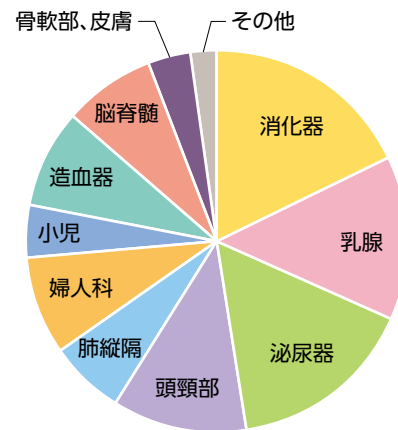
項目	人数
患者数	23,527
初診患者数	399
紹介患者数	385
逆紹介患者数	1,023

### 治療件数

治療名	件数
医療用リニアクによる外照射	767
陽子線治療	399
イリジウム線源による小線源治療	56
強度変調放射線治療	88
温熱療法	21

### 治療に関するコメント等

治療件数内訳	陽子線	エックス線	計
消化器	126	88	214
乳腺	1	163	164
泌尿器	130	59	189
頭頸部	17	117	134
肺縦隔	19	60	79
婦人科	3	95	98
小児	42	9	51
造血器	4	98	102
脳脊髄	29	61	90
骨軟部、皮膚	22	22	44
その他	6	19	25



### 入院診療実績

#### 患者数

項目	人数
患者数	5,108
新入院患者数	186
平均在院日数	23.8日



# 放射線診断・IVR科



診療科長 准教授

増本 智彦

## 診療科の特徴

当科は核医学を含む画像診断全般において、一部の特殊検査を除く全画像検査・全臓器を扱い、種々の領域の放射線診断を幅広く行っています。また、低侵襲的な治療として注目されているIVR（インターベンショナル・ラジオロジー）にも積極的に取り組み、肝臓癌に対する動脈塞栓術から大動脈瘤に対するステント留置術まで、各科との密接な協力のもと、広範囲の手技を手掛けています。そうすることでスタッフの一人ひとりがその専門分野をより深め、最新の画像診断装置を有効に使えるだけでなく、従来からの検査も含め、できるだけ広い視野をもち全身の疾患の画像診断を行うことが可能となっています。

## 診療領域・体制

当院が保有し当科が直接かかわっている診断装置として、CT 2台（256列及び64列検出器CT、心臓CT対応可能）、MRI 3台（3T 2台及び1.5T 1台、超高速撮像・MRスペクトロスコピー可能）、血管造影装置 2台（IVR-CT 1台、バイプレーン装置 1台）、カラードプラ超音波装置 2台、乳房撮影装置・同生検装置、その他デジタル透視撮影装置、一般撮影装置及びSPECT装置 2式などがあります。IVRは肝細胞癌を中心とした化学塞栓療法、血管塞栓術、血管拡張術、下大静脈フィルター、CTガイド下生検（肺ほか）、CT/USガイド下膿瘍ドレナージ、神経系IVR、大動脈瘤ステント術などを、他科と密接な関係の下、主導的に、或いは共同で行っています。

## 対象疾患

全身の疾患の画像診断、血管系を中心としたIVR

## 先進医療等への取り組み

当科単独で行っている高度先進医療はありませんが、診断・IVRともに他科の依頼のもと、カンファランスなどを頻繁に行いながら実施しており、他科の高度先進医療に積極的に協力しています。

## 診療実績

■ 外来診療実績（セカンドオピニオンなど）

□ 患者数

項目	人数
患者数	141
初診患者数	96
紹介患者数	92
逆紹介患者数	0

氏名	職名	専門分野
増本 智彦	准教授	神経系、MR、IVR
森 健作	准教授	腹部、MR、IVR
那須 克弘	講師	MR、腹部、頭頸部、乳腺
岡本 嘉一	講師	腹部、骨軟部
齋田 司	講師	一般、婦人科、超音波
星合 壮大	診療講師	一般、胸部、腹部
石黒 聡尚	病院講師	一般、小児
金田 朋洋	寄附講座教授	核医学、一般
原 唯史	寄附講座准教授	核医学、一般

## □検査件数

検査名	件数
X線検査	98,408
マンモグラフィ	1,358
ポータブル撮影	16,373
手術室撮影	3,613
消化管造影	1,077
泌尿生殖器造影	1,085
そのほかの造影検査	971
手術室造影	102
CT	17,140
MRI	9,224
心臓以外の血管造影・IVR	979
核医学検査	2,493

## □検査に関するコメント等

### 疾病・検査・手術実績

当科が得意とし、県内の他院に比し相対的に経験が多く、優れている領域につき以下に記します。

**肝・胆・膵（森准教授・那須講師ほか）**：肝臓のCTで世界的に知られた故板井教授の薫陶に基づき、超音波、CT、MR、アンギオCTによる総合的診断を心掛けており、その診断レベルは高度と自負しています。

**神経系（増本准教授ほか）**：CT、MR、血管造影を駆使した神経系の画像診断を行っています。

**早期肺癌（星合講師ほか）**：肺早期腺癌と癌以外の疾患との鑑別には高度な読影診断力が不可欠であり、不必要な手術を避け、かつ手遅れとしないために、必要に応じCT透視下肺生検を行っています。

**乳腺（那須講師、東野非常勤医師ほか）**：マンモグラフィによる診断に加え、超音波検査、MR等を利用した精緻な診断、ステレオマンモグラフィガイド下の生検による微細石灰化病変の診断も積極的に行っています。

**運動器・関節（岡本講師ほか）**：スポーツ医学を含む画像診断を整形外科・体育学群と共に行っています。

**婦人科領域（齋田講師ほか）**：MRIを用いた精度の高い術前画像診断を行っています。

**血管系（森准教授、齋田講師ほか）**：CT/MRIによる低侵襲的な血管検査を行うと同時に、造影剤を用いない撮像法を積極的に研究しています。

**核医学検査（原准教授ほか）**：従来からの核医学検査と他の画像診断による情報を総括的に統合し、診断の精度を高めるとともに、PETセンターと協力して種々の取り組みを行っています。

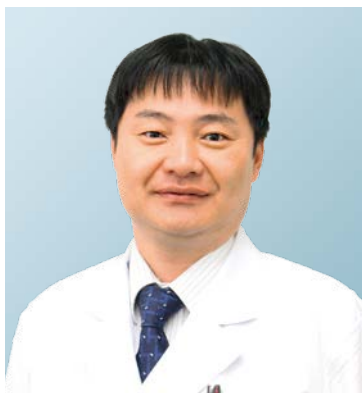
IVRの分野でも各診療科と協力のもと、種々の手技、特に

- 肝細胞癌の化学塞栓療法
- 出血に対する緊急止血
- 大動脈瘤ステント
- CT/USガイド下生検、膿瘍ドレナージ

などを行っています。またつくば市内の近隣病院からの招請に応じ、医師を派遣して同様の手技を行っています。



# 総合診療科



診療科長 教授

前野 哲博

## 診療科の特徴

総合診療科は、何か特定の臓器を対象とするのではなく、患者さんが抱える健康問題について幅広く対応する診療科です。具体的には、頭痛や発熱などのよくある症状や、複数の健康問題を抱える患者さんに対する包括的なアプローチ等、多様な健康問題について総合診療の専門的な視点から診断およびマネジメントを行っています。また、緩和ケア、禁煙外来、漢方外来など、臓器別とは異なる角度からの診療も積極的に展開しています。当科では、心理的・社会的な問題にも焦点を当てながら、十分にお話を伺い、患者さんに納得していただけるまで説明することをモットーにしています。

## 診療領域・体制

外来診療では、どの科を受診すればいいのかよくわからない方、総合診療の幅広い視点からの診断・治療が必要な方などの診療について幅広く対応していま

す。診察したうえで専門医の診療が必要であることが明らかになった場合は、すぐに該当する専門診療科を紹介しています。治療方針が決まり病状が安定した後は、紹介医または近くの医療機関へ紹介しています。なお、入院診療は行っていません。

予防医学の取り組みとしては、禁煙外来を開設し、禁煙を決心された方を対象に、カウンセリングと禁煙補助薬の処方では禁煙を支援しています。緩和ケアチーム及び緩和ケア外来では、がんを中心とした生命の危険がある疾患に直面した患者さんとその家族に対して、痛みをはじめとするつらい身体症状の緩和、精神的なつらさへの対処、意思決定支援、今後の療養についての調整を、医師と専門・認定看護師と協働して行っています。必要に応じて近隣の緩和ケア病棟への紹介や在宅ケアサービスの調整も行っています。毎週金曜日に漢方外来を開設し、東洋医学による治療を希望される方を対象とした外来診療を行っています。

氏名	職名	専門分野
前野 哲博	教授	総合診療
小林 裕幸	教授（水戸地域医療教育センター）	総合診療
横谷 省治	教授（寄附講座地域総合診療医学・北茨城）	総合診療
濱野 淳	病院教授（医療連携患者相談センター、緩和ケアセンター）	総合診療、緩和ケア
吉本 尚	准教授（寄附講座地域総合診療医学・北茨城）	総合診療
春田 淳志	准教授（寄附講座地域医療教育学）	総合診療
前野 貴美	講師（医学教育企画評価室）	総合診療
長岡 広香	講師（緩和ケアセンター）	緩和ケア
高屋敷明由美	講師（医学教育企画評価室）	総合診療
阪本 直人	講師（寄附講座地域医療教育学）	総合診療
小曾根早知子	講師（寄附講座地域総合診療医学・利根）	総合診療
舩本 祥一	講師（寄附講座地域総合診療医学・牛久）	総合診療
片岡 義裕	講師（寄附講座地域総合診療医学・常陸太田）	総合診療
荒牧まいえ	助教	総合診療
山本 由布	助教（寄附講座地域総合診療医学・牛久）	総合診療
細井 崇弘	助教（神栖地域医療教育センター）	総合診療
稲葉 崇	助教（寄附講座地域総合診療医学・笠間）	総合診療
大澤 亮	助教（寄附講座地域総合診療医学・北茨城）	総合診療
久野 遥加	助教（寄附講座地域総合診療医学・笠間）	総合診療
加藤 士郎	臨床教授（野木病院）	東洋医学
玉野 雅裕	臨床教授（協和中央病院）	東洋医学

## 対象疾患

**総合外来：**特定の臓器別診療科が明確でない症状（例えば原因のはっきりしない発熱、痛み、しびれ、だるさなど）、複数の症状、心理的・社会的な側面が影響していると思われる症状。

**緩和ケア外来：**がんを中心とした生命の危険がある疾患の患者さんとその御家族に対する、症状緩和、意思決定支援、療養についての調整（当院通院中の方のみの予約外来）。

**漢方外来：**症状について漢方による治療を希望する方。

**禁煙外来：**禁煙の決心をし、医師によるサポートを受けたい方。健康保険が適用されますが、これまでの喫煙本数などによって、保険適用外（自費での診療）になる場合があります。

## 診療実績

### ■ 外来診療実績

#### □ 患者数

項目	人数
患者数	3,900
初診患者数	187
紹介患者数	160
逆紹介患者数	103

#### □ 治療に関するコメント等

**緩和ケアチーム：**特に疾患の早期からつらい症状を緩和し、治療の目標を共有して、望んだ場所で快適な療養生活を送れるように支援しています。



# 病理診断科



診療科長 教授

野口 雅之

## 診療科の特徴

病理診断科は病理部内で活動しています。細胞診や組織診を通じて疾患の形態学的な最終診断を受け持ち、院内の医療の質を高度に保つ役割を担っています。患者さんに接する診療としては「病理説明外来」を行っています。病理説明外来では患者さんに対して切除材料を用いた適切な説明を行い、御自身の病気について正確に必要な理解をしていただく手助けをしています。さらに病理部と併設されている「つくばヒト組織診断センター」では院外の病理標本の診断サービスを行い、病理医の不足している地域基幹病院における質の高い病理診断をサポートしています。一方で大学病院における病理解剖を行い、死因の解明、診断の確認とともに治療の効果の判定も行っています。また病理診断科は医療事故調査制度における茨城県の病理解剖を支援しています。

## 診療領域・体制

当院の病理診断科では、呼吸器、泌尿器、消化器、循環器、生殖器、内分泌臓器、脳神経、血液、頭頸部、皮膚、骨、軟部等、ほぼすべての臓器の疾患を対象として病理組織診断・細胞診断を行っています。

原則として、患者さんに直接接して診療を行うことはありませんが、内視鏡検査や手術等により、患者さんより採取された組織検体および細胞診検体はすべて当科に集められ、組織標本ないし細胞診標本が作製されて、顕微鏡を用いた病理診断が行われます。標本作製の際には、通常のヘマトキシリン・エオジン染色や

パパニコロウ染色のほか、免疫染色、電子顕微鏡検査、遺伝子検査も行われます。これらにより、病変の形態学的診断のみならず、予後の推定や治療法の選択にも大きく貢献しています。

病理組織診断は、全検体とも、日本専門医機構認定病理専門医を含む2名以上の病理医が診断します。また、細胞診断は、1名以上の日本臨床細胞学会認定細胞検査士と1名以上の同学会認定細胞診専門医が診断します。複数の専門医の目で診ることにより精度の高い病理診断を提供しています。

また、病理診断を診療に有効活用できるよう、臨床医と治療前又は後で症例検討会を行い、臨床各診療科と密接な連携を図っています。

なお、当病理部には、つくばヒト組織診断センターが併設され、当院以外の茨城県内の中核病院から委託された病理診断も請け負っています。

当診療科では、臨床医からの依頼に応じて、死因の究明、臨床診断の確認、治療効果判定等を目的とした病理解剖も行っています。当院のみならず、茨城県内の当院以外の病院からの病理解剖も受託しています。病理解剖により得られた診断・所見は、報告書として臨床医に報告されるほか、検討会ないしCPCを開催して臨床医と共に症例検討が行われます。

## 先進医療等への取り組み

### 説明外来

患者さんの病理診断の内容を患者さん御自身に提供して正確な病状を知っていただくために、当診療科で

氏名	職名	専門分野
野口 雅之	教授	病理診断全般（専門：肺・縦隔）
長田 道夫	教授	病理診断全般（専門：腎）
高屋敷典生	准教授（水戸地域医療教育センター）	病理診断全般
坂本 規彰	講師	病理診断全般（専門：脳神経）
川西 邦夫	助教	腎生検
松岡 亮太	病院講師	病理診断全般（専門：血液リンパ腫）
河合 瞳	病院助教	病理診断全般（専門：肺）
臺 知子	研究員	病理検査（バイオバンク担当）



は「病理説明外来」を行っています。「病理説明外来」では、患者さんから採取・切除された病理検体の肉眼所見・組織所見・最終診断について、担当病理医が写真等により患者さん御自身にわかりやすく説明します。これまで、「病理説明外来」を受診した患者さんからは、御自身の疾患の状況がよくわかり、主治医から説明された治療方針が受け入れやすくなった、との声を伺っています。

病理説明外来を御希望になる患者さんは、主治医と御相談ください。

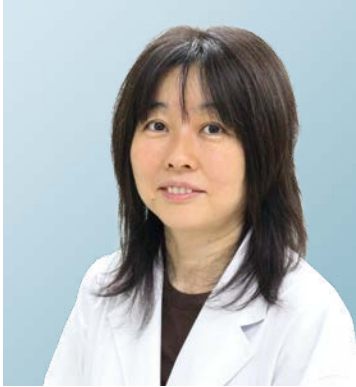
## 診療実績

■ 外来診療実績

□ 診断件数

診断名	件数
組織診断	10,838
術中迅速診断（組織診）	609
細胞診	11,010
術中迅速診断（細胞診）	100
解剖（院内）	28
解剖（院外）	16





診療科長 教授

野口恵美子

## 診療科の特徴

ヒトゲノム解読をはじめとするヒトゲノム・遺伝子解析研究の著しい進歩により、病気の原因、診断、治療法の選択に活用できるゲノム・遺伝子情報が増えました。さらに病気になる前から遺伝子情報により病気に関係する体質を明らかにして各個人に適した生活環境を整え、予防薬を服用するなどする予防医学に利用することができるようになってきています。一方、遺伝子情報はその人だけでなく御家族に関する情報でもあり、取扱いには慎重を期す必要がある側面を持っており、遺伝情報の漏洩、遺伝的差別、検査の強要などが起こらないように、倫理的諸問題にも対応できる体制を作る必要があります。

筑波大学遺伝診療科ではこのような遺伝診療について配慮して診療をしています。

そのために、1. 十分な遺伝カウンセリングを行い、2. 適切な臨床診断と遺伝学的検査、染色体検査を実施する、その際、3. 倫理的問題に十分配慮する、4. 遺伝子情報に基づいた適切な治療や予防について理解し、行動することに役立てる、ことを念頭に入れて2004年4月より診療をしています。2015年8月に遺伝診療部を開設しました。

## 診療領域・体制

近年遺伝学、ゲノム学の発展とともに、医療に遺伝学的検査や染色体検査が広く利用されるようになってきました。これらの検査は受ける御本人のみならず、その御家族、将来生まれる子どもさんにも重大な意味を持つ可能性を含んでおり、十分かつ正確な情報の提供と御本人、御家族ともに正しい理解と合意のうえ、検討する必要があります。そのために遺伝診療科では遺伝や遺伝性疾患についての相談や遺伝カウンセリングを行い、必要に応じて遺伝子診断、染色体検査の説明を行い、これらの検査を実施します。遺伝診療科の外来（遺伝外来）では臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーが遺伝カウンセリングを行うとともに、必要に応じて各専門領域の医師と連携を取りながら診療をすすめます。さらに、遺伝診療科では研究者とも協力して、病気の治療法に関する最新の研究動向についても情報提供できるようにしています。御本人や御家族の個人情報やプライバシーに関する事項は厳重に保管され外部に出ることはありません。

## 対象疾患

染色体異常、遺伝性乳がん卵巣がん症候群、先天性難聴、表皮水疱症、オスラー病、多発性内分泌腫瘍症（MEN1/MEN2）、家族性大腸ポリポーシス、Lynch症候群、遺伝性循環器疾患 他

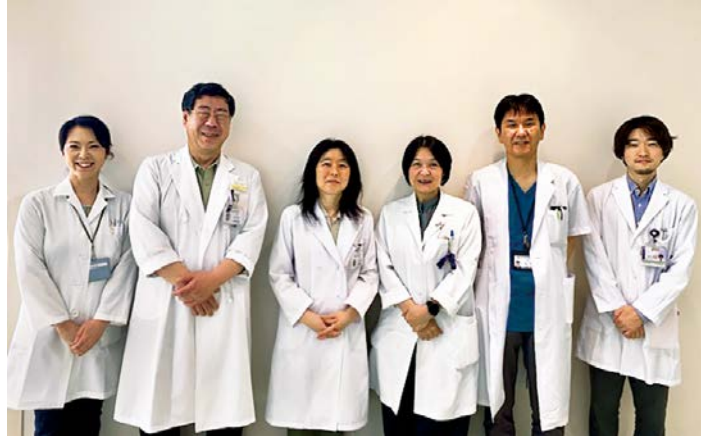
氏名	職名	専門分野
野口恵美子	教授	小児疾患、遺伝学的検査
川上 康	教授	代謝疾患、遺伝学的治療
竹越 一博	教授	代謝内分泌疾患
濱田 洋実	教授	出生前診断、胎児治療
佐藤 豊実	教授	産婦人科、腫瘍外科
坂東 裕子	准教授	乳腺外科、内分泌外科
齊藤 誠	准教授	新生児疾患
柳 久子	准教授	生活習慣病、循環器疾患
木戸口正典	登録医	耳鼻科疾患
有田 美和	認定遺伝カウンセラー・看護師	遺伝カウンセリング
小名 徹	看護師	遺伝カウンセリング

## 診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	94



診療科長 教授

人見 重美

## 診療科の特徴

感染症科は、2000年6月に活動を始めた、当院では比較的新しい診療科です。現在は外来を中心とした診療を行っていますが、他科の患者さんに対しても、必要があれば院内外からのコンサルテーションを通じ、全ての年齢層のあらゆる臓器の感染症に対し、診療上の助言を行っています。また、原因不明の発熱などの患者さんを適切な診療科に御紹介するのも、当科の大きな役割です。

## 診療領域・体制

**一般感染症：**市中・院内で生じた様々な感染症に対し、担当診療科、時に他病院とも協力しながら、診療の援助を行っています。また、原因不明の発熱患者や、特殊な病原体が見つかった場合の治療・感染対策などにも、指導・助言を行っています。

**HIV感染症：**当院はエイズ治療拠点病院であり、外来でHIV感染患者の診療を積極的に行っています。治療薬の進歩により、現在多くのHIV感染患者が、外来通院だけで治療可能となりましたが、入院が必要な場合には、症状のある部位に応じた診療科と連携をとりあいながら対応しています。また、HIV感染症の治療法は日進月歩であるため、必要に応じ近隣の基幹病院と連絡をとりながら、最新の治療を行えるよう心がけています。

**輸入感染症：**最近、留学生や海外渡航者の下痢・発熱に関する相談が増えています。治療薬が一般に入手できないこともあるので、このような薬剤の入手方法についてもアドバイスしています。

**院内感染対策：**MRSAなど院内感染対策上問題になる病原体が検出された場合には、担当医師や看護師と相談し、患者さんに対する適切な隔離・予防対応がと

れるよう助言を行っています。また院内の環境調査や、分離菌の遺伝子パターンの解析などの疫学調査も行っている他、分離した病原微生物の薬剤感受性を集計し、院内・近隣で起こる感染症にどのような薬剤が有効かを調べ、その情報を臨床現場に発信し、診療に役立ててもらっています。さらに、人工呼吸器や各種カテーテルの装着、抗がん剤療法、大きな手術など、院内感染を起こしやすい手技・治療法について、予防策の提言や指導も行っています。

## 対象疾患

感染症一般、HIV感染症、輸入感染症（マラリア、デング熱、旅行者下痢症など）、ワクチン接種（輸入ワクチンは扱っていません）

## 先進医療等への取り組み

茨城県南地区における感染症サーベイランスを、2001年より実施しています。

## 診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	926 新規HIV感染症患者数：13名/年
初診患者数	70
紹介患者数	32
逆紹介患者数	14

氏名	職名	専門分野
人見 重美	教授	感染症一般、HIV感染症、院内感染対策
栗原 陽子	病院講師	感染症一般、HIV感染症、総合内科
喜安 嘉彦	病院講師	感染症一般、HIV感染症、総合内科
亀山 明子	クリニカルフェロー	感染症一般、HIV感染症、救急診療

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	174
新入院患者数	8
平均在院日数	14.9日



# 腫瘍内科



診療科長 教授

関根 郁夫

## 診療科の特徴

悪性腫瘍は1981年以降、日本における死因の第一位で、年間36万人を超える患者さんががんのために貴い命を失っています。従来、がんに対しては各臓器別に外科手術を中心とした治療が行われてきましたが、がん薬物療法が進歩し、様々ながん腫で分子標的治療薬が使われるようになりました。それに対応するために、多くの病院で臓器横断的ながん薬物療法を行う腫瘍内科が設置されるようになりました。筑波大学附属病院腫瘍内科は、2015年4月に新しく設置されました。現在は各診療科からのコンサルテーションに対応しながら外来化学療法（点滴・内服薬）を中心とした診療を行っています。茨城県は特にがん薬物療法を専門にしている医師が少ない状況です。医学生や若い医師の教育にも力を入れていきたいと考えています。

## 診療領域・体制

臓器別診療科と協力しながら、固形がん患者を対象に診断と外来化学療法を軸においた内科診療を行っています。がんを疑っているけれども診断がつかない患者さん、がんという診断はついたけれども原発巣が分からない患者さん、肉腫などの特殊な悪性腫瘍を持った患者さん、どこの診療科へ紹介すべきか迷う患者さん、その他がんのことでお困りの患者さん、がん以外の合併症をお持ちで診療が困難な患者さんも受け入れ、他の診療科と一緒に診療にあたっています。また、標準治療が見つからないけれども体力は十分にあって、何か治療を受けたいという患者さんの場合も相談を受けています。一般的には緩和療法の適応で力になれない場合が多いですが、臨床試験を行っているがん専門病院をご紹介できる場合もあります。

## 対象疾患

固形がん一般

## 先進医療等への取り組み

がんゲノム医療への取り組みを始めました。呼吸器内科と共同で北東日本がん研究グループに所属し、肺癌に対する臨床試験に参加することになりました。また、循環器内科と共同で抗がん剤による心障害のコホート研究を開始しました。その他、筑波大学附属病院におけるがん診療の向上を目指して他の診療科と共に研究をしていきます。

## 診療実績

### ■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	548
初診患者数	34
紹介患者数	33
逆紹介患者数	9

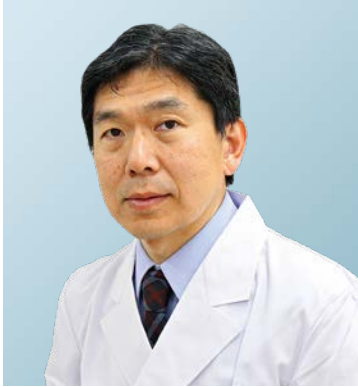
□ 治療件数

治療名	件数
外来化学療法	23

氏名	職名	専門分野
関根 郁夫	教授	臨床腫瘍、呼吸器がん
鈴木 英雄	准教授	臨床腫瘍、消化器がん
福島 紘子	講師	小児血液腫瘍
山本 祥之	病院講師	臨床腫瘍、消化器がん



# 病院総合内科



診療科長 病院教授

河野 了

## 診療科の特徴

この20年程の内科学は臓器別のスペシャリストの養成に重きを置き、その結果、ひとつひとつの病態の診断と治療は伸長を遂げ、多くの疾患の克服と平均寿命の延長を得ることができました。しかしながら、そのことが逆に、疾患や社会的な問題を多数有する患者さんを増加させているとも言われるようになり、近年では、各臓器のスペシャリストではなく幅広い領域の知識と経験で患者さんを一人の人間として診ていくことのできる診療部門の重要性が再認識されています。当院の内科はこれまで臓器別に各専門領域を診療する診療科（循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、血液内科、内分泌代謝・糖尿病内科、神経内科、膠原病・リウマチ・アレルギー内科、腫瘍内科、感染症科）により構成されてきましたが、様々な疾患の初期治療・内科救急の対応、さらには複雑な病態の患者さんを総合的に診療・マネジメントすることを目的として、2017年に病院総合内科が設立されました。既存の総合診療科がいわゆるGP（General Practitioner）でクリニックや在宅診療を主体とする家庭医や地域医療を担うプライマリケア医を目指しているのに対して、病院総合内科は入院患者を対象とした内科的総合診療と病棟運営を中心とするHospitalistを目指しています。クリニックや近隣医療機関からの紹介患者および本院の他科外来からの入院患者を、救急・集中治療科と協力して初期診療を行い、急性期には各専門内科だけでなく外科系あるいはその他の専門診療科と連携し集約的診療を行い、病状の安定化後には地域連携病院や紹介元クリニックに逆紹介を行います。アメリカではこのようなHospitalistが機能することにより患者満足度の向上、患者さんの平均在院日数の減少などが得られることが報告されています。

茨城県内の医師不足が慢性化している地域では、内科医が自分の専門領域を超えて総合医の役割を果たしている病院が多く、臓器別専門医として専門領域の診療のみを行っている内科医は少ないのが現状です。病院総合内科では、問診から始まる臨床推論、効率的な検査の選択、エビデンスに基づいた診断と治療、円滑な地域連携など入院から退院までのマネージメントを、教育機関という利点を生かして多彩な指導医のもとで学び、幅広い知識と技術をもち、患者さんの抱える多様な背景に配慮し、様々な医療現場で活躍できる研修医・専攻医の育成にも貢献します。

## 診療領域・体制・対象疾患

内科全般が対象となりますが、疾患の種類や重症度によっては各専門診療科と連携して専門的な治療を行います。外科手術を要するあるいは術後の患者さんに対し内科的アプローチで全身管理を始めとした診療を行うこともあります。特に救急・集中治療科とは密接に連携して、意識、認知機能、呼吸・循環、腎、電解質、血液・凝固、消化器、内分泌・栄養、感染、鎮痛・鎮静、リハビリテーションなどを重症病棟から一般病棟、退院・転院までトータルマネージメントを担当します。

氏名	職名	専門分野
河野 了	病院教授	内科学、循環器内科学、集中治療医学
小川 良子	講師	内科学、呼吸器内科学





診療科紹介

# 看護専門外来

名称	内容	開催日等	お問い合わせ先
母乳外来	助産師による母乳栄養等のご相談	月・火・水・金 1回2,800円	029-853-3878 (産科外来)
助産師外来	助産師による出産・育児指導	月・火・木・金	029-853-3878 (産科外来)
マタニティー ファミリークラス	助産師による妊娠・出産・育児の ご相談	土(不定期) 2,100円(3回分)	029-853-3878 (産科外来)
胎児外来	胎児異常が認められた妊婦さんや ご家族に対し、産科、小児科、助 産師等が連携しながら相談・支援 する	木午後	029-853-3878 (産科外来)
ストーマ外来	皮膚・排泄ケア認定看護師による ストーマの管理に関するご相談と 指導	水午後・金	029-853-3597 (消化器外科外来)
糖尿病外来	糖尿病療養指導士、認定看護師に よる糖尿病に関するご相談と指導	月～金	029-853-3591 (内分泌代謝・糖尿病内科外来)
腹膜透析外来	専任看護師による維持腹膜透析に 関する療養相談	木午後	029-853-3613 (腎臓内科外来)
腎代替療法相談外来	慢性腎不全患者に対する腎不全治 療の情報の提供、療養相談	随時	029-853-3613 (腎臓内科外来)
糖尿病透析予防 指導外来	糖尿病患者に対し、代謝内科医 師、糖尿病療養指導士、看護師、 管理栄養士等による糖尿病性腎症 に関するご相談と指導	随時	029-853-3591 (内分泌代謝・糖尿病内科外来)
フットケア外来	糖尿病合併症予防として、フット ケアを通じた療養生活指導	月・水	029-853-3591 (内分泌代謝・糖尿病内科外来)
外来化学療法相談外来	専門、認定看護師による化学療法 に関するご相談	随時	029-853-3600 (化学療法室)
緩和ケア外来	緩和ケアに関するご相談	月～金	029-853-3915 (総合診療科外来)
リンパ浮腫 セルフケア指導外来	術後リンパ浮腫の予防・ケアに関 するご相談 (当院で治療した方のみ)	月・火	029-853-3915 (総合診療科外来)
人工心臓外来	補助人工心臓装着患者に対して、 医師、専門看護師による療養相 談・生活指導	水	029-853-3917 (循環器内科外来)
移植(コーディネーター) 外来	移植コーディネーターによる腎(肝) 移植前後の情報提供、療養相談・ 体調管理	火	029-853-3597 (消化器外科外来)

University of  
Tsukuba  
Hospital  
Guide 2019



データ集

# 診療科 Clinical Departments

標ぼう診療科 Clinical Services Departments	診療科 Clinical Departments
内科 Internal Medicine	総合診療科 General Medicine and Primary Care 遺伝診療科 Clinical and Molecular Genetics メンタルヘルス科 Mental Health 睡眠呼吸障害科 Sleep Disordered Breathing 病院総合内科 General Internal Medicine
膠原病・リウマチ・アレルギー内科 Rheumatology	膠原病・リウマチ・アレルギー内科 Rheumatology
腎臓内科 Nephrology	腎臓内科 Nephrology
泌尿器科 Urology	泌尿器科 Urology
血液内科 Hematology	血液内科 Hematology
感染症内科 Infectious Diseases	感染症科 Infectious Diseases
呼吸器内科 Pulmonology	呼吸器内科 Pulmonology
呼吸器外科 Thoracic Surgery	呼吸器外科 Thoracic Surgery
消化器内科 Gastroenterology	消化器内科 Gastroenterology
消化器・移植外科 Gastroenterological and Transplant Surgery	消化器外科 Gastroenterological Surgery
内分泌・代謝・糖尿病内科 Metabolism and Endocrinology	内分泌代謝・糖尿病内科 Endocrinology and Metabolism
乳腺・甲状腺・内分泌外科 Endocrinal Surgery and Breast Surgery	乳腺・甲状腺・内分泌外科 Endocrinal Surgery and Breast Surgery
循環器内科 Cardiology	循環器内科 Cardiology
心臓血管外科 Cardiovascular Surgery	心臓血管外科 Cardiovascular Surgery
腫瘍内科 Medical Oncology	腫瘍内科 Medical Oncology
脳神経内科 Neurology	神経内科 Neurology
脳神経外科 Neurosurgery	脳神経外科 Neurosurgery
脳卒中科 Stroke Treatment	脳卒中科 Stroke Treatment
精神科 Psychiatry	精神神経科 Psychiatry
小児内科 Pediatrics	小児内科 Pediatrics
小児外科 Pediatric Surgery	小児外科 Pediatric Surgery
産科 婦人科 Obstetrics and Gynecology	産科・婦人科 Obstetrics and Gynecology
救急科 Emergency and Critical Care Medicine	救急・集中治療科 Emergency and Critical Care Medicine
麻酔科 Anesthesiology	麻酔科 Anesthesiology
形成外科 Plastic and Reconstructive Surgery	形成外科 Plastic and Reconstructive Surgery
整形外科 Orthopedics	整形外科 Orthopedics
リハビリテーション科 Rehabilitation	リハビリテーション科 Rehabilitation
皮膚科 Dermatology	皮膚科 Dermatology
眼科 Ophthalmology	眼科 Ophthalmology
頭頸部・耳鼻いんこう科 Otolaryngology-Head & Neck Surgery	耳鼻咽喉科 Otorhinolaryngology
腫瘍放射線科 Radiation Oncology	放射線腫瘍科 Radiation Oncology
放射線診断科 Diagnostic and Interventional Radiology	放射線診断・IVR科 Diagnostic and Interventional Radiology
病理診断科 Diagnostic Pathology	病理診断科 Diagnostic Pathology
歯科口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery	歯科・口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery

診療科 Clinical Departments
臨床病理科 Clinical Pathology

## 職員数 Number of Staff

令和元年5月1日現在 As of May 1, 2019

職 種 Category	常勤 職員 ■ ■ ■ ■ ■	非常勤 職員 ■ ■ ■ ■ ■	計 Total
教員 (医学医療系所属) Faculty Members (Faculty of Medicine)	245	0	245
病院講師 Clinical Lecturer	67	0	67
病院助教 Clinical Assistant Professor	40	0	40
研究員 Researcher	2	0	2
医員 Junior Residents	0	238	238
研修医 Senior Residents	0	74	74
クリニカル・アシスタント Clinical Assistant	0	44	44
病院登録医 Hospital Registered Doctors	0	64	64
看護師 Nurses	888	49	937
助産師 Midwives	49	4	53
保健師 Public Health Nurse	1	0	1
看護助手 Assistant Nurses	3	39	42
薬剤師 Pharmacists	61	6	67
診療放射線技師 Radiological Technologist	52	3	55
臨床検査技師 Laboratory Technicians	62	12	74
臨床工学技士 Clinical Engineers	28	1	29
理学療法士 Physical Therapists	40	1	41
作業療法士 Occupational Therapists	14	0	14
言語聴覚士 Speech-Language-Hearing Therapist	8	2	10
歯科技工士 Dental Technicians	1	2	3
歯科衛生士 Dental Hygienists	2	0	2
視能訓練士 Orthoptists	3	2	5
内視鏡技師 Endoscope Technicians	1	0	1
栄養士 Dieticians	16	1	17
調理師 Cooks	17	0	17
臨床心理士 Clinical Psychotherapists	6	0	6
精神保健福祉士 Psychiatric Social Worker	1	0	1
社会福祉士 Medical Social Workers	11	0	11
診療情報管理士 Health Information Manager	8	0	8
医療技術補助員 Medical Technicians	9	2	11
技術職員 Technical Official	27	21	48
保育士 Childcare Workers	3	1	4
事務職員 Administrative Staff	182	77	259
合計 Total	1,847	643	2,490

※事務補佐員、シニアスタッフは事務職員（非常勤）にて算出  
 ※技術補佐員、技能補佐員は技術職員（非常勤）にて算出  
 ※看護部所属の技能補佐員とシニアスタッフについては、看護助手（非常勤）にて算出  
 ※薬剤部所属の技能補佐員については、医療技術補助員にて算出（免許未取得のため）  
 ※小児総合医療センターの技術補佐員については、保育士にて算出  
 \*For Assistant Administrative Staffs and Senior Staffs, it is calculated by the figures of an Administrative Staff (part-time).  
 \*For Assistant Technical Staffs and Assistant Skilled Staffs, it is calculated by the figures of a Technical Staff (part-time).  
 \*For Assistant Skilled Staffs and Senior Staffs who belong to the Nursing Department, it is calculated by the figures of an Assistant Nurse (part-time).  
 \*For Assistant Skilled Staffs who belong to the Pharmacy Department, it is calculated by the figures of a Medical Technical Supporter (because of unachieved license).  
 \*For Assistant Technical Staffs in the Children's Medical Center, it is calculated by the figures of a Nursery Staff.

# 役職員

## Chief/Director of Clinical Services and Departments

平成31年4月1日現在 As of April 1, 2019

病院長 Director	副学長・理事 Vice President・Executive Director	原 晃 Akira Hara
副病院長（総務、医療安全、災害、危機管理） Vice Director	教授 Professor	山縣 邦弘 Kunihiro Yamagata
副病院長（診療、国際） Vice Director	教授 Professor	平松 祐司 Yuji Hiramatsu
副病院長（研究） Vice Director	教授 Professor	西山 博之 Hiroyuki Nishiyama
副病院長（教育） Vice Director	教授 Professor	前野 哲博 Tetsuhiro Maeno
副病院長（看護、患者サービス） Vice Director	看護部長 Nursing Director	小泉 仁子 Hitomi Koizumi
副病院長（特定（企画、PFI、再開発、施設）） Vice Director	教授 Professor	川上 康 Yasushi Kawakami
副病院長（特定（評価）） Vice Director	教授 Professor	玉岡 晃 Akira Tamaoka
副病院長（特定（財務）） Vice Director	病院総務部長 Director Department of University Hospital Management	三沼 仁 Hitoshi Minuma
病院長補佐（医療情報、経営戦略） Advisor to the Director	教授 Professor	大原 信 Makoto Ohara
病院長補佐（T-CReDO） Advisor to the Director	教授 Professor	荒川 義弘 Yoshihiro Arakawa

診療科長 Department Chair		
循環器内科長 Cardiology	教授 Professor	家田 真樹 Masaki Ieda
心血管外科長 Cardiovascular Surgery	教授 Professor	平松 祐司 Yuji Hiramatsu
消化器内科長 Gastroenterology	病院教授 Clinical Professor	溝上 裕士 Yuji Mizokami
消化器外科長 Gastroenterological Surgery	教授 Professor	小田 竜也 Tatsuya Oda
呼吸器内科長 Pulmonology	教授 Professor	檜澤 伸之 Nobuyuki Hizawa
呼吸器外科長 Thoracic Surgery	教授 Professor	佐藤 幸夫 Yukio Sato
腎臓内科長 Nephrology	教授 Professor	山縣 邦弘 Kunihiro Yamagata
泌尿器科長 Urology	教授 Professor	西山 博之 Hiroyuki Nishiyama
内分泌代謝・糖尿病内科長 Endocrinology and Metabolism	教授 Professor	島野 仁 Hitoshi Shimano
乳腺・甲状腺・内分泌外科長 Endocrinal Surgery and Breast Surgery	教授 Professor	原 尚人 Hisato Hara
膠原病・リウマチ・アレルギー内科長 Rheumatology	教授 Professor	住田 孝之 Takayuki Sumida
血液内科長 Hematology	教授 Professor	千葉 滋 Shigeru Chiba
精神神経科長 Psychiatry	教授 Professor	新井 哲明 Tetsuaki Arai
皮膚科長 Dermatology	病院教授 Clinical Professor	藤澤 康弘 Yasuhiro Fujisawa
小児内科長 Pediatrics	教授 Professor	高田 英俊 Hidetoshi Takada
小児外科長 Pediatric Surgery	教授 Professor	増本 幸二 Kouji Masumoto
形成外科長 Plastic and Reconstructive Surgery	教授 Professor	関堂 充 Mitsuru Sekido
神経内科長 Neurology	教授 Professor	玉岡 晃 Akira Tamaoka
脳神経外科長 Neurosurgery	病院教授 Clinical Professor	石川 栄一 Eiichi Ishikawa
脳卒中科長 Stroke Treatment	教授 Professor	松丸 祐司 Yuji Matsumaru
整形外科長 Orthopedics	教授 Professor	山崎 正志 Masashi Yamazaki
リハビリテーション科長 Rehabilitation	教授 Professor	羽田 康司 Yasushi Hada
眼科長 Ophthalmology	教授 Professor	大鹿 哲郎 Tetsuro Oshika
産科・婦人科長 Obstetrics and Gynecology	教授 Professor	佐藤 豊実 Toyomi Sato
耳鼻咽喉科長 Otorhinolaryngology	教授 Professor	田淵 経司 Keiji Tabuchi
麻酔科長 Anesthesiology	教授 Professor	田中 誠 Makoto Tanaka
歯科・口腔外科長 Oral and Maxillofacial Surgery	教授 Professor	武川 寛樹 Hiroki Bukawa
メンタルヘルス科長 Mental Health	教授 Professor	松崎 一葉 Ichiyo Matsuzaki
救急・集中治療科長 Emergency and Critical Care Medicine	教授 Professor	井上 貴昭 Yoshiaki Inoue
放射線腫瘍科長 Radiation Oncology	教授 Professor	櫻井 英幸 Hideyuki Sakurai
放射線診断・IVR科長 Diagnostic and Interventional Radiology	准教授 Associate Professor	増本 智彦 Tomohiko Masumoto

診療科長 Department Chair	教授	人見 重美 Shigemi Hitomi
感染症科長 Infectious Diseases	教授 Professor	前野 哲博 Tetsuhiro Maeno
総合診療科長 General Medicine and Primary Care	教授 Professor	野口 雅之 Masayuki Noguchi
病理診断科長 Diagnostic Pathology	教授 Professor	川上 康 Yasushi Kawakami
臨床病理科長 Clinical Pathology	教授 Professor	野口 恵美子 Emiko Noguchi
遺伝診療科長 Clinical and Molecular Genetics	教授 Professor	檜澤 伸之 Nobuyuki Hizawa
睡眠呼吸障害科長 Sleep Disordered Breathing	教授 Professor	関根 郁夫 Ikuo Sekine
腫瘍内科長 Medical Oncology	教授 Professor	河野 了 Satoru Kawano
病院総合内科長 General Internal Medicine	病院教授 Clinical Professor	

診療施設等 Clinical Facilities		
検査部・部長 Clinical Laboratory	教授 Professor	川上 康 Yasushi Kawakami
手術部・部長 Operating Room	教授 Professor	小田 竜也 Tatsuya Oda
放射線部・部長 Radiology Suite	病院教授 Clinical Professor	森 健作 Kensaku Mori
救急・集中治療部・部長 Department of Emergency and Critical Care Medicine	教授 Professor	井上 貴昭 Yoshiaki Inoue
輸血部・部長 Blood Transfusion Service	病院教授 Clinical Professor	長谷川 雄一 Yuichi Hasegawa
光学医療診療部・部長 Department of Endoscopy	病院教授 Clinical Professor	溝上 裕士 Yuji Mizokami
医療情報経営戦略部・部長 Department of Medical Informatics, Strategic Planning, and Management	教授 Professor	大原 信 Makoto Ohara
病理部・部長 Department of Pathology	教授 Professor	野口 雅之 Masayuki Noguchi
リハビリテーション部・部長 Department of Rehabilitation	教授 Professor	羽田 康司 Yasushi Hada
血液浄化療法部・部長 Department of Blood Purification	教授 Professor	山縣 邦弘 Kunihiko Yamagata
臨床医療管理部・部長 Quality Assurance and Risk Management	教授 Professor	本間 覚 Satoshi Homma
ISO・医療業務支援部・部長 Kaizen & Excellence in Hospital Operations	教授 Professor	玉岡 晃 Akira Tamaoka
病態栄養部・部長 Department of Clinical Nutrition	病院教授 Clinical Professor	鈴木 浩明 Hiroaki Suzuki
感染管理部・部長 Department of Infection Control	教授 Professor	人見 重美 Shigemi Hitomi
臨床心理部・部長 Clinical Psychology Department	教授 Professor	新井 哲明 Tetsuaki Arai
遺伝診療部・部長 Department of Clinical Genetics	教授 Professor	野口 恵美子 Emiko Noguchi
医療連携患者相談センター・部長 Medical Liaison and Patient Support Services Center	病院教授 Clinical Professor	濱野 淳 Jun Hamano
物流センター・部長 SPD Center (Supply Processing and Distribution Center)	教授 Professor	川上 康 Yasushi Kawakami
総合周産期母子医療センター・部長 Center for Maternal, Fetal and Neonatal Health	教授 Professor	佐藤 豊実 Toyomi Sato
総合臨床教育センター・部長 Center for Medical Education and Training	病院教授 Clinical Professor	瀬尾 恵美子 Emiko Seo
緩和ケアセンター・部長 Palliative Care Center	教授 Professor	関根 郁夫 Ikuo Sekine
つくばヒト組織診断センター・部長 Tsukuba Human-Tissue Diagnosis Center	教授 Professor	野口 雅之 Masayuki Noguchi
陽子線治療センター・部長 Proton Beam Therapy Center	教授 Professor	櫻井 英幸 Hideyuki Sakurai
総合がん診療センター・部長 Comprehensive Cancer Center	教授 Professor	関根 郁夫 Ikuo Sekine
医療機器管理センター・部長 ME Center	病院教授 Clinical Professor	山本 純偉 Sumii Yamamoto
小児総合医療センター・部長 Children's Medical Center	教授 Professor	増本 幸二 Kouji Masumoto
小児集中治療センター・部長 Pediatric Critical Care Unit	教授 Professor	増本 幸二 Kouji Masumoto
認知症患者医療センター・部長 Medical Center for Dementing Illnesses	教授 Professor	新井 哲明 Tetsuaki Arai
病床管理センター・部長 Clinical Bed Management Center	教授 Professor	平松 祐司 Yuji Hiramatsu
つくばヒト組織バイオバンクセンター・部長 Tsukuba Human Tissue Biobank Center	教授 Professor	西山 博之 Hiroyuki Nishiyama
国際医療センター・部長 International Medical Center	教授 Professor	平松 祐司 Yuji Hiramatsu
茨城県災害・地域精神医学研究センター・部長 Ibaraki Prefectural Center of Disaster Psychiatry	教授 Professor	太刀川 弘和 Hirokazu Tachikawa
つくば予防医学研究センター・部長 Tsukuba Preventive Medical Research Center	教授 Professor	西山 博之 Hiroyuki Nishiyama
高次救急センター・部長 Advanced Emergency Center	教授 Professor	井上 貴昭 Yoshiaki Inoue
難病医療センター・部長 Medical Center for Intractable Diseases	教授 Professor	玉岡 晃 Akira Tamaoka

<b>診療施設等</b> Clinical Facilities		
つくばスポーツ医学・健康科学センター・部長 Tsukuba Sports Medicine & Health Science Center	教授 Professor	山崎 正志 Masashi Yamazaki
栄養サポートセンター・部長 Nutrition Support Center	教授 Professor	増本 幸二 Kouji Masumoto
抗菌薬適正使用支援センター・部長 Antimicrobial Stewardship Center	教授 Professor	人見 重美 Shigemi Hitomi
歯科技工室・室長 Dental Laboratory	教授 Professor	武川 寛樹 Hiroki Bukawa
外来化学療法室・室長 Outpatient Chemotherapy	教授 Professor	関根 郁夫 Ikuo Sekine
水戸地域医療教育センター・部長 Mito Medical Center	教授 Professor	渡邊 重行 Shigeyuki Watanabe
茨城県地域臨床教育センター・部長 Ibaraki Clinical Education and Training Center	教授 Professor	島居 徹 Toru Shimazui
ひたちなか社会連携教育研究センター・部長 Hitachinaka Medical Education and Research Center	欠員 Vacancy	
日立社会連携教育研究センター・部長 Hitachi Medical Education and Research Center	教授 Professor	小松 洋治 Yoji Komatsu
土浦市地域臨床教育センター・部長 Tsuchiura Clinical Education and Training Center	教授 Professor	福田 妙子 Taeko Fukuda
つくば市バースセンター・部長 Tsukuba-city Birth Center	教授 Professor	濱田 洋実 Hiromi Hamada
神栖地域医療教育センター・部長 Kamisu Clinical Education and Training Center	教授 Professor	西 功 Isao Nishi
合同茨城県西部地域臨床教育センター・部長 Western Ibaraki Prefectural Joint Center for Clinical Education and Training	教授 Professor	山本 雅由 Masayoshi Yamamoto
古河・坂東地域医療教育センター・部長 Koga-Bando Clinical Education and Training Center	欠員 Vacancy	
茨城県小児地域医療教育ステーション・部長 Ibaraki Pediatric Education and Training Station	教授 Professor	堀米 仁志 Hitoshi Horigome
取手地域臨床教育ステーション・部長 Toride Community Medical Education Station	教授 Professor	矢藤 繁 Shigeru Yato
<b>その他の施設</b> Other Facilities		
放射線治療品質管理室・室長 Radiotherapy Quality Management Office	教授 Professor	榮 武二 Takeji Sakae
国際戦略総合特区推進室・室長 Comprehensive Special Zones for International Competitiveness Development Promotion Office	教授 Professor	西山 博之 Hiroyuki Nishiyama
ボランティア室・室長 Office for Volunteer Services	看護部長 Nursing Director	小泉 仁子 Hitomi Koizumi
総合災害・救急マネジメント室・室長 Comprehensive Disaster and Emergency Management Office	教授 Professor	山縣 邦弘 Kunihiro Yamagata
薬剤部・部長 Pharmacy Department	教授 Professor	本間 真人 Masato Homma
看護部・部長 Nursing Department		小泉 仁子 Hitomi Koizumi
病院総務部・部長 Director Department of University Hospital Management		三沼 仁 Hitoshi Minuma
総務課長 Head Division of Administrative Affairs		大貫 康司 Yasushi Onuki
経営戦略課長 Head Division of Strategic Management		荘野 典文 Norifumi Shono
管理課 Division of Accounting		古谷 一之 Kazuyuki Furuya
整備推進課 Division of Hospital Redevelopment Promotion		井上 剛一 Kouichi Inoue
患者サービス課長 Head Division of Patient Services		澤辺 康利 Yasutoshi Sawabe
品質・安全管理課長 Head Division of Quality and Safety Management		山口 剛 Takeshi Yamaguchi
<b>教育研究施設</b> Research and Education Centers		
陽子線医学利用研究センター・センター長 Proton Medical Research Center	教授 Professor	榮 武二 Takeji Sakae
陽子線医学利用研究センター先端粒子線研究戦略部門長 Division for Strategic Research in Advanced Particle Therapy	教授 Professor	櫻井 英幸 Hideyuki Sakurai
陽子線医学利用研究センター中性子捕捉療法研究開発部門長 Laboratory for Neutron Medical Research	教授 Professor	松村 明 Akira Matsumura
<b>共同利用・共同研究組織</b> Institute for Joint Usage and Research		
つくば臨床医学研究開発機構・機構長 Tsukuba Clinical Research & Development Organization	教授 Professor	荒川 義弘 Yoshihiro Arakawa

# 医療機関の指定承認状況

## 施設基準届出一覧

届出施設基準名	算定開始年月日
<b>基本診療料</b>	
地域歯科診療支援病院歯科初診料	平成22年4月1日
歯科診療特別対応連携加算	平成22年4月1日
特定機能病院入院基本料	平成28年10月1日
超急性期脳卒中加算	平成20年4月1日
診療録管理体制加算1	平成26年7月1日
医師事務作業補助体制加算1(20対1)	平成31年1月1日
急性期看護補助体制加算(50対1)	平成27年8月1日
看護職員夜間配置加算(12対1配置加算2)	平成29年4月1日
療養環境加算	平成21年7月1日
重症者等療養環境特別加算	平成19年7月1日
無菌治療室管理加算1	平成24年4月1日
無菌治療室管理加算2	平成24年4月1日
緩和ケア診療加算	平成20年4月1日
精神科身体合併症管理加算	平成20年4月1日
精神科リエゾンチーム加算	平成28年4月1日
摂食障害入院医療管理加算	平成26年9月1日
栄養サポートチーム加算	平成30年12月1日
医療安全対策加算1	平成20年4月1日
感染防止対策加算1	平成24年4月1日
感染防止対策加算1注3に掲げる抗菌薬適正使用支援加算	平成30年8月1日
ハイリスク妊娠管理加算	平成21年4月1日
ハイリスク分娩管理加算	平成21年4月1日
総合評価加算	平成23年11月1日
呼吸ケアチーム加算	平成23年5月1日
後発医薬品使用体制加算1	平成30年12月1日
病棟薬剤業務実施加算1	平成24年6月1日
病棟薬剤業務実施加算2	平成28年4月1日
データ提出加算	平成24年10月1日
入退院支援加算	平成24年6月1日
入退院支援加算注7に掲げる入院時支援加算	平成30年8月1日
精神疾患診療体制加算	平成28年11月1日
精神科急性期医師配置加算	平成28年4月1日
特定集中治療室管理料4	平成28年4月1日
特定集中治療室管理料4注4に掲げる早期離床・リハビリテーション加算	平成30年4月1日
ハイケアユニット入院医療管理料1	平成26年4月1日
脳卒中ケアユニット入院医療管理料	平成30年10月1日
総合周産期特定集中治療室管理料	平成26年10月1日
新生児治療回復室入院医療管理料	平成22年4月1日
小児入院医療管理料1	平成29年6月1日
短期滞在手術等基本料1	平成14年10月1日
<b>特掲診療料</b>	
高度難聴指導管理料	平成9年1月1日
糖尿病合併症管理料	平成20年12月1日
がん性疼痛緩和指導管理料	平成22年4月1日
がん患者指導管理料イ	平成22年4月1日
がん患者指導管理料ロ	平成26年10月1日
がん患者指導管理料ハ	平成27年3月1日
外来緩和ケア管理料	平成24年9月1日
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	平成30年1月1日
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	平成24年7月1日
糖尿病透析予防指導管理料	平成24年6月1日
乳腺炎重症化予防・ケア指導料	平成30年4月1日
院内トリアージ実施料	平成27年5月1日
外来放射線照射診療料	平成24年4月1日
ニコチン依存症管理料	平成21年3月1日
がん治療連携計画策定料	平成23年11月1日
肝炎インターフェロン治療計画料	平成22年4月1日
ハイリスク妊産婦連携指導料1	平成30年4月1日
ハイリスク妊産婦連携指導料2	平成30年4月1日
薬剤管理指導料	平成22年4月1日
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	平成28年11月1日
医療機器安全管理料1	平成20年4月1日
医療機器安全管理料2	平成23年8月1日
医療機器安全管理料(歯科)	平成23年12月1日
歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	平成22年4月1日
在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	平成29年9月1日

届出施設基準名	算定開始年月日
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	平成30年4月1日
在宅経肛門的自己洗腸指導管理料	平成30年4月1日
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	平成26年4月1日
遺伝学的検査	平成28年11月1日
精密触覚機能検査	平成31年3月1日
骨髄微小残存病変量測定	平成30年4月1日
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	平成30年6月1日
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	平成26年4月1日
検体検査管理加算IV	平成24年12月1日
国際標準検査管理加算	平成30年12月1日
遺伝カウンセリング加算	平成20年4月1日
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	平成20年4月1日
胎児心エコー法	平成22年4月1日
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	平成24年6月1日
ヘッドアップティルト試験	平成24年7月1日
皮下連続式グルコース測定	平成22年4月1日
長期継続頭蓋内脳液検査	平成20年5月1日
神経学的検査	平成20年4月1日
補聴器適合検査	平成19年4月1日
ロービジョン検査判断料	平成30年9月1日
コンタクトレンズ検査料1	平成20年4月1日
小児食物アレルギー負荷検査	平成18年4月1日
内服・点滴誘発試験	平成22年4月1日
CT透視下気管支鏡検査加算	平成29年7月1日
画像診断管理加算1	平成30年11月1日
画像診断管理加算2	平成20年4月1日
画像診断管理加算3	平成30年6月1日
遠隔画像診断	平成29年4月1日
CT撮影及びMRI撮影	平成26年4月1日
冠動脈CT撮影加算	平成21年1月1日
心臓MRI撮影加算	平成21年1月1日
乳房MRI撮影加算	平成28年4月1日
小児鎮静下MRI撮影加算	平成30年4月1日
頭部MRI撮影加算	平成30年6月1日
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成22年4月1日
外来化学療法加算1	平成21年4月1日
無菌製剤処理料	平成20年4月1日
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	平成25年10月1日
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	平成20年4月1日
運動器リハビリテーション料(I)	平成22年4月1日
呼吸器リハビリテーション料(I)	平成18年7月1日
がん患者リハビリテーション料	平成24年5月1日
歯科口腔リハビリテーション料2	平成26年6月1日
精神科ショート・ケア[大規模なもの]	平成28年8月1日
精神科デイ・ケア[大規模なもの]	平成28年8月1日
医療保護入院等診療料	平成16年4月1日
エタノールの局所注入(甲状腺)	平成22年4月1日
エタノールの局所注入(副甲状腺)	平成22年4月1日
人工腎臓	平成30年4月1日
導入期加算2及び腎代替療法実績加算	平成30年4月1日
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	平成25年8月1日
歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	平成30年5月1日
CAD/CAM冠	平成28年4月1日
有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2	平成22年4月1日
センチネルリンパ節加算	平成22年4月1日
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	平成25年7月18日
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	平成30年4月1日
腫瘍脊椎骨全摘術	平成30年1月1日
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	平成29年4月1日
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	平成20年4月1日
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	平成20年3月1日
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	平成15年1月1日
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	平成26年4月1日
緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	平成30年4月1日
網膜再建術	平成26年4月1日
人工中耳植込術	平成30年4月1日



届出施設基準名	算定開始年月日
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術、植込型骨導補聴器交換術及び人工中耳	平成19年 5月1日
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	平成26年 4月1日
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	平成26年 4月1日
内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	平成28年 4月1日
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	平成30年 4月1日
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	平成22年 4月1日
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	平成22年 4月1日
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	平成28年 4月1日
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	平成25年 7月18日
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	平成30年12月1日
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	平成30年12月1日
肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併 切除を伴うもの)に限る。)	平成28年 4月1日
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	平成30年 4月1日
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	平成27年 2月1日
胸腔鏡下弁形成術	平成30年 4月1日
経カテーテル大動脈弁置換術	平成27年 9月1日
胸腔鏡下弁置換術	平成30年 4月1日
経皮的僧帽弁クリップ術	平成31年 1月1日
経皮的中隔心筋焼灼術	平成29年 9月1日
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	平成10年 4月1日
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	平成30年 4月1日
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	平成16年 4月1日
植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	平成 8年 8月1日
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	平成20年 4月1日
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	平成10年 4月1日
経皮的循環補助法(ポンパカテーテルを用いたもの)	平成30年 4月1日
補助人工心臓	平成 6年 7月1日
小児補助人工心臓	平成28年 4月1日
植込型補助人工心臓(非拍動流型)	平成29年 4月1日
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	平成30年 4月1日
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	平成28年 4月1日
腹腔鏡下肝切除術	平成28年10月1日
生体部分肝移植術	平成10年 7月1日
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	平成30年 4月1日
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	平成27年12月1日
腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術	平成29年 9月1日
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	平成24年 4月1日
同種死体腎移植術	平成20年 4月1日
生体腎移植術	平成20年 4月1日
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	平成24年 4月1日
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	平成29年 7月1日
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	平成26年 4月1日
腹腔鏡下仙骨腫固定術	平成29年10月1日
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	平成30年 4月1日
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	平成30年 7月1日
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	平成26年 4月1日
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	平成30年 4月1日
胎児胸腔・羊水腔シャント術	平成26年 4月1日

届出施設基準名	算定開始年月日
胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術)	平成27年 4月1日
輸血管理料1	平成26年 4月1日
輸血適正使用加算	平成27年 8月1日
コーディネート体制充実加算	平成30年 4月1日
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	平成24年 6月1日
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	平成27年 4月1日
歯周組織再生誘導手術	平成28年11月1日
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	平成24年 6月1日
麻酔管理料(Ⅰ)	平成22年 4月1日
麻酔管理料(Ⅱ)	平成22年 4月1日
放射線治療専任加算	平成16年 9月1日
外来放射線治療加算	平成20年 4月1日
遠隔放射線治療計画加算	平成30年 4月1日
高エネルギー放射線治療	平成14年 4月1日
1回線量増加加算	平成26年 4月1日
強度変調放射線治療(IMRT)	平成23年 9月1日
画像誘導放射線治療加算(IGRT)	平成22年 4月1日
体外照射呼吸性移動対策加算	平成24年 4月1日
定位放射線治療	平成20年11月1日
定位放射線治療呼吸性移動対策加算	平成24年 4月1日
粒子線治療	平成28年 4月1日
粒子線治療適応判定加算	平成28年 4月1日
粒子線治療医学管理加算	平成28年 4月1日
画像誘導密封小線源治療加算	平成28年 4月1日
保険医療機関間の連携による病理診断	平成24年 8月1日
保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	平成26年 6月1日
保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	平成26年 6月1日
病理診断管理加算2	平成26年10月1日
悪性腫瘍病理組織標本加算	平成30年 4月1日
クラウン・ブリッジ維持管理料	平成10年 1月1日
入院時食事療養	
入院時食事療養(Ⅰ)	平成18年 4月1日



# 診療実績 Clinical Activities

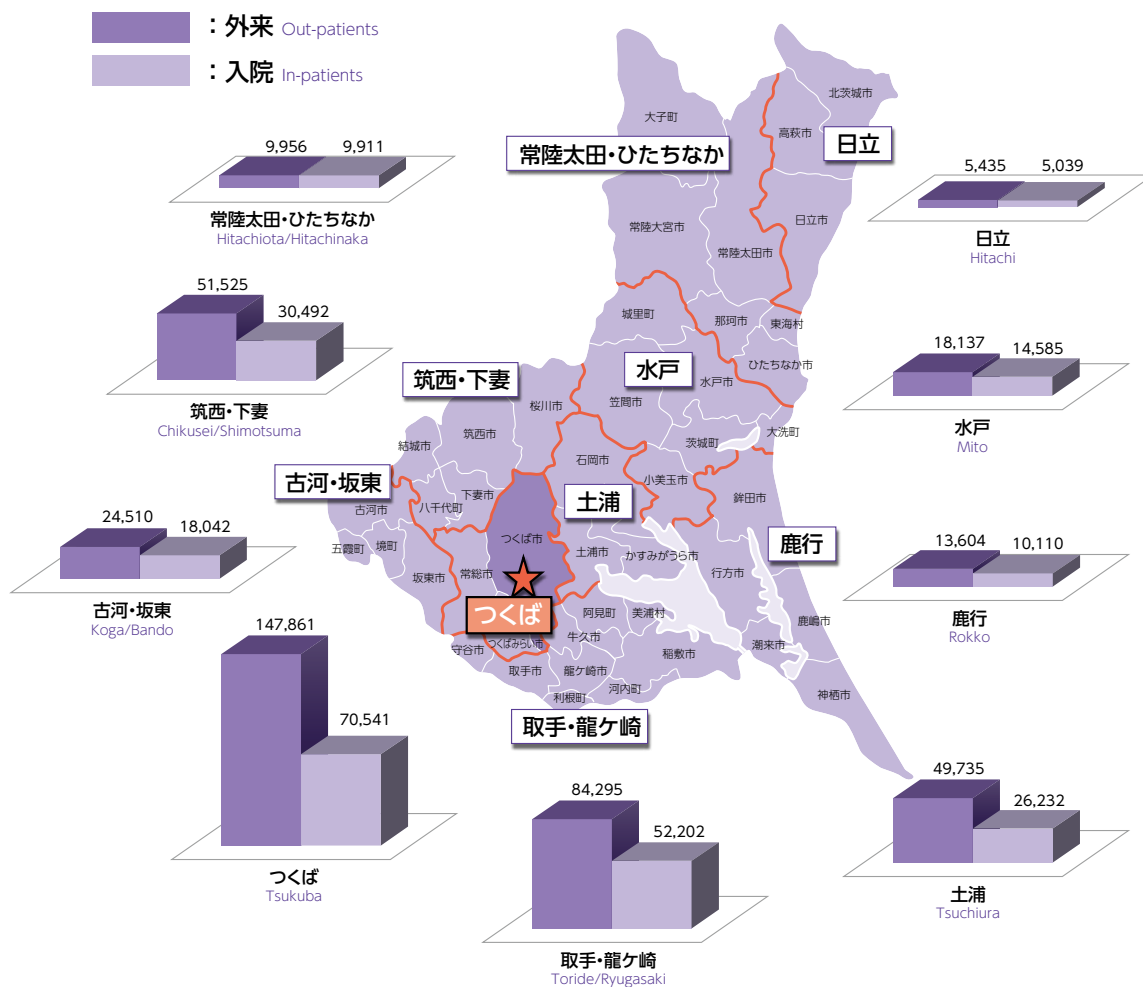
## 1. 患者数 Number of Patients

平成30年度 2018

### ①診療科別 By departments

区分 Categories	外来 (244日) Out-patients		入院 (365日) In-patients	
	延数 Total Number	1日平均数 Average/Day	入院 Total Number	1日平均数 Average/Day
循環器〈内〉 Cardiology	21,716	89.0	13,883	38.0
循環器〈外〉 Cardiovascular Surgery	3,710	15.2	7,148	19.6
消化器〈内〉 Gastroenterology	24,786	101.6	14,958	41.0
消化器〈外〉 Gastroenterological Surgery	12,864	52.7	12,985	35.6
呼吸器〈内〉 Pulmonology	10,992	45.0	10,307	28.2
呼吸器〈外〉 Thoracic Surgery	3,353	13.7	4,461	12.2
腎泌尿器〈内〉 Nephrology	10,296	42.2	6,373	17.5
腎泌尿器〈外〉 Urology	15,780	64.7	10,413	28.5
内分泌代謝・糖尿病〈内〉 Endocrinology and Metabolism	15,530	63.6	5,298	14.5
乳腺・甲状腺・内分泌〈外〉 Endocrinal Surgery and Breast Surgery	16,320	66.9	4,222	11.6
膠原病リウマチアレルギー内科 Rheumatology	19,219	78.8	8,503	23.3
血液 Hematology	13,636	55.9	16,201	44.4
精神神経 Psychiatry	21,158	86.7	8,931	24.5
皮膚 Dermatology	19,205	78.7	5,171	14.2
小児〈内〉 Pediatrics	17,097	70.1	19,612	53.7
小児〈外〉 Pediatric Surgery	6,040	24.8	4,821	13.2
形成 Plastic and Reconstructive Surgery	5,938	24.3	3,838	10.5
脳神経〈内〉 Neurology	10,470	42.9	9,220	25.3
脳神経〈外〉 Neurosurgery	7,180	29.4	10,548	28.9
脳卒中 Stroke Treatment	1,116	4.6	8,312	22.8
整形 Orthopedics	36,277	148.7	16,232	44.5
眼 Ophthalmology	31,666	129.8	8,713	23.9
婦人・周産期 Obstetrics and Gynecology	34,389	140.9	22,748	32.5
耳鼻咽喉 Otorhinolaryngology	12,469	51.1	7,226	19.8
麻酔 Anesthesiology	5,835	23.9	81	0.2
歯・口腔 Oral and Maxillofacial Surgery	13,052	53.5	3,071	8.4
保健衛生外来 Preventive Medicine	1,125	4.6	0	0.0
救急・集中治療 Emergency and Critical Care Medicine	4,945	20.3	10,381	28.4
放射線腫瘍科 Radiation Oncology	23,527	96.4	5,108	14.0
放射線診断・IVR Diagnostic and Interventional Radiology	141	0.6	0	0.0
細菌学的診断〈感染症〉 Infectious Diseases	926	3.8	174	0.5
総合 General Medicine and Primary Care	3,900	16.0	0	0.0
病理診断 Diagnostic Pathology	0	0.0	0	0.0
臨床病理 Clinical Pathology	0	0.0	0	0.0
遺伝 Clinical and Molecular Genetics	94	0.4	0	0.0
睡眠呼吸障害 Sleep Disordered Breathing	1	0.0	0	0.0
腫瘍内科 Medical Oncology	548	2.2	0	0.0
病院総合内科 General Internal Medicine	1	0.0	0	0.0
リハビリテーション科 Rehabilitation	5,489	22.5	0	0.0
つくばスポーツ医学・健康科学センター Tsukuba Sports Medicine & Health Science Center	1,915	7.8	0	0.0
合計 Total	432,706	1,773.4	258,939	709.4

②医療圏別 By medical care zones



2. 病床数 Number of Beds

平成31年 4月 1日現在 As of April 1, 2019

病棟 Ward	一般病棟 General Ward				精神病棟 Psychiatric Ward		合計 Total	
	特定入院病床 Special Admission		一般病床 General Units		精神病床 Psychiatric Ward			
	単位 Unit	床 Beds	単位 Unit	床 Beds	単位 Unit	床 Beds	単位 Unit	床 Beds
B棟 5階 Building B 5F			1	37			1	37
6階 6F			2	76			2	76
7階 7F					1	41	1	41
8階 8F			1	37			1	37
けやき棟 2階 KEYAKI Building 2F	2	48					2	48
5階 5F	3	36	1	26			4	62
6階 6F	1	44	1	30			2	74
7階 7F			2	88			2	88
8階 8F			2	88			2	88
9階 9F			2	88			2	88
10階 10F	1	6	2	80			3	86
11階 11F			2	75			2	75
合計 Total	7	134	16	625	1	41	24	800

一般病棟=759床 精神病棟=41床 合計=800床  
 General ward: 759 beds Psychiatric ward: 41 beds Total: 800 beds

### 3. 臨床検査 Clinical Examinations

区分 Categories	件数 Number		
	入院 In-patients	外来 Out-patients	合計 Total
一般検査 Urinalysis	40,244	86,526	126,770
血液学的検査 Hematology	250,962	240,843	491,805
生化学的検査 Biochemistry	565,316	721,738	1,287,054
内分泌的検査 Endocrinology	33,727	141,461	175,188
免疫学的検査 Immunology	143,283	229,114	372,397
微生物的検査 Bacteriology	41,880	11,399	53,279
生理学的検査 Physiology	139,825	187,553	327,378
採血・採液等 Specimen Processing	10,980	111,191	122,171
その他検査 Others	10,690	13,012	23,702
内視鏡検査 Endoscopy	2,347	10,299	12,646
合計 Total	1,239,254	1,753,136	2,992,390

### 4. 放射線検査 Radiographic Examinations

区分 Categories	件数 Number		
	入院 In-patients	外来 Out-patients	合計 Total
一般撮影 (単純) X-ray Radiography	34,009	49,700	83,709
一般撮影 (造影) Contrast Radiography	1,845	1,290	3,135
X線撮影 X-ray Examination	24,475	558	25,033
X線CT検査 X-ray computed tomography	6,265	11,379	17,644
MRI検査 Magnetic Resonance Imaging	3,103	5,602	8,705
核医学検査 Nuclear Medicine	850	1,626	2,476
放射線治療 Radiotherapy	8,760	10,339	19,099
治療計画 Radiotherapy Planning	562	568	1,130
PET/CT PET/CT	0	0	0
合計 Total	79,869	81,062	160,931

### 5. 麻酔 Anesthesia

区分 Categories	件数 Number
全身麻酔 General anesthesia	6,172
局所麻酔 Local anesthesia	9,862
合計 Total	16,034

### 6. 手術 Operations

区分 Categories	件数 Number
循環器 (内) Cardiology	1,724
循環器 (外) Cardiovascular Surgery	1,126
消化器 (内) Gastroenterology	1,224
消化器 (外) Gastroenterological Surgery	1,064
呼吸器 (内) Pulmonology	28
呼吸器 (外) Thoracic Surgery	304
腎泌尿器 (内) Nephrology	95
腎泌尿器 (外) Urology	934
内分泌代謝・糖尿病 (内) Endocrinology and Metabolism	9
乳腺・甲状腺・内分泌 (外) Endocrinal Surgery and Breast Surgery	657
膠原病リウマチアレルギー内科 Rheumatology	21
血液 Hematology	63
精神神経 Psychiatry	5
皮膚 Dermatology	796
小児 (内) Pediatrics	366
小児 (外) Pediatric Surgery	475
形成 Plastic and Reconstructive Surgery	743
脳神経 (内) Neurology	23
脳神経 (外) Neurosurgery	634
脳卒中 Stroke Treatment	330
整形 Orthopedics	1,564
眼 Ophthalmology	2,610
婦人・周産期 Obstetrics and Gynecology	1,819
耳鼻咽喉 Otorhinolaryngology	916
麻酔 Anesthesiology	2
歯・口腔 Oral and Maxillofacial Surgery	3,371
保健衛生外来 Preventive Medicine	0
救急・集中治療 Emergency and Critical Care Medicine	1,141
放射線腫瘍科 Radiation Oncology	109
放射線診断・IVR Diagnostic and Interventional Radiology	0
細菌学的診断 (感染症) Infectious Diseases	1
総合 General Medicine and Primary Care	0
病理診断 Diagnostic Pathology	0
臨床病理 Clinical Pathology	0
遺伝 Clinical and Molecular Genetics	0
睡眠呼吸障害 Sleep Disordered Breathing	0
リハビリテーション科 Rehabilitation	8
つくばスポーツ医学・健康科学センター Tsukuba Sports Medicine & Health Science Center	2
合計 Total	22,164

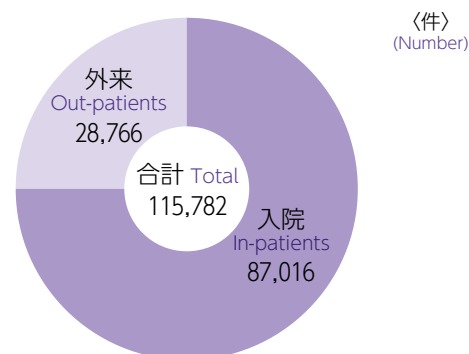
## 7. 分娩 Deliveries

区分 Categories	件数 Number		合計 Total
	成熟児 Mature Infants	未熟児 Premature Infants	
正常分娩 Normal Deliveries	553	110	663
異常分娩 Abnormal Deliveries	259	116	375
合計 Total	812	226	1,038

## 8. 調剤処方および薬剤業務 Prescriptions and medicines

区分 Categories	合計 Total	
入院処方せん枚数 Number of prescriptions for hospitalized patients	182,653枚	
外来処方せん枚数	23,946枚	
院内 In the hospital	177,255枚	
院外 Outside of the hospital	177,255枚	
院外処方せん発行率 (%) Rate of prescriptions issued outside of the hospital (%)	88.1%	
注射処方せん枚数 入院 Number of injection prescriptions for hospitalized patients	119,573枚	
薬剤管理指導料 算定件数 Number of drug control guidance fees (calculated number of cases)	23,040件	
無菌製剤処理料 算定件数 Number of sterile preparations processed (calculated number of cases)	19,342件	
注射薬混合件数 Number of injection admixtures	抗悪性腫瘍剤 Antineoplastic drugs	17,416件
	中心静脈栄養剤 Total parenteral nutrition	5,819件
	その他 Others	15,329件
病棟薬剤業務実施加算 算定件数 Inpatient pharmaceutical services (calculated number of cases)	45,119件	
特定薬剤治療管理料 算定件数 Treatment administration charges for specified drugs (calculated number of cases)	6,136件	

## 9. リハビリテーション Rehabilitation Service



## 10. 病理解剖 Pathologic autopsies

区分 Categories	合計 Total
死亡患者数 Number of dead patients	386
病理解剖件数 Number of pathologic autopsies	28
受託解剖数 Number of commissioned autopsies	16
剖検率 Autopsy rate	7.3(%)

## 11. 敷地・建物 Campus・Buildings

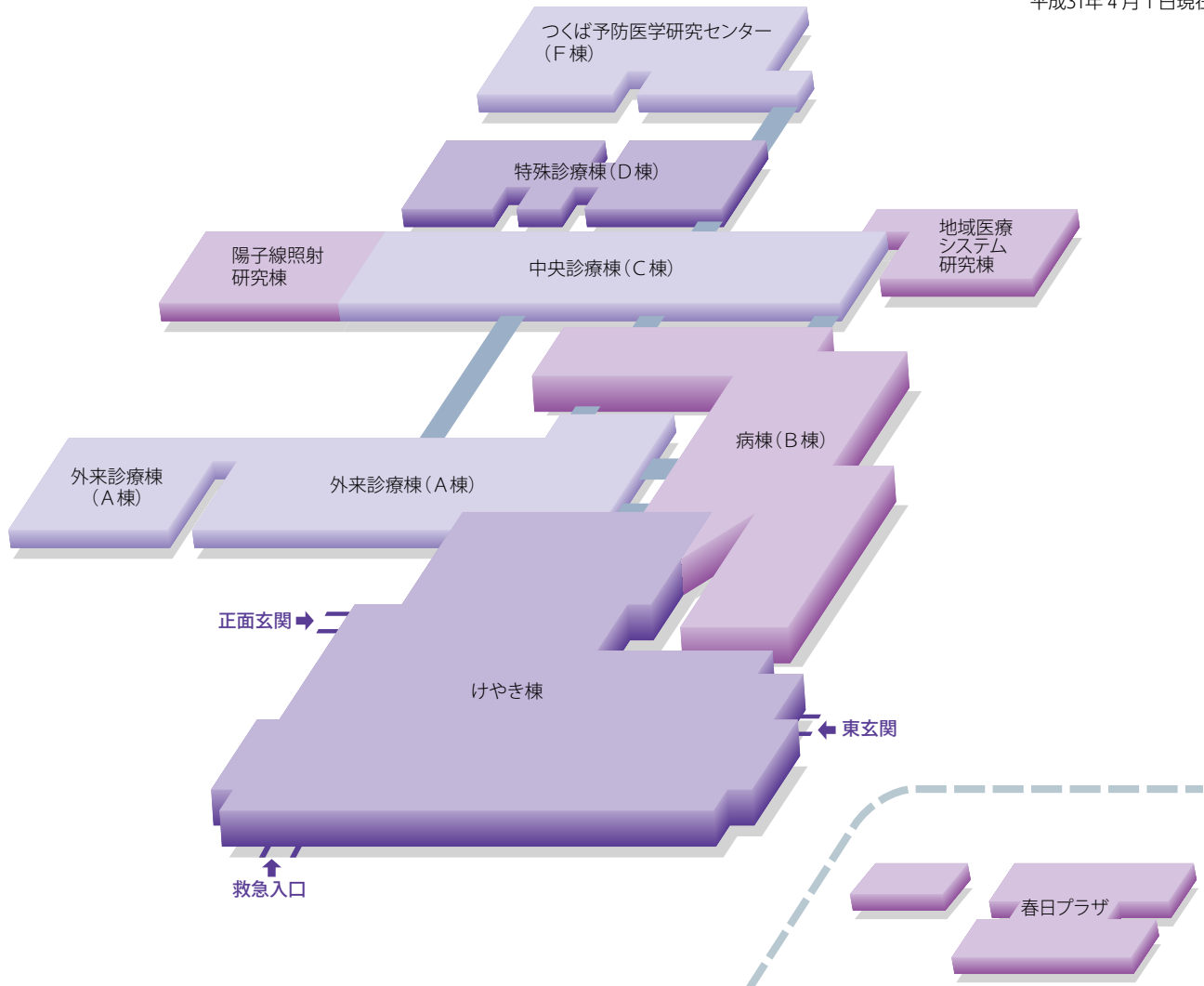
平成31年 4月1日現在 As of April 1, 2019

敷地面積 = 104,036㎡ (賃貸借5,900㎡含む) Total area					
建物 (構造 = 鉄筋鉄骨コンクリート) Buildings					
棟名 Building name	規模 Size	建築面積 Building floor space	総床面積 Total ward floor space	備考 Remarks	
A棟 (外来棟) Building A (Outpatient clinic)	地上4階 地下1階 Four floors and one basement	2,314.00 ㎡	10,743.00 ㎡		
A棟 (新外来棟) Building A (New outpatient clinic)	地上4階 Four floors	995.00 ㎡	3,233.00 ㎡		
B棟 (病棟) Building B (Ward)	地上12階 地下1階 Twelve floor and one basement	2,626.00 ㎡	29,977.00 ㎡		
C棟 (中央診療棟) Building C (Diagnostic and treatment facilities)	地上5階 地下1階 Five floors and one basement	2,508.00 ㎡	13,763.00 ㎡		
D棟 (特殊診療棟) Building D (Radiation oncology)	地上2階 Two floors	1,031.00 ㎡	1,489.00 ㎡		
F棟 (つくば予防医学研究センター) Building F (Tsukuba Preventive Medical Research Center)	地上1階 One floor	809.00 ㎡	809.00 ㎡		
陽子線医学利用研究センター Proton Medical Research Center	地上4階 Four floors	2,142.00 ㎡	5,278.00 ㎡		
地域医療システム研究棟 Regional Medical Network System Research Center	地上2階 Two floors	450.00 ㎡	825.00 ㎡		
けやき棟 KEYAKI Building	地上12階 地下1階 Twelve floors and one basement	7,122.00 ㎡	45,746.00 ㎡		
春日プラザ KASUGA Plaza	地上4階 (倉庫含む) Four floors	1,332.00 ㎡	4,252.00 ㎡	賃貸借	
計 Total		21,329.00 ㎡	116,115.00 ㎡		
看護師宿舎 1号 Nurses' residence No. 1	地上5階 Five floors	553.00 ㎡	2,160.00 ㎡	50室	50 rooms
2号 No.2	地上8階 Eight floors	258.00 ㎡	1,705.00 ㎡	39室	39 rooms
3号 No.3	地上5階 Five floors	319.00 ㎡	1,520.00 ㎡	38室	38 rooms
5号 No.5	地上5階 Five floors	285.00 ㎡	1,134.00 ㎡	25室	25 rooms
6号 No.6	地上5階 Five floors	174.00 ㎡	796.00 ㎡	22室	22 rooms
7号 No.7	地上5階 Five floors	734.00 ㎡	3,192.00 ㎡	100室	100 rooms
病院宿舎 (旧看護師宿舎 4号) Hospital accommodation	地上8階 Eight floors	252.00 ㎡	1,700.00 ㎡	39室	39 rooms
レジデント宿泊施設 1号 Residents and fellows accommodation facility 1	地上6階 Six floors	271.00 ㎡	1,293.00 ㎡	46室	46 rooms
2号 Residents and fellows accommodations facility 2	地上4階 Four floors	666.00 ㎡	2,026.00 ㎡	64室	64 rooms
計 Total		3,512.00 ㎡	15,526.00 ㎡	423室*	423 rooms*
合計 Grand total		24,841.00 ㎡	131,641.00 ㎡		

\* = うち看護師宿舎室数は、313室 \* = Of which 313 rooms are nurses' residences

# 建物配置図 Building Layout

平成31年 4月 1日現在



屋階 2F		屋上ヘリポート、機械室							
屋階 1F		機械室、設備機器置場	高置水槽						
12F		展望ラウンジ	機械室						
11F		病床75床(一般)							
10F		病床86床(一般、SCU)							
9F		病床88床(一般)	国際戦略総合特区推進室、つくば臨床医学研究開発機構(T-CreDO)						
8F		病床88床(一般)	病床37床(一般)						
7F		病床88床(一般)	病床41床(精神)、認知症疾患医療センター						
6F		病床(小児・無菌)	病床76床(一般)						
5F		病床62床(NICU、GCU、MFICU、産科)	病床37床(一般)	機械室					
4F	機械室	医療情報経営戦略部、機械室	ISS	国際医療センター、成人支援室、看護部				つくば市経済部	
3F	外来診療	食堂	手術部	総務課、整備推進課、管理課、品質・安全管理課、難病医療センター、臨床医療管理部	検体検査、病理部、輸血部、THDC				
2F	外来診療	外来診療	病床48床(ICU:成人、ICU:小児、HCU)、血液浄化療法部、医療情報経営戦略部	看護部、総合がん診療センター	機能検査、リハビリテーション部、光学医療診療部		地域医療システム研究開発室	デイケア	
1F	外来診療	外来診療	救急部、画像診断(MRI、CT、一般)、薬剤部、けやきプラザ	患者サービス課、医療連携患者相談センター、つくば臨床医学研究開発機構(T-CreDO)、経営戦略課	X線診断、核医学	放射線治療	つくば予防医学研究センター	総合臨床教育センター、スキルスラボセンター	シミュレーションラボ
B F		給食、倉庫	物流センター、機械室、電気室	物流センター	洗濯室、解剖室、機械室				
	A棟	けやき棟	B棟	C棟	D棟	F棟	地域医療システム研究棟	春日プラザ	

# アクセスマップ

Access Map

## ① つくばエクスプレス (TX) ご利用の場合

- 秋葉原駅～つくば駅 (快速45分)
- つくば駅 (A3出口) 隣  
つくばセンターからバス約5～10分  
【つくばセンターバスターミナル6番のりば】(関東鉄道)  
▶ 「つくばセンター～筑波大学循環(右回り)」  
▶ 「筑波大学中央」行き  
→ いずれも「筑波大学病院入口」で下車  
▶ 「筑波大学病院」行き → 終点で下車

## ③ 高速バスご利用の場合

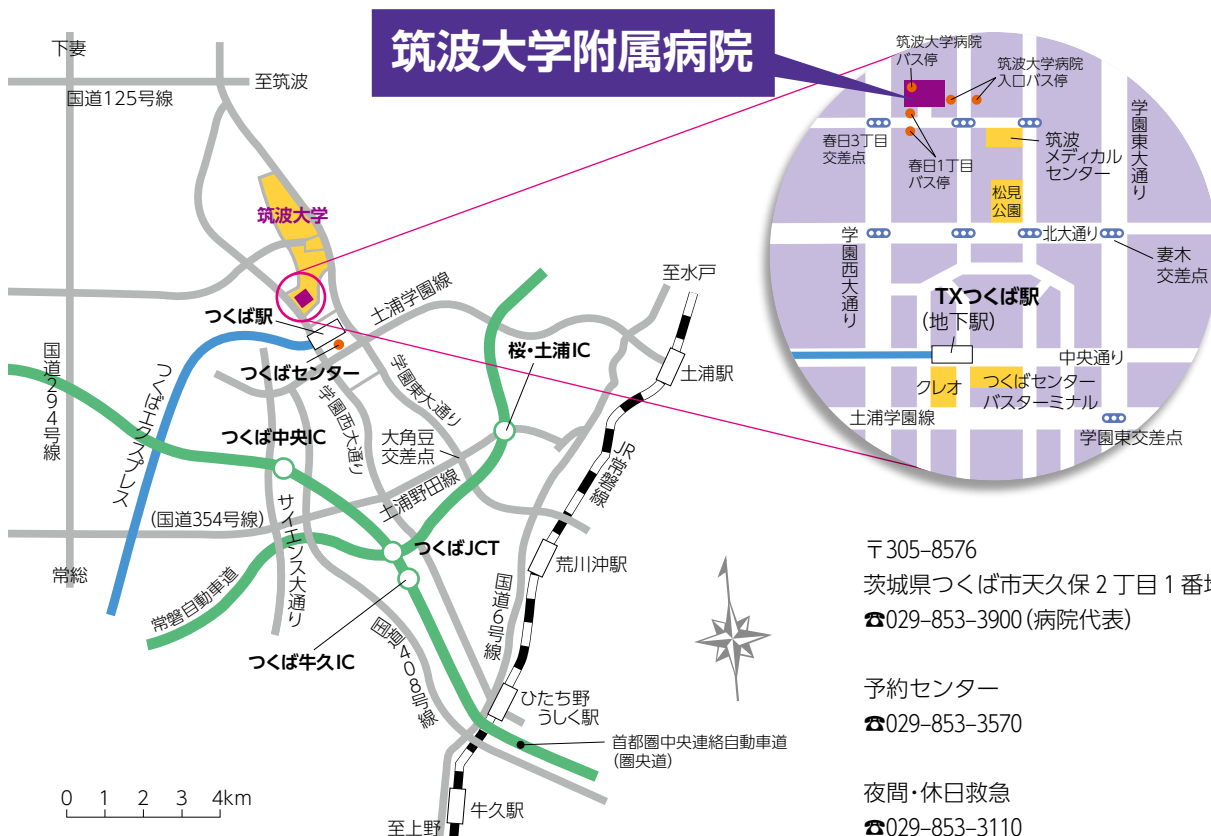
- 東京駅から約70分  
【東京駅八重洲南口2番のりば】  
▶ 「筑波大学(中央)」行き → 「筑波大学病院入口」で下車  
又は「つくばセンター」行き → 終点で下車し、乗り換え(①に同じ)

## ② JR常磐線ご利用の場合

- 土浦駅からバス約30分  
【西口3番のりば】  
▶ 「筑波大学中央」行き → 「筑波大学病院入口」下車  
又は「つくばセンター」行き → 終点で下車し、乗り換え(①に同じ)
- 荒川沖駅からバス約35分  
【西口4番のりば】  
▶ 乗車バスの行き先等は、土浦駅の場合に同じ。
- ひたち野うしく駅からバス約35～45分  
【東口1番のりば】  
▶ 乗車バスの行き先等は、土浦駅の場合に同じ。

## ④ 自動車ご利用の場合

- 常磐自動車道 「桜・土浦IC」から  
▶ つくば方面出口から大角豆(ささぎ)交差点を右折、東大通りの妻木(さいき)交差点を左折、北大通りを進み、2つ目の信号を右折、次の信号を左折
- 首都圏中央連絡自動車道(圏央道) 「つくば牛久IC」から  
▶ つくば方面出口から稲岡交差点を左折、西大通りを直進し、春日3丁目交差点を右折
- 国道6号線 ひたち野うしく駅近く、西大通り入口から  
▶ 西大通りの春日3丁目交差点を右折



編集・発行

## 筑波大学病院総務部総務課

〒305-8576 茨城県つくば市天久保2丁目1番地1  
TEL 029-853-3900 (病院代表)  
<http://www.hosp.tsukuba.ac.jp>



PS B007 150001